

CA Identity Manager™

ユーザ コンソール デザイン ガイド

12.6.4



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報であり、CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載されたすべての商標、商号、サービス・マークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA CloudMinder™ Identity Management
- CA ディレクトリ
- CA Identity Manager™
- CA Identity Governance (旧 CA GovernanceMinder)
- CA SiteMinder®
- CA User Activity Reporting
- CA AuthMinder™

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: ユーザ コンソールのカスタマイズ	11
デフォルトのユーザ コンソール	11
タスク、タブおよび画面	13
ユーザ コンソールのカスタマイズ	14
第 2 章: タスクのナビゲーション	15
タスクベースのナビゲーション	15
オブジェクトベース ナビゲーション	17
オブジェクトベース ナビゲーションの設定	18
タスクのカテゴリ	20
自動タスク キャンセルの無効	21
タスク フロー	22
独立タスク タブの設定	24
ウィザードとしてのタスクの設定	25
タブシーケンスの設定	26
第 3 章: プロファイル タブとプロファイル画面の設定	27
プロファイル タブとプロファイル画面	27
プロファイル画面のカスタマイズ	28
プロファイル画面の変更	29
フィールドの追加または削除	31
プロファイル画面のフィールド プロパティ	32
フィールドのスタイル	39
[デートピッカー] のオプション	41
[オブジェクトセレクタ] のオプション	43
構造型属性の表示	46
フィールド オプションの入力方法	50
フィールド入力方法の選択方法	51
フィールド オプションにおける簡易リストの使用	53
セレクト ボックス データ	55
フィールド オプションにおける JavaScript の使用	68
フィールド オプションにおけるロジカルアトリビュートハンドラの使用	69
[組織] フィールドの動的な作成	71

フィールド表示プロパティの動的な変更方法	72
動的なフィールドの表示プロパティの設定	73
画面定義のロジカルアトリビュート	74
画面定義のロジカルアトリビュートの追加	75
[サブミット済みタスクの表示] の画面定義のロジカルアトリビュート	76
プロファイル画面の追加コンポーネント	76
セパレータ属性のオプション	77
プロファイル画面へのバイナリ属性または画像の追加	78
ページセクションの追加	81
ネストタスクの追加	83
プロファイル画面へのヘルプテキストの追加	84
履歴エディタフィールドの追加	86
[履歴表示] フィールドの追加	87
タスクレベルの検証の設定	88
ロールのユーザ定義のカスタム属性	89
ロールの [プロファイル] タブにおけるカスタム属性の設定	90
検索画面の定義へのカスタム属性の追加	91

第 4 章: [アカウント] タブの設定 93

[アカウント] タブ	93
[アカウント] タブを使用するための前提条件	94
[アカウント] タブのフィールド	94
[アカウント] タブのその他の機能	95

第 5 章: [検索] 画面および [リスト] 画面 97

検索画面設定	97
[検索] 画面の変更	97
検索フィルタ	99
検索フィールドと検索結果	102
検索画面のユーザ定義ヘルプ	105
検索画面のタイプ	105
リスト画面	108
タスク リストの追加	110
検索画面とリスト画面の追加タスク	113
検索画面およびリスト画面へのタスクの追加	114

第 6 章: セルフサービス タスク 117

CA Identity Manager のセルフサービス タスク	117
--	-----

セルフサービス タスクの設定方法.....	118
自己登録タスクの設定.....	119
自己登録ユーザのデフォルトの組織の設定.....	120
確認質問と回答の追加.....	120
忘れたパスワードのリセットおよび忘れたユーザ ID タスクの設定.....	122
忘れたパスワードのリセット タスク.....	122
忘れたユーザ ID タスク.....	122
[忘れたパスワードのリセット] タスクまたは [忘れたユーザ ID] タスクのカスタマイズ.....	123
ユーザ確認の質問と回答のペアの収集.....	123
忘れたパスワードのリセットまたは忘れたユーザ ID タスクの設定.....	124
識別画面の設計.....	125
確認画面の設計.....	126
[忘れたパスワードのリセット] タスクまたは [忘れたユーザ ID] タスクのロック.....	129
ユーザがパスワードをリセットする方法を決定する.....	131
忘れたユーザ ID を取得する方法の決定.....	132
[ログアウト] ページ.....	132
ログアウト ページの設定.....	133

第 7 章: ユーザ コンソールのブランド設定 135

スキン.....	135
スキンのコンポーネント.....	136
CA Identity Manager スキン.....	137
スキンの関連付け.....	140
スキンの作成方法.....	140
既存のスキンのコピー.....	141
スキン画像の更新.....	142
スキンの色およびフォントの更新.....	142
.properties ファイルの変更.....	142
index.jsp ファイルの変更.....	143
.jsp ファイルの再コンパイルおよびアプリケーション サーバの再起動.....	144
複数のスキンの使用方法.....	144
スキンの優先順位付け.....	145
スキン レスポンスの作成.....	146
コンソール ページの編集方法.....	147
CA Identity Manager ユーザ コンソールのヘッダの変更方法.....	148
フッタの変更および表示方法.....	149

第 8 章: カスタム ヘルプ 151

カスタム ヘルプの動作方法.....	151
カスタム ヘルプの形式.....	152
カスタム ヘルプ式.....	152
ヘルプが使用するリンクの決定方法.....	153
ヘルプのカスタマイズ方法.....	154
カスタム ヘルプの使用法の例.....	154
例: ヘルプのカスタマイズ.....	155
例: Wiki ヘルプの作成.....	155
例: ヘルプのローカライズ.....	156
例: ヘルプの多言語化.....	156

第 9 章: CA Identity Manager のローカライゼーション 159

概要.....	159
リソース バンドル.....	159
ローカライズされた CA Identity Manager 環境のサンプル.....	162
国際文字セットの使用上の制限.....	163
ローカライズのサポートの設定方法.....	164
ローカライズ前提条件.....	165
CA SiteMinder Web エージェントの設定.....	167
JBoss server.xml の変更.....	168
PATH 変数の設定.....	168
ローカライズ環境サンプルの使用法.....	169
カスタム ローカライズ ファイルの作成方法.....	172
電子メール テンプレートの翻訳.....	172
スキンのブランディングのローカライズ方法.....	173
[マイ アカウントの変更] タスクの変更.....	173
カスタム コードのローカライズ.....	173
別の言語での CA Identity Manager 表示方法.....	174
言語切り替えを有効にする.....	175
CA SiteMinder レスポンスでの imlanguage HTTP ヘッダの設定.....	175

第 10 章: 検証ルール 177

検証ルール概要.....	177
検証ルールについて.....	177
検証ルールのタイプ.....	178
検証ルールセット.....	179
検証ルール定義の基本.....	180

デフォルト検証ルールの使用	181
デフォルト データ検証	181
事前定義済み検証ルール	184
カスタム検証ルールの実装方法	184
正規表現の実装	184
JavaScript の実装	185
Java の実装	188
例外	190
検証ルールの設定方法	192
タスク レベル検証の設定方法	193
ディレクトリ レベル検証の設定方法	194
検証の開始方法	199
実装のサンプル	200
付録 A: デフォルト タブのリスト	201
付録 B: CA Identity Manager JSP をコンパイルします。	207

第 1 章: ユーザ コンソールのカスタマイズ

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[デフォルトのユーザ コンソール \(P. 11\)](#)

[ユーザ コンソールのカスタマイズ \(P. 14\)](#)

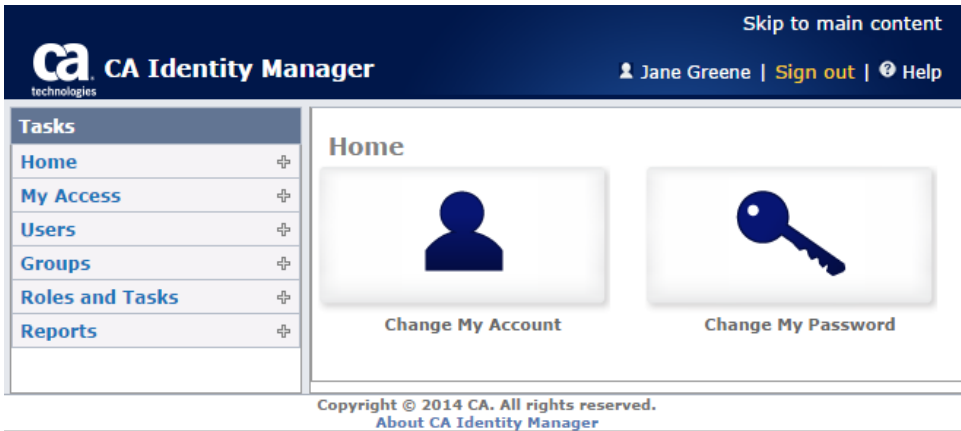
デフォルトのユーザ コンソール

環境を構築すると、CA Identity Manager により、環境を管理するために使用するデフォルトのユーザ コンソールが作成されます。ユーザ コンソールには、デフォルトのタスクおよび管理ロールのセットが含まれています。

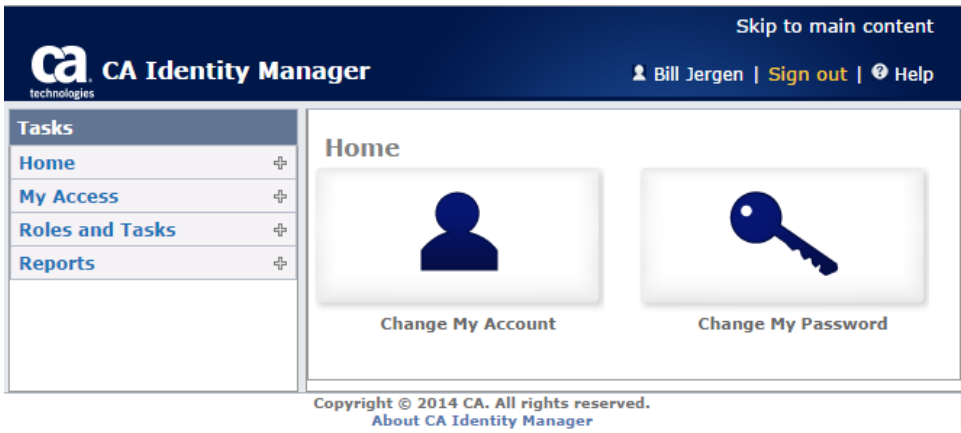
- タスクは、CA Identity Manager ユーザによって実行されるアクションです。以下に示す 2 種類のタスクがあります。
 - 管理タスク。ユーザ、組織、グループ、ロール、タスクの管理に使用します。
 - 外部タスク。ユーザ属性をレポーティング アプリケーションに渡すなど、ビジネス アプリケーションで機能します。
- 管理ロールは、ユーザおよび権限を CA Identity Manager またはその他のアプリケーションに関連付けます。ロールは、タスクにより構成されます。あるロールをもつユーザは、そのロールのタスクを実行できます。ユーザは、複数のロールをもつ場合があります。たとえば、1 人のユーザが、会計士と従業員のロールをもつことがあります。

管理ロールは、管理タスクにより構成されます。

CA Identity Manager 環境にログインしたときに表示されているタスクの種類は、所有している管理ロールにより異なります。以下に示す例では、ユーザ、Jane Green は、ユーザ マネージャ ロールを持っています。彼女の画面には、ユーザ マネージャが使用できる管理タスク用のカテゴリが表示されています。



この例では、Bill Jergen は、ロール マネージャ ロールを持っています。彼がユーザ コンソールにログインすると、彼が使用できるタスクを含むカテゴリの様々なセットが表示されます。



注: タスクおよびロールの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

タスク、タブおよび画面

管理タスクは、CA Identity Manager のユーザにより実行される管理機能です。管理タスクは、一連のフィールドまたは機能を論理的にグループ化したタブにより構成されます。たとえば、[ユーザの変更] タスクには、デフォルトで以下のタブが含まれます。

- プロファイル
- アクセス ロール
- 管理ロール
- プロビジョニング ロール
- グループ

管理者がこのタスクを使用する際には、適切なタブを選択して、プロフィール情報の入力、ロールの管理、グループのメンバシップの管理を行います。

1つのタブが、複数のタスクに関連付けられていることがあります。

以下の図は、複数のタブがある管理タスクの例です。

The screenshot shows the 'User Change: liang' task interface. At the top, there is a dark blue header with the text 'ユーザの変更: liang'. Below the header, there are five tabs: 'プロフィール' (Profile), 'アクセス ロール' (Access Roles), '管理ロール' (Management Roles), 'プロビジョニング ロール' (Provisioning Roles), and 'グループ' (Groups). The 'プロフィール' tab is currently selected. Below the tabs, there is a legend: '● = 必須項目' (Red dot = Required item). The form contains several fields: '組織' (Organization) with the value 'Dealer', 'ユーザ ID' (User ID) with the value 'liang', and '有効' (Active) with a checked checkbox. Below these are three name-related fields, each with a red dot indicating they are required: '名' (First Name) with 'liang', '姓' (Last Name) with 'liang', and 'フル ネーム' (Full Name) with 'liang'.

また、タブは設定可能な画面に関連付けられている場合があり、その画面を使用してタブの外観や内容を決定できます。デフォルトのタブを変更するには、タブに関連付けられている画面を修正するか、新規画面を作成します。

1つの画面が、複数のタブに関連付けられていることがあります。

詳細情報:

[デフォルト タブのリスト \(P. 201\)](#)

ユーザ コンソールのカスタマイズ

通常、CA Identity Manager 環境を構築した後は、システム管理者は、その環境が既存のビジネス上のニーズに確実に対応できるよう何らかの初期設定を行います。また、ユーザ コンソールのカスタマイズを行うと、(ユーザ ワークフローに合致するタスクを作成することにより) 使い勝手が良くなり、(ユーザが必要なフィールドのみにアクセスできるようにすることにより) セキュリティが強化され、パフォーマンスが向上します。

ユーザ コンソールでは、以下に示すエレメントをカスタマイズできます。

- タスク ナビゲーション—管理者のタスクへのアクセス方法、これらのタスクのさまざまなタブへのアクセス方法を決定します。
- タブおよび画面—タブに表示されるフィールドおよびこれらのフィールドの表示方法を制御します。

デフォルトのユーザ コンソールの管理タスクは、ディレクトリ設定ファイル (`directory.xml`) の情報に基づいて作成されます。ディレクトリ設定ファイルでは、CA Identity Manager により管理されるオブジェクトおよび属性を定義します。たとえば、デフォルトの [ユーザの作成] タスクの [プロフィール] タブには、ユーザ オブジェクト用の `directory.xml` ファイルで定義されるすべての属性が含まれています。

ほとんどのユーザは、任意のオブジェクトに対して、属性の 1 つのサブセットのみを管理する必要があります。

- セルフサービス タスク—パスワード忘れ関連タスクまたはユーザ ID タスク忘れ関連タスクなど、セルフ サービス タスクをどのように機能させるかを決定します。
- ブランド化—ユーザ コンソールにコーポレート ロゴ、コーポレート カラーを表示します。
- ローカライズ—ユーザ コンソールをさまざまな言語で表示します。
- カスタム オンライン ヘルプ—カスタマイズしたあるタスクまたはタブに固有のオンライン ヘルプを提供できます。

第 2 章: タスクのナビゲーション

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[タスクベースのナビゲーション](#) (P. 15)

[オブジェクトベースナビゲーション](#) (P. 17)

[タスクのカテゴリ](#) (P. 20)

[タスクフロー](#) (P. 22)

タスクベースのナビゲーション

CA Identity Manager で、アクションを実行するには、タスクとそのタスクを実行するオブジェクトを選択します。たとえば、ユーザプロフィールを変更する場合、そのタスクは「ユーザの変更」であり、オブジェクトは変更するユーザプロフィールです。

CA Identity Manager では、以下に示す 2 つのタスクおよびオブジェクトの検索方法を提供しています。

- タスクベースのナビゲーション
- オブジェクトベースナビゲーション

タスクベースのナビゲーションでは、カテゴリおよびタスクを選択し、次にそのタスクを適用するオブジェクトを検索します。

たとえば、ユーザのプロファイルを変更するには、[ユーザ] カテゴリを選択し、[ユーザの変更] タスクを選択します。次に、変更するユーザを検索します。

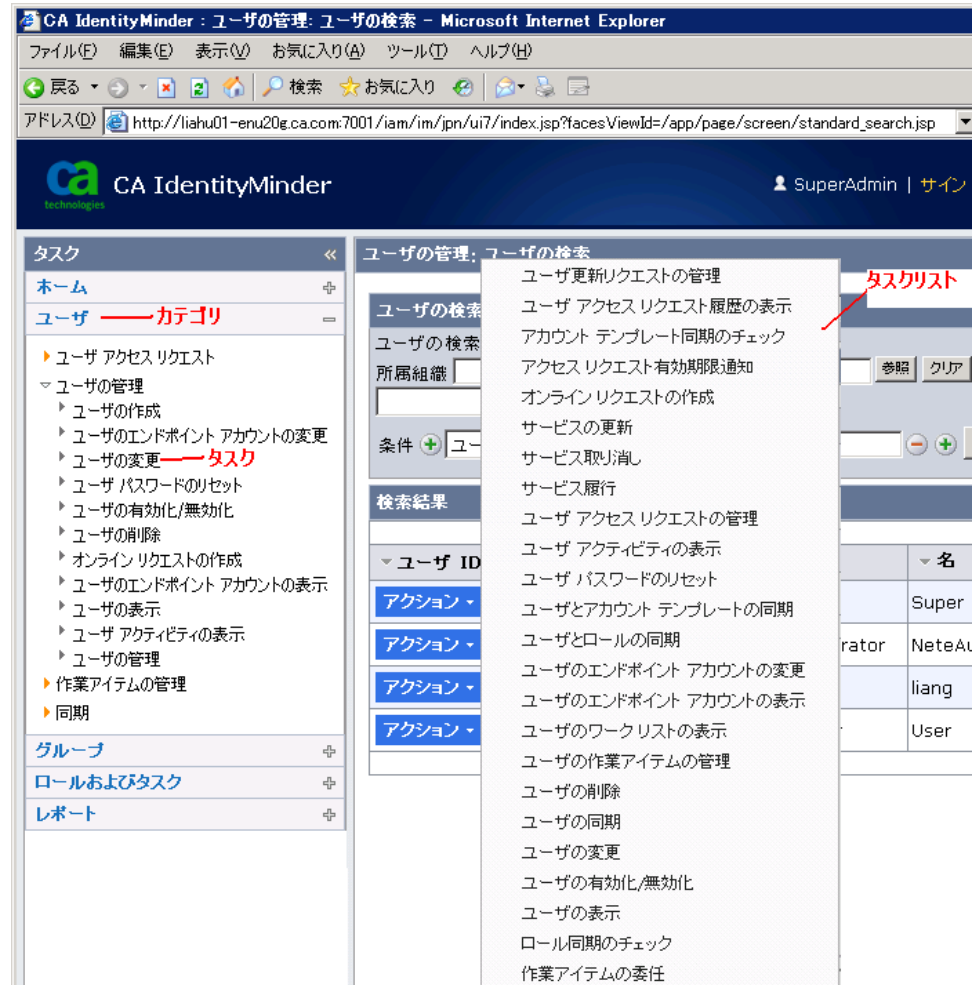
以下の図は、ユーザ コンソールのカテゴリとタスクの例です。

The screenshot shows a web application interface for user management. On the left is a vertical navigation pane titled 'タスク' (Tasks). It contains several expandable sections: 'ホーム' (Home), 'ユーザ — カテゴリ' (Users — Categories), 'ユーザ アクセシブルリクエスト' (User Accessible Requests), 'ユーザの管理' (User Management) which is expanded to show a list of tasks including 'ユーザの作成' (Create User), 'ユーザのエンドポイント' (User Endpoints), 'ユーザの変更' (Change User), 'ユーザ パスワード' (User Password), 'ユーザの有効化/無効化' (User Activation/Deactivation), 'ユーザの削除' (Delete User), 'オンラインリクエストの作成' (Create Online Request), 'ユーザのエンドポイント アカウ' (User Endpoint Account), 'ユーザの表示' (View User), 'ユーザ アクティビティの表示' (View User Activity), and 'ユーザの管理' (Manage User); '作業アイテムの管理' (Manage Work Items), and '同期' (Sync). Below these are 'グループ' (Groups) and 'ロールおよびタスク' (Roles and Tasks). The main content area is titled 'ユーザの変更: ユーザの選択' (Change User: Select User). It features a search section 'ユーザの検索' (Search Users) with a text input for 'ユーザの検索' (Search Users), a dropdown for '所属組織' (Affiliation Organization), and buttons for '参照' (Reference) and 'クリア' (Clear). Below this is a search criteria section with a plus button, a dropdown for 'ユーザ ID' (User ID), an equals sign, another dropdown, an asterisk, a minus button, and buttons for '検索' (Search) and 'クリア' (Clear). The '検索結果' (Search Results) section is currently empty, showing only the header 'ユーザの検索' (Search Users).

タスクベースのナビゲーションは、デフォルトのナビゲーション方法です。ユーザが、オブジェクトで単一のアクションを実行する可能性が高い場合には、タスクベースのナビゲーションを使用します。

オブジェクトベース ナビゲーション

オブジェクトベース ナビゲーションでは、ユーザがオブジェクトを選択すると、そのオブジェクトに対して実行できるすべてのタスクがポップアップメニューで表示されます。メニューから、使用するタスクを選択できます。タスクが完了すると、オブジェクトを再検索することなく、ポップアップメニューから別のタスクを選択できます。



たとえば、この方法を使用してユーザを変更するには、[ユーザ] カテゴリを選択後、[ユーザの管理] タスクを選択します。管理するユーザを検索して選択します。検索結果の中からアイコンをクリックすると、その選択したユーザの管理に使用できるタスクのリストが表示されます。このリストから [ユーザの変更] や他の適切なタスクを選択できます。

以下の図は、ポップアップ タスク メニューの例です。

ユーザが、1つのオブジェクトに対して複数のアクションを実行することがある場合は、オブジェクトベース ナビゲーションの実装を考慮してください。

CA Identity Manager には、オブジェクトベース ナビゲーション用に設定された以下のデフォルト管理タスクが含まれています。

- ユーザの管理
- グループの管理
- 組織の管理
- 管理ロールの管理/管理タスクの管理
- アクセス ロールの管理
- プロビジョニング ロールの管理

また、リストと検索結果画面にポップアップ タスク メニューを追加して、既存のタスクでオブジェクトベース ナビゲーションを有効にすることもできます。たとえば、[管理ロールメンバの変更] タスクにオブジェクトベース ナビゲーションを追加すると、ロールメンバごとにポップアップ タスク メニューが表示されます。管理者はタスク メニューを使用して、ロールメンバごとに新しい検索を実行することなく、ロールメンバを管理できます。

オブジェクトベース ナビゲーションの設定

オブジェクトベース ナビゲーションに設定されるタスクには、検索画面のみが含まれます。管理するオブジェクトを検索し、ポップアップ タスク メニューを使用して、そのオブジェクトに対して実行できるすべてのタスクを表示します。

オブジェクトベース ナビゲーションを設定する場合、以下の点にご注意ください。

- [プロファイル] タブ上の管理タスクのアクションは [検索] です。
- 管理タスクにタブを含めることはできません。
- すべての管理タスクでオブジェクトベース ナビゲーションを使用するように設定する場合、これらの操作をサポートするために、検索画面に [作成] ボタンと [削除] ボタンを追加します。 [作成] および [削除] のアクションは、ポップアップ タスク メニューではサポートされません。

オブジェクト タスク ナビゲーションを設定する方法

1. 以下のいずれかの操作を実行します。
 - [ロールおよびタスク] - [管理タスク] から [管理タスクの変更] を選択します。変更する管理タスクを検索して選択します。
 - [ロールおよびタスク] - [管理タスク] から [管理タスクの変更] を選択します。次に、[管理タスクのコピーの作成] を選択し、コピーするタスクを検索します。

注: 設定を単純化するには、[ユーザの管理] など、既存の管理タスクのコピーを作成します。デフォルトの管理タスクには、オブジェクトタスクナビゲーションに必要な設定が含まれます。

選択したタスクを設定するタブが **CA Identity Manager** に表示されます。

2. 必要に応じて [プロファイル] タブを設定します。[検索] するタスクの [アクション] を設定します。
3. [検索] タブを選択し、[参照] をクリックしてそのタスクの検索画面を設定します。

CA Identity Manager により、このタスクを適用できる検索画面のリストが表示されます。

4. 必要な検索画面を選択します。

注: 設定を単純化するには、[ユーザ管理の検索] など、同じオブジェクトタイプの既存の管理検索画面定義のコピーを作成します。デフォルトの管理検索画面は、オブジェクトタスクナビゲーションをサポートするように設定されています。

5. 必要に応じて検索画面の設定画面のフィールドに入力します。

注: オブジェクトを作成したり、複数のオブジェクトを削除するタスクをメニューに含めたくない場合は、検索画面にこれらのタスクを起動できるボタンを表示するよう設定できます。また、メニューのこれらのタスクは非表示にすることができます。

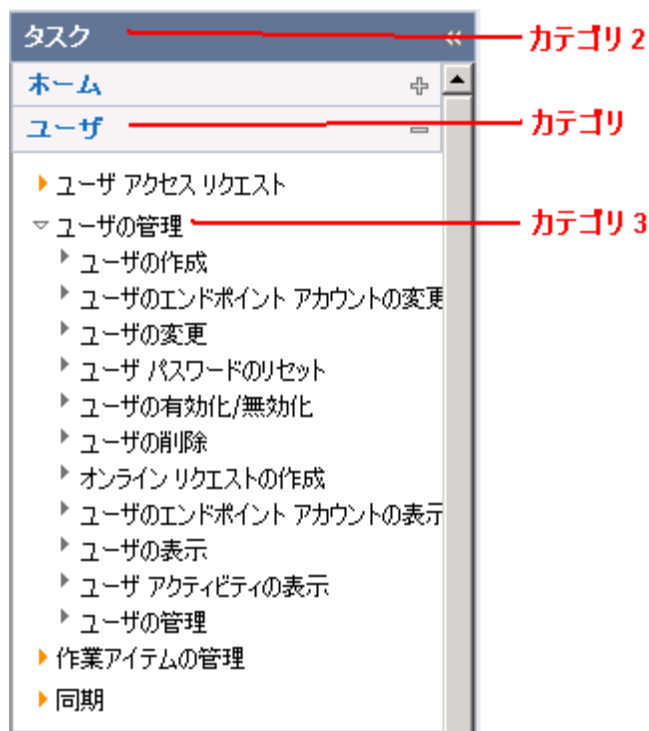
タスクのカテゴリ

タスクのカテゴリを使用してタスクを整理すると、ユーザ コンソールで簡単にタスクの場所を特定することができるようになります。

以下の3つのタスク カテゴリを指定できます。

- 「カテゴリ」は、タスクをグループ化する最も一般的な方法です。通常、カテゴリ レベルは、ユーザなど、タスクが適用されるオブジェクトのタイプを示します。
- 「カテゴリ (2)」は、トップレベルのカテゴリの名前を決定します。デフォルトでは、これは「タスク」になっています。
- 「カテゴリ (3)」は、必要な場合に追加のグループ化レベルを提供します。たとえば、契約者用にタスクをグループ化するためにカテゴリ 3 の名前を使用することができます。

各カテゴリ内では、カテゴリ順を指定して、カテゴリ内のアイテムを表示する順序を制御できます。たとえば、次の図では、[従業員] タブには3というカテゴリ順が指定されています。



注: カテゴリに複数のタスクが含まれる場合、各タスクのプロファイルに指定するカテゴリ順は同じにしてください。カテゴリ順が異なると、そのカテゴリ タブは複数表示されます。たとえば、[従業員] カテゴリに [従業員の作成] と [従業員の変更] という2つのタスクが含まれるとします。[従業員の作成] タスクのカテゴリ順が3で、[従業員の変更] タスクのカテゴリ順が6の場合、[従業員] カテゴリは2つのタブに表示されます。

自動タスク キャンセルの無効

ユーザ コンソールで、あるユーザが新しいタスク カテゴリ タブを選択すると、CA Identity Manager によりタスク ペインのアクティブなタスクがキャンセルされます。ユーザがそのアクティブなタスクに対して変更を行った場合には、ユーザにキャンセルの確認を求めるメッセージが表示されます。たとえば、あるユーザが [ユーザの変更] タスクを使用して情報に対する変更を行い、次に、[ユーザの変更] で行った変更をサブミットする前に、[ホーム] タブにアクセスを試みた場合、CA Identity Manager により、そのタスクがキャンセルされることをユーザに伝え、ユーザに確認を促す通知が表示されます。

アクティブなタスクのキャンセルや確認メッセージの表示なしに管理者が新しいタスク カテゴリ タブを選択できるように **CA Identity Manager** を設定できます。この場合、新しいカテゴリ タブを選択すると、左側のナビゲーションペインに、そのカテゴリのタスクのメニューが表示されますが、アクティブなタスクはそのままの状態です。ユーザが新しいタスクを選択すると、アクティブなタスクは、通知されることなくキャンセルされます。

新しいタブに切り替える前に **CA Identity Manager** がタスクをキャンセルしないよう、このデフォルトの動作を変更するには、管理コンソールにユーザ定義のプロパティを追加します。

デフォルトの動作を変更する方法

1. 管理コンソールを開きます。
2. [環境] を選択し、次に変更する環境を選択します。
[環境プロパティ] ページが表示されます。
3. [詳細設定] - [その他] を選択します。
4. 以下に示す値を入力し、[追加] をクリックします。
 - プロパティ : `ConsoleDisableAutoTaskCancel`
 - 値 : `True`
5. [保存] をクリックします。
6. 環境を再起動します。

タスクフロー

CA Identity Manager では、管理タスクは機能を論理的にグループ化した複数のタブにより構成されています。たとえば、[ユーザの変更] タスクには、[プロファイル] タブ、[管理ロール] タブ、[グループ] タブが含まれています。タスクフローを使用すると、ユーザが管理タスクの使用時に 1 つのタブから別のタブへ移動する方法を決定することができます。

CA Identity Manager では、以下に示す 3 つのタスク フローを提供しています。

- 独立タブ - ユーザは、このタブを任意の順番で使用できます。
- ウィザード - ユーザは、ウィザード インターフェイスの指示に従い、タブ間を移動します。
- シーケンス - ユーザが、タスクで 1 つのタブの入力を完了すると、CA Identity Manager により自動的に次のタブが表示されます。

シーケンス タブのフロー オプションでは、[カスタマイズされたロジック](#) (P. 26)を使用した、動的なページフローをサポートしています。

タスク フローは、タブ コントローラにより決定されます。管理タスクの作成または変更を行う場合は、[タブ] タブのタブ コントローラを指定します。

独立タスクタブの設定

デフォルトの管理タスクのタブは、タスクのその他のタブからは独立しています。ユーザは、タスク内のタブに任意の順序を指定できます。ユーザは、タスクをサブミットする前に各タブの入力を完了する必要はありません。

以下の例におけるこのタブ設定では、標準的なタブ コントローラを使用します。

The screenshot shows a web form titled "Create Contractor:". At the top, there are five tabs: "Profile", "Access Roles", "Admin Roles", "Provisioning Roles", and "Groups". The "Profile" tab is currently selected and highlighted in blue. Below the tabs, there is a legend indicating that a red dot next to a field name means "Required". The form contains the following fields:

- Organization:** A text input field with a "Browse" button to its right.
- User ID:** A text input field.
- Password:** A text input field.
- Confirm Password:** A text input field.

次の手順に従ってください:

1. ユーザ コンソールで以下のいずれかを選択します。
 - [ロールおよびタスク]。
 - [タスク] - [ロールおよびタスク]。
2. [管理タスク] - [管理タスクの変更] を選択します。
3. 変更する管理タスクを検索して選択します。
CA Identity Manager に管理タスクの変更用のタブが表示されます。
4. [タブ] タブを選択します。
5. リストボックスから [シーケンス タブ コントローラ] を選択します。
6. [サブミット] をクリックします。
タスクへの変更が CA Identity Manager に保存されます。

ウィザードとしてのタスクの設定

ウィザードタブコントローラを使用して、ウィザードとしてタスクを設定できます。このタブ設定では、管理者は、各タブを指定された順序で使用します。管理者は、1つのタブの入力を完了すると、[次へ] ボタンをクリックして、リストにある次のタブへ移動します。ウィザードの最上位にある表示には、進捗状況が示されています。また、管理者は、前に入力した画面に戻ることもできます。

ウィザードとして表示されるカスタム タスクである、[契約者の作成] の例を以下に示します。

Create Contractor: Profile

1 Profile 2 Access Roles 3 Admin Roles 4 Provisioning Roles 5 Groups

• = Required

•Organization

•User ID

Password

Confirm Password

Password Must Change

Enabled

次の手順に従ってください:

1. ユーザ コンソールで以下のいずれかを選択します。
 - [ロールおよびタスク]。
 - [タスク] - [ロールおよびタスク]。
2. [管理タスク] - [管理タスクの変更] を選択します。
3. 変更する管理タスクを検索して選択します。
選択したタスクを設定するタブが CA Identity Manager に表示されます。
4. [タブ] タブを選択します。
5. リストボックスから [ウィザードタブコントローラ] を選択します。
6. [サブミット] をクリックします。

タスクへの変更が CA Identity Manager に保存されます。

タブシーケンスの設定

あるタスクがタブシーケンスとして設定されている場合は、一度に1つのタブが、単一のページとして CA Identity Manager に表示されます。1つのタブの操作が終わって、カスタムのボタンまたはリンクをクリックすると、次のタブに移動します。

タブの順序および表示されるボタンとリンクは、[シーケンス タブ コントローラ] の設定時に記述する JavaScript のプログラムによって決まります。

カスタムの JavaScript で、ユーザ入力に基づいてタブの外観と順序を指定できます。たとえば、最初のタブで、あるオプションを選択すると、あるページが CA Identity Manager に表示されます。ユーザが別のオプションを選択すると、別のページが表示されます。

シーケンス タブ コントローラを設定する方法

1. ユーザ コンソールで、[ルールおよびタスク] - [管理タスク] - [管理タスクの変更] を選択します。
2. 変更する管理タスクを検索して選択します。
選択したタスクを設定するタブが CA Identity Manager に表示されます。
3. [タブ] タブを選択します。
4. リストボックスから [シーケンス タブ コントローラ] を選択します。
5. [Submit] をクリックします。

タスクへの変更が CA Identity Manager に保存されます。

タブコントローラ用の JavaScript の例

CA Identity Manager には、タブ表示 JavaScript とアクティブ タブ JavaScript のサンプル JavaScript ファイルが付属しています。

これらのファイルは、管理ツールがインストールされている samples¥WizardSequencerScripts ディレクトリにインストールされます。管理ツールは、以下のデフォルトの場所に配置されています。

- **Windows** : C:¥Program Files¥CA¥Identity Manager¥IAM Suite¥Identity Manager¥tools
- **UNIX** : /opt/CA/IdentityManager/IAM_Suite/Identity_Manager/tools

第 3 章: プロファイル タブとプロフィール画面の設定

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[プロフィール タブとプロフィール画面 \(P. 27\)](#)

[プロフィール画面のカスタマイズ \(P. 28\)](#)

[プロフィール画面の変更 \(P. 29\)](#)

[フィールドの追加または削除 \(P. 31\)](#)

[プロフィール画面のフィールドプロパティ \(P. 32\)](#)

[フィールドのスタイル \(P. 39\)](#)

[フィールド オプションの入力方法 \(P. 50\)](#)

[フィールド表示プロパティの動的な変更方法 \(P. 72\)](#)

[画面定義のロジカルアトリビュート \(P. 74\)](#)

[プロフィール画面の追加コンポーネント \(P. 76\)](#)

[タスク レベルの検証の設定 \(P. 88\)](#)

[ロールのユーザ定義のカスタム属性 \(P. 89\)](#)

プロフィール タブとプロフィール画面

ほとんどのタスクでは [プロフィール] タブを含めます。このタブには、タスクのプライマリ オブジェクトの属性が表示されます。プライマリ オブジェクトは、タスクによって作成、表示、または変更されるオブジェクトです。たとえば、[ユーザの変更] タスクでは、プライマリ オブジェクトはユーザです。[プロフィール] タブには、[ユーザ ID] や [姓] などのユーザ属性が含まれます。

[プロフィール] タブを設定するときに、そのタブの基本的な特性を定義し、プロフィール画面を指定します。プロフィール画面は、ユーザが見ることができるタブの部分です。タブに表示されるプライマリ オブジェクトの属性とその表示プロパティを制御します。

注: 複数のタスクの [プロフィール] タブで同じプロフィール画面を使用する場合があります。

プロフィール画面を設計する際に、その画面に適用するフィールドを選択します。フィールドは、プロフィール属性に対応する場合があります。たとえば、[ユーザの作成] タスクの [ユーザ ID] フィールドに入力した値は、ユーザのプロフィール属性に格納されます。

管理タスクの変更: ユーザの変更

プロフィール 検索 **タブ** フィールド

"プロフィール" の設定

画面定義の選択

"標準プロフィール画面" の設定

● = 必須項目

●名前 デフォルトのユーザ プロファイル

●タグ DefaultUserProfile

用途 2 レイアウト用の列。 ➔

組織

(空白)

ユーザ ID

プロフィール画面のカスタマイズ

プロフィール画面は、属性値を収集および表示するフィールドから構成されています。たとえば、ユーザ オブジェクト用のプロフィール画面には、名、姓、電子メールアドレスなどのフィールドが含まれています。また、プロフィール画面には、以下に示すオプションの構成エレメントも含まれています。

- ページセパレータ
- 画像
- 添付ファイル
- 履歴フィールド
- カスタム オンラインヘルプ テキスト
- ネストされたタスクへのリンク

CA Identity Manager 環境を構築すると、CA Identity Manager によりデフォルトのプロファイル画面が作成されます。デフォルトのプロファイル画面には、ディレクトリ設定ファイル (directory.xml) 内のそのオブジェクト用に指定されたすべての属性のフィールドが表示されます。システム管理者は、確実にビジネス要件を満たし、CA Identity Manager のパフォーマンスを最大化するために、そのデフォルトのプロファイル画面をカスタマイズする必要があります。

注: CA Identity Manager のパフォーマンスの詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

システム管理者は、以下の操作を行うことで、デフォルトのプロファイル画面をカスタマイズできます。

- プロファイル画面に表示するフィールドの決定
- フィールドのスタイルの指定
- リスト ボックスのフィールド値およびその他のフィールドのスタイルの定義
- 表示を簡略化するためのページセパレータの追加
- 画像の追加
- ファイルの添付
- 他のタスクへのリンクの追加
- カスタム オンライン ヘルプ テキストの追加

プロフィール画面の変更

以下の目的で、既存のプロファイル画面を変更できます。

- フィールドの追加または削除
- フィールド レイアウトの変更
- フィールド プロパティの編集
- プロファイル画面上の任意の場所に、タイプが HTML のセパレータを作成して、ヘルプテキストを追加できます。

プロフィール画面定義の変更方法

1. ユーザ コンソールで、[ロールおよびタスク] - [管理タスク] - [管理タスクの変更] を選択します。
2. 変更する管理タスクを検索して選択します。
選択したタスクを設定するタブが CA Identity Manager に表示されます。

3. [タブ] タブを選択し、[プロフィール] タブを選択します。
4. [画面] フィールドの横にある [参照] をクリックします。

CA Identity Manager により既存のプロフィール画面のリストが表示されます。

5. 変更またはコピーするプロフィール画面を選択し、以下のボタンのいずれかをクリックします。

- **選択**

設定しているタブに、選択した画面を追加します。

- **編集**

選択した画面のフィールド、フィールドのプロパティ、レイアウトなど、設定を変更する新しい画面が開きます。

- **削除**

選択した画面を削除します。

- **新規**

画面を作成する新しい画面が開きます。新しい画面には、デフォルトのフィールドが含まれません。

- **コピー**

既存の画面の設定を使用して、画面を作成します。既存の画面に基づいて新しい画面を作成するには、新しい名前とタグを画面に追加し、必要に応じて設定を変更します。

- **キャンセル**

タブの設定画面に戻ります。

[編集]、[新規]、または [コピー] を選択すると、CA Identity Manager によりプロフィール画面を作成または変更するための新しい画面が開かれます。

フィールドの追加または削除

デフォルトのプロファイル画面には、ディレクトリ設定ファイル (directory.xml) で使用されている順に、オブジェクトの全属性が表示されます。プロファイル画面定義の属性リスト下部にあるコントロールを使用して、フィールドを追加または削除したり、フィールドの順序を変更することができます。

フィールドの追加、削除、並べ替えを行う方法

1. [プロファイル画面を変更します](#) (P. 29)。
2. 変更するフィールドを選択してから、実行するアクションを選びます。

注: プロファイル画面でフィールドプロパティを編集するとき、以下のよう
に、複数フィールドの行を簡単に操作できます。

 - a. [確認済みの各行を別々の行に分割] をクリックして、フィールドを別々の
行に分割します。
 - b. 個別の行でフィールドを操作します。
 - c. [隣接するチェック済みの行を1つに統合] をクリックして、フィール
ドを元の単一行に戻します。
3. 値を必要とするアクションを選択した場合は、必要に応じて値を選択します。
たとえば、選択した行を3行上に移動する場合は、[チェック済み行の上へ
の移動] のリストボックスから「3」を選択します。

4. [プレビュー] をクリックして、変更内容を確認します。
CA Identity Manager により新しいウィンドウが開かれ、変更した内容が表示されます。
5. [OK] をクリックし、次に [選択] をクリックして、[管理タスクの変更] タスクに戻ります。

プロフィール画面のフィールド プロパティ

プロパティを編集するフィールドを選択します。各フィールドスタイルには異なるプロパティが含まれ、そのプロパティの表示、アクセス権、およびデフォルトが定義されています。

注: [スタイル フィールド] で選択するオプションにより、フィールド プロパティ画面で表示されるプロパティが決定されます。このリストに記載されているプロパティの一部は表示されない場合があります。

フィールドには以下のプロパティを設定できます。

- **属性名**

オブジェクトの属性の名前を指定します。

- **使用可能な値ラベル**

オプションセレクタで選択に使用できるアイテムを含むリストボックスの上に表示されるテキストを設定します。

- **チェック済み値**

チェック ボックスがオンのときのフィールド値を指定します。たとえば、[有効] フィールドのチェック済み値は **true** です。

デフォルト値は **true** です。

注: このフィールドが表示されるのは、チェック ボックススタイルが選択されている場合です。

- **列**

テキスト領域の幅（文字数）を指定します。

注: このフィールドは、テキスト領域スタイルを選択したときのみ使用可能です。

■ **CSS クラス**

このフィールドの表示を制御するカスケーディング スタイル シート クラスを指定します。

■ **CSS スタイル**

このフィールドの表示を制御するカスケーディング スタイル シート ルールを指定します。

このフィールドを使用して、フィールドの幅を設定できます。たとえば、[ドロップダウン] スタイルを使用してフィールドの幅を 300 ピクセルに設定するには、[CSS スタイル] フィールドで以下のテキストを指定します。

CSS スタイル	{width: 300px}
選択オプションのソース	簡易リスト
	オプションは別々の行に入力します。オプションは "オプション値" の形式で入力します。
選択オプション	ボストン ニューヨーク市 ポートランド サンフランシスコ

注: ドロップダウンや複数選択のボックスなど、値のリストを含むフィールドの幅は、デフォルトで自動 ({width:auto}) に設定されています。この設定では、フィールドで最も長い値に対応するサイズが設定されます。たとえば、[市区町村] オプションセレクト フィールドの最も長い値が「サンフランシスコ」の場合、オプション リストはその値全体が表示される幅に設定されません。

[CSS スタイル] フィールドを使用して、テキスト サイズや背景色など、他の表示プロパティも制御できます。

■ **現在の値ラベル**

オブジェクトセレクトで選択したアイテムを含むリスト ボックスの上に表示されるテキストを設定します。

■ **日付表示パターン**

フィールドと デートピッカー コントロールに表示される日付のフォーマットを指定します。

■ **日付保存パターン**

CA Identity Manager でユーザストアに日付を格納する方法を指定します。

- **デフォルト**

デフォルトで表示され、他の値が提供されない場合にプロフィールに格納される値を指定します。

チェック ボックスの場合、デフォルト値を有効にするには **true**、デフォルト値を無効にするには **false** を入力します。

注: デフォルト値は [作成] タスクのみに適用されます。[変更] または [表示] タスクで使用されるフィールドにデフォルト値を設定した場合、デフォルト値は画面に表示されません。

- **デフォルトの JavaScript**

JavaScript を使用してフィールドのデフォルト値を設定することができます。JavaScript を使用すると、動的に値を設定できます。たとえば、他の属性に基づいてデフォルト値を設定できます。

このフィールドは [作成] タスクにのみ使用します。

- **オートコンプリートの無効化**

Internet Explorer のオートコンプリート機能を無効にします。このチェック ボックスをオンにすると、以前の入力に基づいたフィールド値の候補が表示されなくなります。

オートコンプリート機能の詳細については、Internet Explorer のマニュアルを参照してください。

- **初期化 JavaScript**

JavaScript を使用してフィールドのデフォルト値を設定することができます。このフィールドはどのタスク タイプにも使用できます。

- **注:** このフィールドの JavaScript は、[作成] タスクの [デフォルトの JavaScript] フィールドの JavaScript の後に実行されます。

- **フィールドの幅**

フィールドの幅 (桁数) を指定します (ラベルを除きます)。

- **照合するフィールド**

CA Identity Manager により、一致する値をチェックするフィールドを指定します。この機能は、画面の 2 つのフィールドの値が一致するかどうかを確認する際に使用します。通常、このフィールドはパスワードやその他の重要な情報が正しく入力されていることを確認するために使用されます。たとえば、プロフィール画面に [パスワード] フィールドと [パスワードの確認] フィールドが含まれる場合があります。[パスワードの確認] フィールドでは、[照合するフィールド] フィールドの値は [パスワード] フィールドの値になります。

注: CA Identity Manager は、画面の 2 つのフィールドの値が一致するかどうかを確認する場合、画面定義のロジカルアトリビュートを使用します。[照合するフィールド] を表示させるには、[属性名] が (ロジカルアトリビュート画面) に設定されている必要があります。

- **右端のラベル**

フィールドの右に表示するテキストを指定します。[右端のラベル] フィールドを使用して、[プロフィール] 画面のフィールドに関する説明やヘルプテキストを提供できます。

- **ラベルの幅**

ラベルの幅 (桁数) を指定します。

- **最大長**

このフィールドに入力できる最大文字数を設定します。

- **名前**

画面内のこの属性に必要なラベルを指定します。

- **アクセス権**

フィールドの権限レベルを指定します。

注: 必須のフィールドには、[必須] の設定を選択します。画面では、必須のフィールドに点が表示されます。

- **読み取り**

管理者はフィールドを表示できますが、編集することはできません。

- **読み取り/書き込み**

管理者はフィールドの現在の値 (存在する場合) を表示でき、フィールドに値を入力できます。

- **読み取り/書き込み必須**

フィールドは必須ですが、それ以外は読み取り/書き込みの設定と同様に機能します。

- **書き込み**

管理者はフィールドの現在の値（存在する場合）を参照できませんが、フィールドに値を入力できます。

たとえば、管理者はユーザのパスワードを変更できますが、ユーザの現在のパスワードを表示することはできません。

- **ライトワンス**

1回だけ入力でき、変更はできない値です。

たとえば、管理者はユーザを作成する際に組織を指定できますが、その組織を後で変更することはできません。

- **書き込み必須**

フィールドは必須ですが、それ以外は書き込みの設定と同様に機能します。

■ **オプションなしを保存**

属性に対する既存の値が有効ではない場合、CA Identity Manager がその値を保持するかどうかを制御します。たとえば、[都道府県] フィールドには、オプションで北海道や東京都が含まれます。しかし、大阪府出身の既存のユーザがいるとします。このオプションが選択されると、CA Identity Manager により大阪府がそのユーザに対して有効なオプションであるかのように表示されます。このオプションが選択されなかった場合、CA Identity Manager によりリストの最初のオプション（北海道）が表示されます。このフィールドが必須でない場合は、その値は空白になります。

- **デフォルト**

CA Identity Manager により、ユーザは有効なオプションしか選択できなくなります。

■ **行**

ユーザ入力のテキスト領域に含める行数を指定します。

たとえば、[説明] フィールドのテキスト領域を、4行のテキストを入力できるように定義できます。

注: このフィールドは、テキスト領域スタイルを選択したときのみ使用可能です。

■ **タイムピッカーの表示**

日時を選択する際にユーザが使用できるカレンダー コントロールを表示します。

■ サイズ

フィールドのサイズを指定します。フィールドのスタイルに基づいて、数字を入力します。テキストとパスワードの場合、文字数を入力します。ドロップダウン、選択、複数選択、および複数テキストの場合、行数を入力します。

■ 選択オプションのソース

複数オプションを含むフィールドの作成方法を指定します。

- None

選択オプションに外部ソースは使用されません。

- セレクト ボックス データ

[セレクト ボックス データ \(P. 55\)](#)を使用して、フィールドのオプションが CA Identity Manager によって入力されるように指定します。

- 簡易リスト

オプションのリストをテキスト ボックスに入力できます。このオプションを選択すると、以下のフィールドが表示されます。

選択オプション

オプションは別々の行に入力します。オプションで表示値とストレージ値が別の場合は、「storage-value;display-value」の形式で入力します。

- 他のフィールドの値に依存

タスク画面上にある他のフィールドのオプションに基づいて、CA Identity Manager によってフィールドのオプションが入力されるように指定します。他のフィールドもセレクト ボックス データを使用して入力されるか、他のフィールドの値に依存する必要があります。

他のフィールドへの依存は、セレクト ボックス データの設定で定義されています。

- JavaScript

フィールドのオプションを含む JavaScript を指定します。このオプションを選択すると、以下のフィールドが表示されます。

選択オプション (JavaScript)

この JavaScript には「function getOptions(FieldContext)」というシグネチャの関数が含まれ、パイプで区切られたオプションの文字列を返す必要があります。オプションで表示値とストレージ値が別の場合は、セミコロン (;) で区切らなければなりません。

- **スタイル**

フィールドの表示方法を指定します。

[スタイル オプション](#) (P. 39)には、フィールドに選択できるスタイルが表示されます。

- **ヒントテキスト**

フィールドについて説明するテキストを指定します。テキストは、画面上の適用されるフィールドの横に表示されます。

- **チェックされていない値**

チェック ボックスがオフのときのフィールド値を指定します。たとえば、[有効] フィールドのチェックされていない値は `false` です。

デフォルト値は `false` です。

注: このフィールドが表示されるのは、チェック ボックス スタイルが選択されている場合です。

- **その他の未チェック値を許可**

チェックされていない場合、属性が空のときにユーザストアの属性値を `false` に設定します。チェックされている場合、CA Identity Manager で空の属性が許可されます。

このフィールドを使用すると、ユーザストアの空の属性は自動的に `false` に設定されます。

- **検証式**

タスク レベルの検証を実行する正規表現を指定します。

- **検証 Java クラス**

検証を実行する Java クラスの完全修飾名を指定します。以下に例を示します。

`com.mycompany.MyJavaValidator`

CA Identity Manager では、カスタム Java クラス ファイルに指定されたルート ディレクトリに、クラス ファイルが格納されていると判断します。

- **検証 JavaScript**

検証を実行する完全な JavaScript コードを指定します。

このフィールドを使用して、現在の他のフィールドの値に基づき、動的に特定のフィールドの表示/非表示や有効/無効を変更できる JavaScript コードを指定することもできます。

注: このフィールドに JavaScript コードを指定する必要があります。タスク レベルの検証では、JavaScript コードを含むファイルを参照することはできません。

フィールドのスタイル

[スタイル] フィールドを使用すると、プロフィール画面にフィールドを表示する方法を指定できます。以下のスタイルを選択できます。

注: [スタイル] フィールドで使用できるスタイルのリストは、設定しているフィールドのタイプにより異なります。定義しているフィールドのタイプの [スタイル] フィールドに、これらのオプションのうち一部が表示されない場合があります。

■ チェック ボックス

フィールド名の横に、設定を有効または無効にするチェック ボックスを追加します。たとえば、[ユーザを有効にする] フィールドにチェック ボックスを使用します。このチェック ボックスをオンにすると、そのユーザ アカウントは有効になります。このチェック ボックスをオフにすると、そのユーザ アカウントは無効になります。

■ チェック ボックスの複数選択

フィールドの各オプションの横にチェック ボックスを追加します。ユーザはオプションリストから複数のオプションを選択できます。

このフィールドは複数値属性にのみ使用します。

■ デートピッカー (41P.)

[開始日] など、日付フィールドの横にカレンダー アイコンを表示します。管理者がカレンダー アイコンをクリックするとカレンダー コントロールが表示されます。このコントロールでは目的の日付を選択できます。

■ Drop Down

ユーザがフィールドの値を選択できるようにします。1つの値のみが表示されます。ユーザが矢印をクリックすると、リストの他の値が表示されます。

リストから1つの値を選択できます。

■ Drop Down Combo (ドロップダウン コンボ)

[Drop Down] スタイルで表示される値と同じ選択肢が表示されますが、ユーザが新しい値を入力できるテキスト ボックスも追加されます。

■ グループセレクト

グループを選択するコントロールが表示されます。

■ 非表示

オブジェクトからフィールドの値を取得しますが、フィールドのラベルと値はタスク画面に表示されません。

■ 複数選択

フィールドに使用する値のリストが表示されます。

[複数選択] ボックスでは、フィールドに入力できる値がリスト ボックスに表示されます。ユーザはリストから複数の値を選択できます。

複数值属性にのみ使用します。

■ Multi-Text (複数テキスト)

ユーザがテキスト ボックスに複数の値を入力できるようにします。

複数值属性にのみ使用します。

■ オブジェクトセレクト

管理オブジェクトを選択するコントロールが表示されます。

このスタイルは、通常アカウント管理画面で使用されます。

複数值属性にのみ使用します。

■ オプションセレクト

2つのリスト ボックスが表示されます。各ボックスには、フィールドで使用可能な値と現在の値が表示されます。ユーザはボタンをクリックして現在の値を追加または削除します。

複数值属性にのみ使用します。

■ オプションセレクト コンボ

[オプションセレクト] スタイルに使用される 2つのリスト ボックスと、ユーザが新しい値を入力できるテキスト ボックスが表示されます。

複数值属性にのみ使用します。

■ Organization Selector (組織セレクト)

組織を選択するコントロールが表示されます。

■ パスワード

フィールドの値が一連のアスタリスクとして表示されます。たとえば、「secret」というパスワードは「*****」と表示されます。

■ Radio Button Single Select (ラジオ ボタンとしての単一選択)

フィールドに使用する値のリストが表示されます。各値の横にラジオ ボタンが表示されます。

■ String

フィールドの値が読み取り専用で表示されます。値が存在しない場合、フィールドは空です。

- **テキスト**

フィールドの値を入力できるボックスが表示されます。

フィールドのアクセス権が読み取り専用の場合、値はラベルとして表示されます。

- **テキストエリア**

ユーザがテキストフィールドよりも長い値を入力できるボックスが表示されます。たとえば、説明にはテキストエリアが必要な場合があります。

- **ユーザセレクタ**

ユーザを選択するコントロールが表示されます。

注: ドロップダウンメニュー、ドロップダウンコンボボックス、複数選択ボックス、オプションセレクタ、オプションセレクタコンボボックス、および single-select ボックスにある **オプション** という値を指定することができます。ユーザはフィールドに入力する値を 1 つ以上のオプションから選ぶことができます。「[フィールドオプションの入力方法 \(P. 50\)](#)」で、フィールドオプションの指定に使用できる方法について説明しています。

[デートピッカー]のオプション

[デートピッカー] スタイルを使用すると、プロフィール画面のフィールドにカレンダーアイコンを追加できます。ユーザがアイコンをクリックすると、日付の選択に使用できるカレンダーが表示されます。選択した日付は、フィールドに関連付けられているプロフィール属性に格納されます。たとえば、[契約者の作成] タスクの [プロフィール] タブの [開始日] フィールドに、カレンダーコントロールを追加できます。管理者が契約の開始日を選択すると、その日がユーザのプロフィールに格納されます。

[デートピッカー] スタイルには以下の設定があります。

■ 日付表示パターン (オプション)

フィールドと デートピッカー コントロールに表示される日付のフォーマットを指定します。Java の規則を使用して日付表示パターンを指定します。たとえば、次の Java 式は Oct 2011 と表示されます。

MMM yyyy

[日付表示パターン] フィールドが表示されるのは、[デートピッカー] スタイルが選択されている場合のみです。

日付表示パターンを指定するときは、以下の点に注意してください。

- デートピッカー コントロールは、Java 日付形式のサブセットをサポートします。

Java の日付形式の全リストは、Oracle Web サイトで入手できる Java™ 2 Platform Std. Ed. v1.4.2 のマニュアルに記載されています (<http://java.sun.com/j2se/1.4.2/docs>)。SimpleDateFormat を検索します。

以下の形式は、SimpleDateFormat ではサポートされていますが、CA Identity Manager のデートピッカー コントロールではサポートされていません。

記号	意味	タイプ	例
-G	時代	テキスト	「GG」 -> 「AD」
D	年内の日付 (1 ~ 365 または 1 ~ 364)	数値	「D」 -> 「65」 「D」 -> 「065」
W	月内の週 (1 ~ 5)	数値	「W」 -> 「3」
k	時間 (1 ~ 24)	数値	「K」 -> 「3」 「KK」 -> 「03」
K	時間 (0 ~ 11 AM/PM)	数値	「K」 -> 「15」 「KK」 -> 「15」
S	ミリ秒 (0 ~ 999)	数値	「SSS」 -> 「007」

使用している環境が複数のロケールをサポートしている場合は、[日付表示パターン] を指定しないことをお勧めします。表示パターンが指定されていない場合、日付はユーザのロケールに適した形式で表示されます。

■ 日付保存パターン

日付をユーザストアに格納する方法を指定します。Java の規則を使用して日付パターンを指定します (詳細については、[日付表示パターン] の説明を参照してください)。

■ ヒントテキスト

[プロフィール] 画面上のデイトピッカーの横に表示するテキストを指定します。

このフィールドを使用して、デイトピッカー コントロールに関する追加情報を提供できます。

■ タイムピッカーの表示

[プロフィール] 画面でカレンダー コントロールを使用するときに、ユーザが日付と時間を指定できます。時間はユーザストアに格納されます。

■ 秒の非表示

タイムピッカー コントロール内の秒の表示を非表示にします。

注: [日付保存パターン]、[タイムピッカーの表示] および [タイムピッカーの形式] の各フィールドが表示されるのは、選択した属性がディレクトリ設定ファイル (directory.xml) に、Date、ISODate、または UnicenterDate の値のタイプを含まない場合のみです。値のタイプの詳細については、「設定ガイド」を参照してください。

[オブジェクト セレクタ]のオプション

[オブジェクト セレクタ] スタイルを使用すると、管理者は、プロフィール画面の任意のフィールドに検索機能を追加できます。ユーザは、この機能を使用して、プロフィールに記載されている属性に関連付けるオブジェクトを検索および選択できます。たとえば、管理者は、[マネージャ] フィールドにオブジェクトセレクタを追加することで、ユーザが [ユーザの作成] タスクで新しいユーザのマネージャの検索を行えるようにすることができます。ユーザがマネージャを選択し、[ユーザの作成] タスクをサブミットすると、新規のユーザプロフィールにそのマネージャについての情報が保存されます。

Office	<input type="text"/>
Department	<input type="text"/>
Manager	<input type="text"/> <input type="button" value="参照"/> <input type="button" value="クリア"/>

多くの場合、そのオブジェクトセレクタの検索により、ユーザは単一の値を選択および保存できます。しかし、管理者は、ユーザが複数の値を検索および選択できるように、オブジェクトセレクタを設定することもできます。この場合、選択した値はそのオブジェクトの複数值属性に保存されます。

The image shows a user interface element for selecting an assignee. It consists of a text input field with a dotted border, containing the names 'Andrew Smith' and 'Jeff Tweedy'. To the left of the field is the label '委任者'. Below the field are two buttons: '追加...' (Add...) and '削除' (Remove).

オブジェクト セレクタの設定

オブジェクトセレクタのスタイルによって、フィールドに [参照] ボタンが追加されます。ユーザはこのボタンをクリックして検索し、フィールドに入力するオブジェクトを選択できます。

オブジェクトセレクタは、単一値または複数值の属性のフィールドに適用できません。

オブジェクト セレクタの設定方法

1. [プロフィール画面の定義を編集します](#) (P. 29)。
2. フィールドのリストの下にあるコントロールを使用して、プロフィール画面に新たなフィールドを追加します。
3. 右矢印アイコンをクリックして、追加する属性の [フィールドプロパティ] ダイアログボックスを開きます。
4. 以下のフィールドに値を指定します。

属性名

フィールドと関連付けされている属性を選択します。

たとえば、ユーザ マネージャを指定するフィールドを設定している場合、その情報を保存するユーザストアの属性を選択します。

注: 複数值を保存する属性のフィールドを設定している場合、属性はディレクトリ設定ファイル (`directory.xml`) で複数值として定義されていることを確認してください。詳細については、「[設定ガイド](#)」を参照してください。

スタイル

オブジェクトセレクタのスタイルを選択します。

オブジェクトタイプ

ユーザが検索するオブジェクトタイプを指定します。たとえば、[マネージャ] フィールドのオブジェクトセクタを設定している場合は、[ユーザ] オブジェクトタイプを選択します。

単一の値に制限

管理者がオブジェクトを検索する際に、値を1つだけ選択できるようにします。

注: このオプションは、[属性名] フィールドに複数值の属性を指定した場合のみ有効になります。

表示属性

値を選択すると表示される、選択したオブジェクトの属性を指定します。

上記のマネージャの例の場合は[フルネーム] または [ユーザ ID] を選択し、ユーザが簡単にマネージャを特定できるようにします。

注: オブジェクトの一意な識別子は属性に保存されます。

検索画面

管理者がオブジェクトの検索に使用する、検索画面を選択します。

Size

リストボックスに表示するアイテムの数を指定します。

注: このフィールドは、[属性名] フィールドに複数值の属性を指定した場合のみ有効になります。

デフォルト

オブジェクトが選択されていない場合に、CA Identity Manager が使用するデフォルトのオブジェクトを選択します。

5. [適用] - [OK] をクリックしてから、[画面選択] ページに戻ります。
編集したフィールドにオブジェクトセクタが追加されます。
6. 編集したタブを選択してから、[OK] をクリックします。
画面への変更が保存されます。

構造型属性の表示

構造型属性を用いることで、ある単一の属性値に対して、複数の関連する値を保存することができます。たとえば、ある構造型の属性には、単一の値の中に、ユーザの名、姓、電子メールアドレスを含めることができます。このようなタイプの属性は、特定のエンドポイントタイプにより使用されますが、CA Identity Manager で管理できます。

CA Identity Manager を設定することで、構造型属性に、テーブルとして値を表示できます。ユーザは、オプションでそのテーブルを編集できます。この場合、その属性の複数の値に対して行われた変更は、ユーザ データ ストアに保存され、エンドポイント アカウントに伝達されます（同期が有効化されている場合）。

構造型属性サポートの前提条件

ユーザ コンソールに構造型属性サポートを追加するには、ディレクトリ コンフィギュレーション ファイル (`directory.xml`) の構造型属性の定義に以下に示すパラメータを含める必要があります。

- `multivalued="true"`
属性は、ユーザ データ ストアの標準的な複数値属性である必要があります。
- `displayhint="value1;value2;valueN"`
`displayhint` パラメータには、セミコロン (;) 区切りの属性値で利用できるフィールドのリストを含める必要があります。
- `valuetype="structured"`
ユーザ コンソールの表示テーブルを設定するため、`valuetype` パラメータは「構造型」に設定する必要があります。このパラメータが正しく設定されていない場合には、表示テーブルの設定に必要なフィールドは表示されません。

完了した構造型属性の記述の例を、以下に示します。

```
<ImsManagedObjectAttr physicalname="emailaddress" required="false"
searchable="false" multivalued="true" displayhint="email;type;primary"
valuetype="structured">
```

注: `directory.xml` ファイルの設定方法の詳細については、「[設定ガイド](#)」を参照してください。

構造型属性表示の設定

構造型属性で、ユーザが値の追加や編集を行えるように、プロフィール画面に、構造型属性表示を追加することができます。この表示は通常、構造型属性をサポートするエンドポイントタイプ用のアカウントテンプレートで使用されます。

構造型属性表示の設定方法

1. 構造型属性のサポートの[前提条件](#) (P. 46) を設定します。
2. [プロフィール画面を編集します](#) (P. 29)。
3. フィールドのリストの下にあるコントロールを使用して、プロフィール画面に新たなフィールドを追加します。
4. 右矢印アイコンをクリックして、追加するフィールドの [フィールドのプロパティ] ダイアログボックスを表示します。
5. [属性名] フィールドで利用可能な属性のリストから構造型属性を選択します。

注: 選択した属性は、ディレクトリ コンフィギュレーション ファイル (directory.xml) で *構造型* の値型をもつ必要があります。

6. [スタイル] フィールドで [ネストされた構造] を選択します。
フィールドプロパティ画面のフィールドは、スタイルの選択に基づいて変化します。
7. 右矢印アイコンをクリックし、リストボックスから値を選択することにより、表示テーブルにフィールドを追加できます。

このリストに表示されている値は、[ディレクトリ コンフィギュレーション ファイル](#) (P. 46) (directory.xml) で定義されている構造型属性で利用可能な値です。

値を選択すると、CA Identity Manager により値が表示テーブルに追加され、その値のプロパティの設定が可能になります。

- 表示テーブル コンフィギュレーションの値に、以下に示すフィールドを指定します。

名前

フィールドのラベルを指定します。

スタイル

フィールドの表示プロパティを指定します。以下のいずれかのスタイル オプションを選択できます。

- **チェック ボックス :**

フィールド名の横に、設定を有効または無効にするチェック ボックスを追加します。

- **[Date]**

管理者がデータを入力できるテキスト ボックスを表示します。

CA Identity Manager により、日付形式の検証が行われます。

- **ドロップダウン**

ユーザがフィールドの値を選択できるようにします。1つの値のみが表示されます。ユーザが矢印をクリックすると、リストの他の値が表示されます。

リストから1つの値を選択できます。

- **ドロップダウン コンボ**

[ドロップダウン]スタイルで表示される値と同じ選択肢が表示されますが、ユーザが新しい値を入力できるテキスト ボックスも追加されます。

- **オブジェクトセレクタ**

管理対象オブジェクトを選択するための検索画面を追加できます。

- **ラジオ ボタン**

フィールドに使用する値のリストが表示されます。各値の横にラジオ ボタンが表示されます。ユーザはリストから1つの値を選択できます。

■ 文字列

フィールドの値が読み取り専用で表示されます。値が存在しない場合、フィールドは空です。

■ 構造化

[ボタンの追加]を表示すると、ネストされたコンパウンド属性テーブルに新しい値が追加されます。

■ テキスト

フィールドの値を入力できるボックスが表示されます。

フィールドのアクセス権が読み取り専用の場合、値はラベルとして表示されます。

並べ替え可能

選択したフィールドに基づいて、ユーザが表示テーブルをソートできるようにするかどうかを決定します。

9. 管理者が、プロフィール画面に表示されている構造型属性のリストの順序を変更できるようにするには、[値の順序変更を許可] チェックボックスを選択します。

この設定を選択すると、構造型属性表示の最後の列に、上向き矢印および下向き矢印が追加されます。

10. 必要に応じて、構造型属性に[その他の管理対象オブジェクトの情報を追加するためのサポートを追加します](#) (P. 49)。

注: 構造型属性表示テーブルの検索画面で、その他の管理対象オブジェクトのサポートを設定します。この設定を行うことで、ユーザはその他のタイプの管理オブジェクトに保存されている情報を検索および追加できるようになります。たとえば、ユーザが、SAP ロールを選択して、ユーザプロフィールに構造型属性を追加できるようにすることが可能です。

11. [適用] をクリックしてから、[OK] をクリックします。

構造型属性表示が、編集したプロフィール画面に追加されます。

構造型属性表示におけるその他の管理対象オブジェクトの追加

場合によっては、構造型属性に他の管理対象オブジェクトを追加することをお勧めします。たとえば、SAP ロールおよびユーザがこれらのロールを使用する開始日と終了日をリストした構造型属性をユーザプロフィール内にもつことができます。

この使用事例をサポートするための設定では、[「構造型属性表示の設定」](#) (P. 47) に記載されているように構造型属性表示テーブルを追加してから、構造型属性の別のタイプの管理オブジェクトに関する情報の検索と保存ができる新たなフィールドを設定します。

サポートが設定されると、CA Identity Manager により検索画面が表示されます。この検索画面で、ユーザは、管理対象オブジェクトの値を検索および選択し、構造型属性に追加できます。

構造型属性表示に管理対象オブジェクトを追加する方法

1. [構造型属性表示の設定](#) (P. 47)
2. 必要に応じて、以下のフィールドに入力します。

[オブジェクト]フィールド

管理対象オブジェクトへの参照を含むフィールドを選択します。多くの場合、これは管理対象オブジェクトの一意の識別子です。

オブジェクトタイプ

構造型属性に追加する値を含むオブジェクトのタイプを選択します。

たとえば、ユーザ プロファイルの構造型属性に SAP ロールを追加する場合は、SAP ロール オブジェクトを選択します。

オブジェクト属性(オプション)

[オブジェクト フィールド] の入力に使用する管理対象オブジェクトの属性を選択します。

この属性は、管理対象オブジェクトの参照を含むフィールドの名前が、その管理対象オブジェクト用の一意の名前でない場合のみに必要となります。このフィールドに値を入力しない場合は、一意の名前が使用されます。

検索画面

ユーザが構造型属性に値を追加するために [追加] ボタンをクリックしたときに表示される検索画面を指定します。

3. [適用] をクリックしてから、[OK] をクリックします。

フィールド オプションの入力方法

ユーザに選択可能なオプションを提供できる、フィールドのスタイルを以下に示します。

- チェック ボックスの複数選択
- ドロップダウン
- ドロップダウン コンボ

- 複数選択
- オプションセレクタ
- オプションセレクタ コンボ
- ラジオ ボタン 1つ選択
- 単一選択

たとえば、[オフィス] フィールドには、会社が所有する事業所のリストが含まれている可能性があります。ユーザは、自分が勤務する事業所を選択することで、フィールドに値を入力することができます。

CA Identity Manager で提供されている、オプションの入力方法を以下に示します。

簡易リスト

オプションのリストをテキストボックスに入力できます。CA Identity Manager で、フィールドのオプションとして入力したテキストが使用されます。

セレクト ボックス データ

セレクト ボックス データを使用してフィールド オプションを設定できます。

JavaScript

フィールドのオプションを提供する JavaScript を指定できます。

ロジカル アトリビュート ハンドラ

フィールド オプションを提供するロジカル アトリビュート ハンドラを指定できます。

詳細情報:

[セレクト ボックス データ \(P. 55\)](#)

フィールド入力方法の選択方法

CA Identity Manager では、フィールド オプションの入力方法が以下に示すように 4 つ提供されています。

- 簡易リスト
- セレクト ボックス データ

- JavaScript
- ロジカルアトリビュートハンドラ

方法を選択するにあたっては、以下の基準について考慮します。

- 実装の容易性

一部の方法では、プロファイル画面の設定時に、[フィールドのプロパティ] ダイアログ ボックスでフィールド オプションを設定できます。その他のオプションの使用には、追加設定またはカスタム コードが必要となります。
- 動的オプションのサポート

一定の方法を使用すると、カスタム コードを記述して、フィールド オプションに動的な入力を行ったり、データベースなど別のソースからフィールド オプションを取り込むことが可能になります。
- 依存するフィールドのサポート

一定の方法を使用すると、タスク画面の 2 つのフィールドの間に依存関係を設定できます。たとえば、[市区町村] フィールドに入力可能なオプションを、[都道府県] フィールドでユーザが選択したオプションに依存させることができます。

フィールド入力の各方法の特徴は、以下のとおりです。

方法	説明	動的か	依存するフィールドをサポートするか
簡易リスト	管理者は、[フィールドのプロパティ] ダイアログ ボックスに、静的オプションを入力します。	いいえ	いいえ
セレクトボックスデータ	オプションの静的なリストは、XML ファイルからデータベースにインポートされるので、動的に生成できます。	可能。依存するフィールドのオプションは、選択した値に応じて変わります。	はい (階層的なフィールドの場合のみ)

方法	説明	動的か	依存するフィールドをサポートするか
JavaScript	JavaScript の関数により、オプションの動的なリストが提供されます。JavaScript は、[フィールドのプロパティ] ダイアログ ボックスで設定されます。このサーバ側の JavaScript は、CA Identity Manager をホストするアプリケーションサーバで利用可能な任意の Java API にアクセスする可能性があります。	はい	いいえ
ロジカルアトリビュートハンドラ	カスタム Java ロジカルアトリビュートハンドラにより、オプションの動的なリストを作成できます。管理者は、CA Identity Manager ロジカルアトリビュート API を使用してロジカルアトリビュートハンドラを記述してから、そのロジカルアトリビュートハンドラを使用する CA Identity Manager 環境を設定します。管理者は、その後フィールドをロジカルアトリビュートに関連付けます。	はい	いいえ

フィールド オプションにおける簡易リストの使用

[簡易リスト] 選択オプションスタイルを使用して、プロファイル画面のフィールドのオプションの静的なリストを指定できます。ユーザがフィールドのスタイルに応じて1つまたは複数のオプションを選択すると、CA Identity Manager によってその値はユーザストアに保存されます。

フィールド オプションの入力に簡易リストを使用する方法

1. [プロファイル画面を変更します](#) (P. 29)。
2. 変更するフィールドを選択するか、または新規フィールドを追加します。
3. 新規フィールドを追加する場合には、そのフィールドに関連づけられている属性をリスト ボックスから選択します。

4. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- チェック ボックスの複数選択
- ドロップダウン
- ドロップダウン コンボ
- 複数選択
- オプションセレクタ
- オプションセレクタ コンボ
- ラジオ ボタン 1 つ選択
- 単一選択

[フィールドのプロパティ] ダイアログ ボックスのフィールドは、選択したスタイルによって変化します。

5. [選択オプションのソース] フィールドの [簡易リスト] を選択します。

新規フィールド、[選択オプション] が表示されます。

6. [選択オプション] フィールドでフィールド用のオプションを入力します。

各行に 1 つのオプションが表示されている必要があります。

CA Identity Manager で、オプション リストに表示される値とは異なる場所である、ユーザストアに値を保存する場合には、各オプションを次のように指定します。

"storage-value;display-value"

7. [オプションなしを保存] フィールドに、以下のいずれかの値を指定します。

- はい — 有効ないずれのオプションにも一致しない既存の値が保存されません。
- いいえ — ユーザは、あらかじめ定義されたオプション リストから値を選択する必要があります。ある既存の値に一致しない既存の値は、保存されません。

8. 残りの必須フィールドの値を指定します。

9. [適用] をクリックしてから、[OK] をクリックします。

最新のフィールド プロパティが CA Identity Manager に保存されます。

セレクト ボックス データ

タスク画面を変更できる管理者および画面デザイナーは、タスク フィールドに表示されるオプションを指定できます。ユーザは、オプションを選択してフィールドの値を指定します。フィールド オプションを指定すると、ユーザに正しいデータを入力させ、入力可能なデータを制限できます。

以下のタイプのフィールドにオプションを指定できます。

- チェック ボックスの複数選択
- ドロップダウン
- ドロップダウン コンボ
- 複数選択
- オプションセレクト
- オプションセレクト コンボ
- ラジオ ボタン 1つ選択
- 単一選択

XML ファイルのセレクト ボックスに入力するカスタム データを指定できます。たとえば、セレクト ボックス データ XML ファイルを使用して、[ユーザの作成] タスクの [市区町村] または [都道府県] ドロップダウン ボックスのオプションを入力できます。

また、セレクト ボックス データ XML ファイルを使用してタスク画面上の 2つのフィールドの依存関係を設定することもできます。たとえば、[市区町村] フィールドに入力可能なオプションを、[都道府県] フィールドでユーザが選択したオプションに依存させることができます。

セレクト ボックス データを使用したフィールドの入力方法

管理者として、セレクト ボックス データを使用して、タスク フィールドに入力するデータを定義できます。タスク フィールドに入力するデータを含むセレクト ボックス データ XML ファイルを作成し、その XML ファイルを **CA Identity Manager** 環境にインポートする必要があります。インポートされたデータは、オプションを入力するタスク フィールド用のソースとして使用されます。ユーザ タスクを変更する場合は、セレクト ボックス データを使用して、選択されたタスク フィールドのオプションを入力するように、タスク フィールドのプロパティを設定します。

注: セレクト ボックス データ XML ファイルを使用することにより、フィールドに正確なデータが入力されるようにするとともに、可能なレスポンスを制限することができます。

以下のタスク フィールドを、セレクト ボックス データを使用するように設定できます。

- チェック ボックスの複数選択
- ドロップダウン
- ドロップダウン コンボ
- 複数選択
- オプションセクタ
- オプションセクタ コンボ

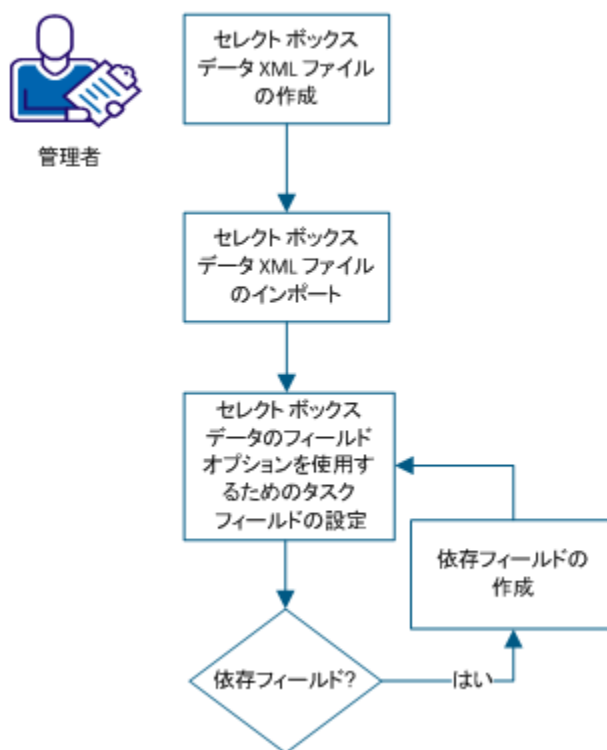
- ラジオ ボタン 1つ選択
- 単一選択

XML ファイルのセレクト ボックスに入力するカスタム データを指定できます。たとえば、ユーザを作成する場合、セレクト ボックス データ XML ファイルを使用して、[市区町村] または [都道府県] ドロップダウン メニューのオプションを入力できます。

また、セレクト ボックス データ XML ファイルを使用してタスク画面上の 2 つのフィールドの依存関係を設定することもできます。たとえば、[市区町村] フィールドに入力可能なオプションを、[都道府県] フィールドでユーザが選択したオプションに依存させることができます。

以下の図は、セレクト ボックス データを使用して、タスク フィールドのオプションを入力するプロセスを示しています。

セレクト ボックス データを使用してタスク フィールドのオプションにデータを読み込む方法



次の手順に従ってください：

1. [セレクト ボックス データ XML ファイルの作成](#) (P. 58)
2. [セレクト ボックス データ XML ファイルのインポート](#) (P. 61)

3. [セレクト ボックス データを使用するためのタスク フィールドの設定](#) (P. 65)
依存フィールドがある場合は、以下のタスクを実行します。
 - [依存フィールドの作成](#) (P. 65)

セレクト ボックス データ XML ファイルの作成

各セレクト ボックス データ XML ファイルには、プロファイルを変更する場合にユーザ コンソールのオプションとして使用できるデータが含まれます。任意のプロファイル ウィンドウにあるタスク フィールドのオプションに、セレクト ボックス データ XML ファイルに含まれるエレメントまたは子エレメントを入力できます。

注: XML では、属性名の大文字と小文字が区別されます。

次の手順に従ってください:

1. テキスト エディタまたは XML エディタを使用して、拡張子が .XML のテキスト ファイルを作成します。
2. 入力するタスク フィールドのオプションに基づいてテキスト ファイルにコードを追加し、ファイルを保存します。上記の形式でファイルを作成してください。

セレクト ボックス データ XML ファイルが作成されました。これで、ユーザ コンソールのコントロールでオプションに入力するために、この XML ファイルを CA Identity Manager 環境にインポートできます。

セレクト ボックス データ XML ファイルの作成

この例では、国にオーストラリアまたは英国を選択した場合に州名および市区町村名が入力されるセレクト ボックス データ XML ファイルが作成されます。

```
<places name="places" displayName="places">
  <country name="AU" displayName="Australia">
    <state name="VIC" displayName="Victoria">
      <city name="MEL" displayName="Melbourne"/>
      <city name="GEEL" displayName="Geelong"/>
      <city name="BAL" displayName="Ballarat"/>
    </state>
    <state name="NSW" displayName="New South Wales">
      <city name="SYD" displayName="Sydney"/>
      <city name="NCL" displayName="Newcastle"/>
      <city name="WOD" displayName="Wodonga"/>
    </state>
  </country>
</places>
```

```
<state name="QLD" displayName="Queensland">
  <city name="BRIS" displayName="Brisbane"/>
  <city name="CNS" displayName="Cairns"/>
  <city name="TVL" displayName="Townsville"/>
</state>
</country>
<country name="UK" displayName="UK">
  <state name="SU" displayName="Surrey">
    <city name="LON" displayName="London"/>
    <city name="READ" displayName="Reading"/>
  </state>
  <state name="WLS" displayName="Wales">
    <city name="CDF" displayName="Cardiff"/>
    <city name="SWN" displayName="Swansea"/>
  </state>
</country>
</places>
```

セレクト ボックス データ XML ファイル

セレクト ボックス データ XML ファイルは、ツリーベースでの要素および子要素の集まりです。

セレクト ボックス データ XML ファイルは、以下のように構成されています。

ルート エlement

セレクト ボックス データ XML ファイルを識別します。セレクト ボックス データ XML ファイルには、ただ 1 つのルート エlement のみが含まれます。ルート エlement は、すべてのエlement および子エlement のコンテナです。これらのエlement はフィールドの入力には使用できません。

プロバイダ エlement

セレクト ボックス データ XML ファイルのツリー内のノードを指定します。これらのエlement に、フィールドの入力に使用できるオプションが含まれます。プロバイダ エlement は親エlement を持ちません。たとえば、[メルボルン] と [ビクトリア] というオプションを持つ 2 つの依存フィールドを作成するとします。セレクト ボックス データ XML ファイルの該当エlement は、同じプロバイダ エlement に属する必要があります。以下の図では、都市「メルボルン」は州「ビクトリア」に依存しています。両方のオプションのプロバイダ エlement は「オーストラリア」です。

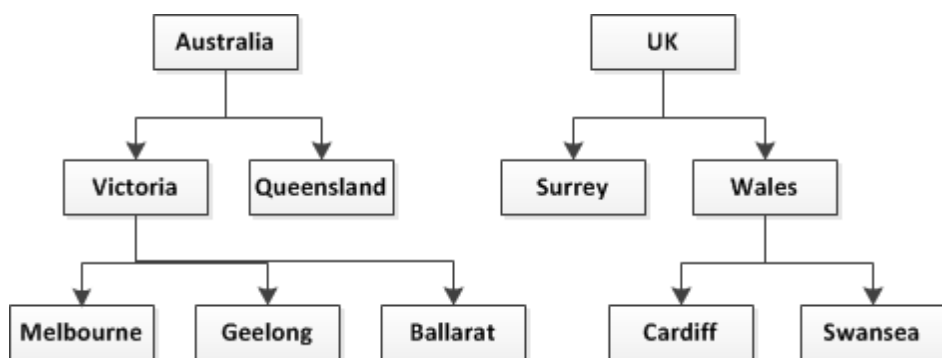
エレメント

セレクト ボックス データ XML ファイル内の XML エレメントはすべて、エレメントとして認識されます。エレメントは親エレメントまたは子エレメントになることができます。以下の図では、「ビクトリア」は「メルボルン」の親エレメントです。同様に、「ヴィクトリア」は「オーストラリア」の子エレメントです。

子エレメント

ツリー構造の上位エレメントの一部として含まれるすべての XML エレメントを子エレメントと呼びます。

以下の図は、セレクト ボックス データの構造を示しています。



各エレメントには以下の属性があります。

表示名

エレメントが CA Identity Manager ユーザ コンソールに表示される際に、表示される要素名を示します。たとえば、「メルボルン」や「クィーンズランド」は表示名です。

タイプ

エレメントのタイプを示します。たとえば、州名および市町村名はタイプエレメントです。

セレクト ボックス データ XML ファイルのインポート

セレクト ボックス データ XML ファイルには、CA Identity Manager のタスク ウィンドウで選択されたタスク フィールドのオプションに使用されるデータが含まれています。セレクト ボックス データ XML ファイルは CA Identity Manager 環境にインポートする必要があります。これにより、オプションに読み込むタスク フィールドのソースとしてデータを使用できます。

次の手順に従ってください:

1. 管理者としてユーザ コンソールにログインします。
2. 次のいずれかを選択します。
 - [タスク] - [システム]
 - [システム]
3. [セレクト ボックス データ] - [セレクト ボックス データのインポート] を選択します。
[セレクト ボックス データのインポート] ページが表示されます。
4. [プロバイダの作成] をクリックします。
[セレクト ボックス データの作成] ページが表示されます。
5. 以下のフィールドに値を入力します。

名前

セレクト ボックス データ XML ファイルの一意の名前を指定します。CA Identity Manager によって識別名の一意性が検証されます。

説明

セレクト ボックス データ XML ファイルの説明を定義します。

優先順位

他のセレクト ボックス データ XML ファイルと比較する場合のそのセレクト ボックス データ XML ファイルの優先順位を示します。優先順位は数値で示されます。

6. [参照] をクリックして該当する XML ファイルを検索し、ファイルを選択して [作成] をクリックします。

セレクト ボックス データ XML ファイルがインポートされます。

7. [閉じる] をクリックします。

新たにインポートされたセレクト ボックス データ XML ファイルがウィンドウに表示されます。

フィールドのオプションにセレクト ボックス データを使用するためのタスク フィールドの設定

セレクト ボックス データをソースとして使用するには、オプションを入力するタスク ウィンドウのフィールドを設定する必要があります。

次の手順に従ってください:

1. ユーザ コンソールで以下のいずれかを選択します。
 - [ロールおよびタスク]。
 - [タスク] - [ロールおよびタスク]。
2. [管理タスク] - [管理タスクの変更] を選択します。
3. 変更する管理タスクを検索して選択します。

選択したタスクを設定するタブが **CA Identity Manager** に表示されます。
4. [タブ] タブを選択し、[プロファイル] タブを選択します。
5. [画面] フィールドの横にある [参照] をクリックします。

既存のプロファイル画面のリストが表示されます。
6. 変更またはコピーするプロファイル ウィンドウを選択し、以下のいずれかのボタンをクリックします。
 - **選択**

設定しているタブに、選択したウィンドウを追加します。
 - **編集**

選択したウィンドウのフィールド、フィールドのプロパティ、レイアウトなど、設定を変更する新しいウィンドウが開きます。
 - **削除**

選択したウィンドウを削除します。
 - **新規**

ウィンドウを作成する新しいウィンドウが開きます。新しいウィンドウには、デフォルトのフィールドが含まれません。
 - **コピー**

既存のウィンドウの設定を使用して、ウィンドウを作成します。既存のウィンドウに基づいてウィンドウを作成するには、新しい名前を追加して、その名前をウィンドウにタグ付けし、必要に応じて設定を変更します。
 - **キャンセル**

タブの設定ウィンドウに戻ります。

[編集]、[新規]、または[コピー]を選択すると、プロファイル ウィンドウを作成または変更する新しいウィンドウが開きます。

7. プロファイル ウィンドウでフィールドを追加または選択し、右矢印アイコンをクリックしてフィールドプロパティを表示します。
8. 必要に応じて、フィールドプロパティを以下のいずれかの値に設定します。
 - チェック ボックスの複数選択
 - ドロップダウン
 - ドロップダウン コンボ
 - 複数選択
 - オプションセレクタ
 - オプションセレクタ コンボ
 - ラジオ ボタン 1つ選択
 - 単一選択

[選択オプションのソース] フィールドが表示されます。

9. 以下のいずれかのオプションを選択します。

セレクト ボックス データ

セレクト ボックス データを使用して入力するタスク フィールドのオプションを指定します。このオプションを選択すると、[オプションに対するセレクト ボックス データ] ウィンドウの[編集]が表示されます。

インポートされたセレクト ボックス データ用のルート エレメントのリストも表示されます。

- a. [編集] をクリックします。

[セレクト ボックス データ オプション] ウィンドウが表示されます。このウィンドウを使用すると、インポートされたセレクト ボックス データを参照できます。
- b. エレメントの子エレメントに関する情報を表示するには、[エレメント名] をクリックします。表示されたエレメントのリストが [プロファイル] フィールドで使用するオプションのリストを表示したら、[OK] をクリックします。

エレメントのリストが大きい場合は、次の 2 つのフィールドを使用してリストをフィルタします。これらのフィールドではワイルドカード文字 (*) を使用できます。

子の名前フィルタ

セレクト ボックス データのエレメントまたは子エレメントの名前を指定します。

子のタイプフィルタ

セレクト ボックス データのエレメントまたは子エレメントの名前を指定します。

注: このフィールドで選択可能な値は、CA Identity Manager にインポートしたセレクト ボックス データ XML ファイルから入力されます。

- c. [リフレッシュ] ボタンをクリックして結果をフィルタします。

他のフィールドの値に依存

別のフィールドで選択した値に基づいて、フィールドに値が入力されるように指定します。このオプションを選択している場合は、依存フィールドを作成します。

10. オプション ソース フィールド フォームで既存のフィールドを選択します。
11. [オプションなしを保存] フィールドで値を選択します。
12. [変更時に検証] フィールドで値を選択します。
13. [適用] をクリックし、[OK] をクリックして変更を保存します。

設定したフィールドは、選択した管理タスクのプロファイル タブに表示されます。セレクト ボックス データをソースとして使用するよう設定された選択式のコントロールの値には、セレクト ボックス データ XML ファイルから値が入力されます。

依存フィールドの作成

タスク フィールドの各オプションがエレメントまたは子エレメントに対応する場合は、それらのフィールド間の依存関係を CA Identity Manager のタスク ウィンドウで作成します。

次の手順に従ってください:

1. セレクト ボックス データ XML ファイルを使用してオプションを入力するフィールドを作成します。

たとえば、オプションにドロップダウン スタイルとセレクト ボックス データ XML ファイルを使用する「都道府県」というフィールドを作成できます。「都道府県」の各オプションは、セレクト ボックス データ XML ファイルのエレメントまたは子エレメントに対応しています。「都道府県」の各要素には子要素である「市区町村」があります。

2. 手順 1 で選択したオプションに基づいて入力される別のフィールドを作成します。

たとえば、ドロップダウン スタイルで、[都道府県] フィールドに依存している [市区町村] という名前のフィールドを作成することができます。

依存フィールドを作成したら、セレクト ボックス データを使用するように依存フィールドを設定する必要があります。設定したフィールドは、選択した管理タスクのプロファイル タブに表示されます。セレクト ボックス データをソースとして使用するように設定された選択式のコントロールの値には、セレクト ボックス データ XML ファイルから値が入力されます。

フィールド オプションに対するセレクト ボックス データの使用

オプション フィールドのソースとしてセレクト ボックス データを使用するように、タスク画面のフィールドを設定します。

セレクト ボックス データを使用するためにフィールドを設定する方法

1. [プロファイル画面を変更します](#) (P. 29)。
2. プロファイル画面でフィールドの追加または選択を行い、右矢印アイコンをクリックしてフィールド プロパティを表示します。
3. 追加したフィールドのプロパティをすべて入力します。[スタイル] に以下のいずれかの値を設定します。
 - チェック ボックスの複数選択
 - ドロップダウン
 - ドロップダウン コンボ
 - 複数選択

- オプションセレクタ
- オプションセレクタ コンボ
- ラジオ ボタン 1つ選択
- 単一選択

[選択オプションのソース] フィールドが表示されます。

4. [選択オプションのソース] フィールドに対して、以下のオプションのいずれか1つを選択します。

セレクト ボックス データ

このフィールドがセレクト ボックス データにより生成されるよう指定します。このオプションを選択すると、[オプションに対するセレクト ボックス データ] の [編集] が表示されます。

インポートされたセレクト ボックス データ用のルート エレメントのリストも表示されます。

[編集] をクリックして、セレクト ボックス データの参照を可能にする [セレクト ボックス データ オプション] ページを表示します。エレメントの子エレメントに関する情報を表示するには、[エレメント名] をクリックします。表示されたエレメントのリストが [プロファイル] フィールドで使用するオプションのリストを表示したら、[OK] をクリックします。

エレメントのリストが大きい場合は、次の 2 つのフィールドを使用するとリストをフィルタできる場合があります。これらのフィールドではワイルドカード文字 (*) を使用できます。[リフレッシュ] ボタンをクリックして結果をフィルタします。

子の名前フィルタ

セレクト ボックス データのエレメントまたは子エレメントの名前を識別します。

子のタイプフィルタ

セレクト ボックス データ XML ファイルのエレメントまたは子エレメントのタイプを識別します。

エレメント名およびエレメント タイプの詳細については、セレクト ボックス データ XML ファイルを参照してください。

注: このフィールドで選択可能な値は、CA Identity Manager にインポートしたセレクト ボックス データ XML ファイルから読み込まれます。

他のフィールドの値に依存

別のフィールドで選択した値に基づいて、フィールドに値が入力されるように指定します。このオプションを選択する場合は、「[セレクト ボックス データを使用した依存フィールドの作成方法 \(P. 67\)](#)」を参照してください。

オプション ソース フィールド フォームで既存のフィールドを選択します。

5. [オプションなしを保存] フィールドにいずれかの値を選択します。
6. その他の必要なフィールドプロパティに入力して、[適用] をクリックします。
7. [OK] をクリックして変更内容を保存します。

設定したフィールドは、選択した管理タスクのプロファイル タブ上でユーザーに表示されます。セレクト ボックス データをソースとして使用するよう設定された選択式のコントロールの値には、セレクト ボックス データ XML ファイルから値が入力されます。

セレクト ボックス データを使用した依存フィールドの作成方法

2 つのフィールド間の依存関係を CA Identity Manager タスク画面で作成できます。以下のプロセスは、2 つのフィールド間の依存関係を作成するための手順を示しています。

1. セレクト ボックス データ ファイルを使用してオプションを入力するフィールドを作成します。

たとえば、オプションにドロップダウン スタイルとセレクト ボックス データを使用する「都道府県」というフィールドを作成できます。「都道府県」の各オプションは、セレクト ボックス データの要素または子要素に対応しています。「都道府県」の各要素には子要素である「市区町村」があります。

2. 手順 1 で選択したオプションに基づいて入力される別のフィールドを作成します。

たとえば、ドロップダウン スタイルで、[都道府県] フィールドに依存している [市区町村] という名前のフィールドを作成することができます。

フィールド オプションにおける JavaScript の使用

カスタム JavaScript を記述することにより、プロファイル画面のフィールドに表示するオプションを指定できます。

フィールド オプションの入力に、JavaScript を使用する方法

1. [プロファイル画面を変更します](#) (P. 29)。
2. 変更するフィールドを選択するか、または新規フィールドを追加します。
3. 新規フィールドを追加する場合には、そのフィールドに関連づけられている属性をリスト ボックスから選択します。
4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - チェック ボックスの複数選択
 - ドロップダウン
 - ドロップダウン コンボ
 - 複数選択
 - オプションセレクタ
 - オプションセレクタ コンボ
 - ラジオ ボタン 1 つ選択
 - 単一選択

[フィールドのプロパティ] ダイアログ ボックスのフィールドは、選択したスタイルによって変化します。

5. [選択オプションのソース] フィールドの [JavaScript] を選択します。
新規フィールド、[選択オプション (JavaScript)] が表示されます。
6. [選択オプション (JavaScript)] フィールドにオプションを提供する JavaScript を入力します。

入力した JavaScript には「function getOptions(FieldContext)」というシグネチャの関数が含まれ、パイプで区切られたオプションの文字列を返す必要があります。オプションで表示値とストレージ値が別の場合は、「storage-value;display-value」の形式で入力します。

以下に例を示します。

```
function getOptions(FieldContext) {  
    return "1;one|2;two|3;three|4;four";  
}
```

7. [オプションなしを保存]フィールドに、以下のいずれかの値を指定します。
 - はい – 有効ないずれのオプションにも一致しない既存の値が保存されます。
 - いいえ – ユーザは、あらかじめ定義されたオプションリストから値を選択する必要があります。ある既存の値に一致しない既存の値は、保存されません。

8. 残りの必須フィールドの値を指定します。

注: 必須フィールドの詳細については、ユーザ コンソールのオンラインヘルプを参照してください。

9. [適用] をクリックしてから、[OK] をクリックします。

最新のフィールド プロパティが保存されます

フィールド オプションにおけるロジカル アトリビュート ハンドラの使用

ロジカルアトリビュートを使用して、フィールド オプションのリストを入力できます。ロジカルアトリビュート値（この場合はオプション）はユーザストアに直接関連付けられていないか、または書き込まれません。ロジカルアトリビュート値は、プロファイル画面のフィールドに表示されます。ユーザがあるオプションを選択し、タスクをサブミットすると、選択された値はロジカルアトリビュートハンドラにより処理され、値はそのロジカルアトリビュートに関連付けられたフィジカルアトリビュートに保存されます。

注: CA Identity Manager には、StateSelector と呼ばれるロジカルアトリビュートハンドラのサンプルが同梱されています。このサンプルを、フィールド オプションの入力用のロジカルアトリビュートハンドラを作成する基盤として使用できます。StateSelector サンプルフォルダは、管理ツール内の `samples¥LogicalAttributes` の下にインストールされます。管理ツールは、以下のデフォルトの場所に配置されています。

- **Windows :** `C:¥Program Files¥CA¥Identity Manager¥IAM Suite¥Identity Manager¥tools`
- **UNIX :** `/opt/CA/IdentityManager/IAM_Suite/Identity_Manager/tools`

サンプルの使用方法については、StateSelector ディレクトリにある `readme.txt` ファイルを参照してください。

フィールド オプションの入力に簡易リストを使用する方法

1. ロジカルアトリビュートハンドラを作成します。

注: ロジカルアトリビュート API を使用してロジカルアトリビュートハンドラを記述できます。詳細については、「*Programming Guide for Java*」を参照してください。

2. CA Identity Manager のユーザ コンソールで、[プロファイル画面を変更します](#) (P. 29)。

3. 新規フィールドを追加します。

4. 作成したロジカルアトリビュートハンドラに関連付けられているロジカルアトリビュートを選択します。

注: ロジカルアトリビュートは、先頭および末尾のパイプ (|) 文字により表されます。

5. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- チェック ボックスの複数選択
- ドロップダウン
- ドロップダウン コンボ
- 複数選択
- オプションセレクタ
- オプションセレクタ コンボ
- ラジオ ボタン 1 つ選択
- 単一選択

[フィールドのプロパティ] ダイアログ ボックスのフィールドは、選択したスタイルによって変化します。

6. [選択オプションのソース] フィールドで、[なし] を選択します。

新規フィールド、[選択オプション] が表示されます。

7. [オプションなしを保存] フィールドに、以下のいずれかの値を指定します。

- はい — 有効ないずれのオプションにも一致しない既存の値が保存されます。
- いいえ — ユーザは、あらかじめ定義されたオプション リストから値を選択する必要があります。ある既存の値に一致しない既存の値は、保存されません。

8. 残りの必須フィールドの値を指定します。

注: 必須フィールドの詳細については、ユーザ コンソールのオンラインヘルプを参照してください。

9. [適用] をクリックしてから、[OK] をクリックします。

最新のフィールド プロパティが CA Identity Manager に保存されます。

[組織]フィールドの動的な作成

CA Identity Manager が管理するユーザストアに組織が含まれる場合、デフォルトの [ユーザの作成] タスクには [組織] フィールドが含まれます。管理者は、ユーザ プロファイルを作成する前に、適切な組織を検索および選択する必要があります。

[ユーザの作成] タスクを単純化するために、タスクを実行している管理者に基づいて [組織] フィールドを動的に作成するよう CA Identity Manager を設定することができます。この場合、管理者は組織を指定する必要がありません。管理者のプロファイルが存在する組織にユーザが作成されます。たとえば、[従業員] 組織にプロファイルが存在する管理者が新入社員のユーザ プロファイルを作成する場合、新しいプロファイルは [従業員] 組織に作成されます。[サプライヤ] 組織に属する管理者が同じ [ユーザの作成] タスクを使用すると、この管理者が作成する新しいユーザのプロファイルは、[サプライヤ] 組織に作成されます。

動的な組織フィールドの設定

[ユーザの作成] タスク用に動的な組織フィールドを設定する場合、CA Identity Manager はユーザを作成する管理者のプロファイルが存在する組織に、新しいユーザを作成します。

動的な組織フィールドを設定する方法

1. Identity Manager のユーザ コンソールで [ロールおよびタスク] - [管理タスク] - [管理タスクの変更] を選択します。
2. [ユーザの作成] タスクを検索して選択します。
3. [タブ] タブで、編集アイコンをクリックして、[プロファイル] タブを編集します。
4. [画面] フィールドで、[参照] をクリックして編集する画面のリストを表示します。
5. [ユーザ プロファイルの作成] 画面を選択し、[編集] をクリックします。
6. [組織] を探し、編集アイコンをクリックして、そのプロパティを編集します。
7. [スタイル] を [非表示] に設定します。
8. [デフォルトの JavaScript] フィールドに、以下のように入力します。

```
function defaultValue(FieldContext)
{
  return FieldContext.getAdministrator().getOrg(null).getUniqueName();
}
```
9. [適用] をクリックします。
10. [フィールドのプロパティ] の横にある左矢印をクリックして、画面に戻ります。

フィールド表示プロパティの動的な変更方法

CA Identity Manager では、プロファイル画面の他のフィールドの値に基づいて、特定のフィールド表示プロパティを設定できます。JavaScript を用いることで、フィールドの非表示/表示、またはフィールドの有効化/無効化を実行できます。たとえば、JavaScript を使用して、[従業員タイプ] が [Temp (テンプ)] に設定されている場合に、[Agency (エージェント)] フィールドを表示できます。[従業員タイプ] が [Full Time (フルタイム)] または [Part Time (パートタイム)] である場合は、[Agency (エージェント)] フィールドは、非表示になります。

プロフィール画面定義の [フィールドのプロパティ] ダイアログ ボックスの [初期化 JavaScript] フィールドまたは [検証 JavaScript] フィールドに JavaScript を入力します。フィールドの表示を制御する方法は、初期化および検証手法の FieldContext クラスで提供されています。

たとえば、上述の [Agency (エージェント)] フィールドの表示を制御するには、以下の JavaScript コードを、[従業員タイプ] フィールドの [フィールドのプロパティ] の [検証 JavaScript] フィールドに入力します。[従業員タイプ] フィールドに対して行った変更により、[Agency (エージェント)] フィールドの表示を制御するためです。

```
function validate(FieldContext, attributeValue, changedValue, errorMessage) {  
    if (attributeValue == "Temp") {  
        FieldContext.showField("Agency");  
    }  
    else {  
        FieldContext.hideField("Agency");  
    }  
    return true;  
}
```

フィールドの値が変更されたときに、JavaScript を確実にトリガさせるために、[変更時に検証] フィールドを [はい] に設定します。

動的なフィールドの表示プロパティの設定

プロフィール画面の他のフィールドの値に基づいて、画面のフィールドを表示または非表示にしたり、有効または無効にするように、CA Identity Manager を設定することができます。

フィールドの動的な表示プロパティの設定方法

1. [プロフィール画面を編集します](#) (P. 29)。
画面に設定されているフィールドのリストが表示されます。
2. 必要に応じて、動的なフィールドプロパティを設定するフィールドを追加します。
3. フィールド名の横の [編集] アイコンをクリックして編集します。
[フィールドプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 以下のメソッドを使用して、[検証 JavaScript] に JavaScript コードを入力します。

```
function validate(FieldContext, attributeValue, changedValue, errorMessage)
```

FieldContext クラスには、フィールドの表示または非表示、および有効化または無効化を指定するための以下のメソッドが含まれています。

```
public void hide();
```

フィールドを非表示にします。

```
public void show();
```

フィールドを表示します。

```
public void hideField(String attrName);
```

現在のフィールドを非表示にします。

```
public void showField(String attrName);
```

現在のフィールドを表示します。

```
public void disable();
```

現在のフィールドを非表示にします。

```
public void enable();
```

現在のフィールドを有効にします。

```
public void disableField(String attrName);
```

特定の属性を持つフィールドを無効にします。

```
public void enableField(String attrName);
```

特定の属性を持つフィールドを有効にします。

- [適用] をクリックしてから、[OK] をクリックします。

画面定義のロジカル アトリビュート

画面定義のロジカル アトリビュートは、現在のタスクでローカルに定義されている [プロファイル] タブ上のフィールドです。この画面定義のロジカル アトリビュートを使用して、タスク画面のオブジェクトを操作したり、ユーザストアに格納されているフィジカル アトリビュートを変更することができます。

画面定義のロジカル アトリビュートは、JavaScript を使用して定義、初期化、検証、作成、および実装します。

たとえば、日付（月、日、年）を格納する 3 つのフィジカルアトリビュートがあるものの、ユーザには単一フィールドに日付を入力させたい場合には、日付フィールドに関する画面のロジカルアトリビュートを設定することができます。ユーザが日付を入力したら、日付を月、日、年の値に解析してフィジカルアトリビュートに設定する、検証 JavaScript を設定します（フィジカルアトリビュートは、多くの場合、画面上の非表示の属性になります）。

注：「|」で囲んだ属性は、画面定義のロジカルアトリビュートとして識別されません。

画面定義のロジカルアトリビュートは、プライマリ オブジェクトにバインドされない汎用タスクを作成するときに便利です。この場合、画面定義のロジカルアトリビュートのみを使用して、[プロファイル] タブにフィールドを作成します。フィジカルアトリビュートは指定できません。

画面定義のロジカルアトリビュートの追加

プロファイル タスク上のすべてのフィールドは、画面定義のロジカルアトリビュートとして定義できます。この画面定義のロジカルアトリビュートを使用して、そのプロファイル画面の範囲内でローカルにオブジェクトを操作したり、オブジェクトストアのフィジカルアトリビュートを変更することができます。たとえば、画面定義のロジカルアトリビュートを使用して、プロファイル画面に注や警告をキャプチャしたり、ユーザ指定の値をフィジカルアトリビュートに格納する前に処理することができます。

フィールドを画面定義のロジカルアトリビュートとして定義する方法

1. [プロファイル画面を変更](#) (P. 29) して、画面定義のロジカルアトリビュートを使用するフィールドを追加または変更します。
2. 以下の画面定義のロジカルアトリビュート固有の値で、フィールドプロパティを作成または更新します。

属性名

[属性名] フィールドで [(ロジカルアトリビュート画面)] を選択します。

[|属性名|]

フィールドの属性名を指定します。任意の名前を選択できます。

複数値

画面定義のロジカルアトリビュートが複数値であると指定します。

注: デフォルトでは、このオプションはチェックされていません。このフィールドをチェックしないと、属性は1つの値のみになります。

名前

画面定義のロジカルアトリビュート名の表示名を入力します。

注: 画面定義のロジカルアトリビュートが、ロジカルアトリビュートハンドラと同じ名前の場合、画面定義のロジカルアトリビュートがロジカルアトリビュートハンドラに優先します。

3. すべての必須[フィールドプロパティ](#) (P. 32)を指定します。

[サブミット済みタスクの表示]の画面定義のロジカルアトリビュート

画面定義のロジカルアトリビュートを含むタスクをサブミットするとき、画面定義のロジカルアトリビュートの元の値と更新された値は、[サブミット済みタスクの表示] タブから [タスク詳細] 画面に表示されます。

プロフィール画面の追加コンポーネント

フィールドのほか、プロフィール画面にも以下のコンポーネントを1つ以上含めることができます。

- ページセパレータ
- 画像
- 添付ファイル
- 履歴表示
- カスタム HTML テキスト
- タスクを起動するリンクまたはボタン

セパレータ属性のオプション

[フィールドのプロパティ] ダイアログ ボックスの [属性] フィールドで [セパレータ] を選択すると、プロファイル画面にコンポーネントをさらに追加できます。セパレータ属性には、以下に示すスタイル オプションがあります。

[バイナリ](LDAP ユーザ ディレクトリの場合のみ)

証明書やその他のドキュメントなどのバイナリ ファイルを [ユーザのプロファイル] 画面に追加できます。

HTML

プロファイル画面に HTML が表示されます。

[履歴表示]

時系列で、以前の履歴エントリの詳細を含む読み取り専用のテーブルが表示されます。

履歴エントリは、サブミットしたタスクに追加できる注釈です。このような注釈は、ワークフローにおいてタスクの移動と共に追加でき、[サブミット済みタスクの表示] タスクを使用して表示できます。

[履歴エディタ]

新しい履歴エントリを入力するテキスト ボックスと、新しいエントリをサブミットするオプションのボタンが表示されます。

[ページ セクション]

プロファイル画面を複数のセクションに分割できます。各ページセクションの列数は、同じ画面の他のセクションとは異なる数にすることができます。

たとえば、[ページセクション] スタイルを使用して、1 番目のページセクションが 1 列で、2 番目のページセクションは 2 列のプロファイル画面を作成することができます。

[写真](LDAP ユーザ ディレクトリの場合のみ)

[ユーザのプロファイル] 画面に画像を追加できます。

[空白]

複数のフィールドを視覚的に分離するには、画面にスペースを追加します。

タスク

異なるタスクへのリンクを [プロファイル] タブに追加します。

プロフィール画面へのバイナリ属性または画像の追加

CA Identity Manager を設定して、[ユーザのプロファイル] 画面にバイナリ ファイルを含めたり、画像を表示することができます。たとえば、ユーザ プロファイル画面を設定して、証明書などのドキュメントをユーザがプロフィール画面に添付したり、管理対象のユーザのデジタル写真を表示することができます。

注: この機能は [ユーザのプロファイル] 画面でのみ使用できます。ユーザストアは LDAP ディレクトリであり、バイナリ属性または画像はディレクトリ設定ファイル (directory.xml) で定義された属性で保存する必要があります。

バイナリ属性または画像をプロフィール画面に追加する方法

1. [プロフィール画面を変更します](#) (P. 29)。
2. 画像を追加する行の下にあるフィールドを選択し、[追加] ボタンをクリックすると、選択した行の上に、1つのフィールドを含む1行が追加されます。

CA Identity Manager は、選択したフィールドの上に新しいフィールドを追加します。

3. 新しいフィールドを編集するには、[編集] アイコンをクリックします。
[フィールドのプロパティ] ダイアログ ボックスが開きます。
4. [属性名] フィールドから [(セパレータ)] 属性を選択します。
5. [スタイル] フィールドで以下のオプションのいずれかを選択します。

- [バイナリ]
- [画像]

[フィールドのプロパティ] ダイアログ ボックスに新しい設定フィールドが表示されます。

6. 必要に応じて、以下のフィールドに入力します。

- **名前**

プロフィール画面のこのフィールドに指定するラベル。

- **アクセス権**

フィールドの権限レベルです。

注: ユーザストアで必須のフィールドには、[必須] の設定を選択します。画面で、必須のフィールドには赤い点が表示されます。

- **読み取り**

管理者はフィールドを表示できますが、編集することはできません。

- **読み取り/書き込み**

管理者はフィールドの現在の値(存在する場合)を表示でき、フィールドに値を入力できます。

- **読み取り/書き込み必須**

必須フィールド。必須でない場合は、読み取り/書き込みの設定値として機能します。

- **ライトワンス**

管理者はフィールドの現在の値(存在する場合)を参照できませんが、フィールドに値を入力できます。

たとえば、管理者はユーザのパスワードを変更できますが、ユーザの現在のパスワードを表示することはできません。

- **書き込み必須**

必須フィールド。必須でない場合は、書き込みの設定値として機能します。

- **ラベルの幅**

ラベルの幅 (桁数)。

- **フィールドの幅**

フィールドの (ラベルを除く) 幅 (桁数)。

- **CSS クラス**

このフィールドの表示を制御するカスケードリングスタイルシートクラス。

注: このフィールドでは、画像の属性のみ使用可能です。

- **CSS スタイル**

CSS ルールを使用して定義されるフィールドのプロパティとスタイル。

このフィールドを使用して、フィールドの幅を設定できます。たとえば、画像を 300 ピクセルで表示するようにフィールドの幅を設定するには、[CSS スタイル] フィールドを以下のように指定します。

CSS スタイル

注: このフィールドでは、画像の属性のみ使用可能です。

- **バイナリ属性名**

画像を格納する属性の名前を指定します。この属性はユーザストアに存在する必要がありますが、ディレクトリ設定ファイル (directory.xml) には定義しません。

- **コンテンツ タイプ**

表示する画像の MIME タイプを指定します。たとえば、バイナリファイルの場合、application/octet-stream を指定できます。画像の場合、image/gif または image/jpg を指定できます。

- **代替コンテンツ**

特定のユーザ用の画像がない場合に表示される代替画像の URI を指定します。

CA Identity Manager には、別の画像が使用できない場合に表示されるデフォルトの画像が用意されていますが、このフィールドを使用してデフォルトの画像を無効にすることもできます。

デフォルトの画像は

iam_im.ear¥user_console.war¥ui¥images¥user_photo_default.jpg にあります。

iam_im.ear は、アプリケーション サーバ上の CA Identity Manager の配置場所です。

この属性と同じコンテンツ タイプを持つ代替画像のパス (user_console.war の相対パス) を指定します。

注: このフィールドは、[写真] スタイルを選択したときのみ使用可能です。

7. [適用] をクリックし、[OK] をクリックすると、変更が保存されます。

ページ セクションの追加

ページセクションを使用すると、プロフィール画面でフィールドを視覚的に分離できます。この場合、プロフィール画面内の異なる部分ごとにヘッダを追加し、異なる数の列を適用します。ページセクションのレイアウトは、別のページセクションがプロフィール画面に定義されるまで適用されます。

以下のプロフィール タブの例では、2つのページセクションが表示されています。

The screenshot shows a web form titled "Modify Contractor: jhansen". It has five tabs: Profile, Access Roles, Admin Roles, Provisioning Roles, and Groups. The "Profile" tab is active. Below the tabs, there is a legend: "• = Required". The form is divided into two distinct page sections. The first section, "Profile", contains the following fields: Organization (Employee), User ID (jhansen), First Name (Julia), Last Name (Hansen), and Email. The second section, "Contractor Information", contains the following fields: Employee Number, Department, Employee Type, Manager, Office, and Start Date (6/1/2012).

ページ セクションを追加する方法

1. [プロフィール画面を変更します](#) (P. 29)。
2. 作成するページセクションに表示する最初のフィールドを選択し、選択されたフィールドの前に1つのフィールドを含む1行を追加します。

CA Identity Manager は、選択したフィールドの上に新しいフィールドを追加します。このフィールドは、ページセクションの開始位置を示します。

3. 新しいフィールドを編集するには、右矢印アイコンをクリックします。

[フィールドのプロパティ] ダイアログ ボックスが開きます。

4. [属性名] フィールドから [(セパレータ)] 属性を選択します。
5. [スタイル] フィールドで [ページセクション] を選択します。

新規フィールドが [フィールドのプロパティ] ダイアログ ボックスに追加されます。

6. 以下のフィールドに値を指定します。

■ レイアウト用の列

ページセクションに含まれる列数を指定します。

列数を指定した後に、右矢印アイコンをクリックすると変更が適用されます。変更が適用されると、追加のフィールドが表示され、各列の幅を指定できるようになります。

注: 各フィールドには、フィールドラベルの列とフィールド値の列が含まれます。2つのフィールドを1行に表示するには、4列を追加します。

■ 表の見出し

ページセクションの上に見出しとして表示するテキストを指定します。

■ ヒントテキスト

ページセパレータの下に表示するテキストを指定します。

このフィールドを使用して、ページセクションに関する説明を提供したり、ページセクション内のフィールドに入力する手順を提供したりすることができます。

■ ボタンの表示/非表示の有効化

ページセクションの非表示をユーザが選択できるかどうかを指定します。このオプションを選択すると、ページセクションを表示または非表示にすることができる矢印アイコンが表の見出しに追加されます。

■ 最初是非表示

ページセクションがデフォルトで非表示であると指定します。

ユーザに対してそのページセクションを使用可能にする必要がある場合は、[最初是非表示] オプションを選択する際に必ず [ボタンの表示/非表示の有効化] オプションを選択し、ユーザがページセクションを表示できるように設定してください。

■ 列幅の指定

ページセクションの各列の幅を指定します。各列の幅は、プロフィール画面のパーセンテージで指定されます。

たとえば、同じ幅の4列を追加するには、各列の幅を25%に指定します。

注: 列幅の合計は100%でなければなりません。

7. [OK] をクリックすると、変更がフィールドプロパティに保存されます。

8. 編集またはコピーした画面を選択するには [選択] をクリックします。

9. [OK] をクリックし、[サブミット] をクリックすると、変更がタスクに保存されます。

ネストタスクの追加

ネストタスクは、別のタスクの [プロフィール] タブから開くことができる管理タスクです。最初のタスクのユーザは、リンクまたはボタンをクリックしてネストタスクを開きます。たとえば、[ユーザの変更] タスクに [ユーザの削除] ボタンを追加できます。ユーザアカウントが有効ではなくなった場合、管理者は [ユーザの削除] ボタンをクリックしてアカウントを削除することができるため、ナビゲーションペインに戻って新しいタスクを選択する必要がありません。

注: 管理者がネストタスクにアクセスできる適切な権限を持っていない場合、ネストタスクは表示されません。

ネストタスクを追加する方法

1. [プロフィール画面を変更します](#) (P. 29)。
2. ネストタスクを追加する行の下にあるフィールドを選択し、[追加] ボタンを押すと、選択した行の上に 1 つのフィールドを含む 1 行が追加されます。
CA Identity Manager は、選択したフィールドの上に新しいフィールドを追加します。
3. 新しいフィールドを編集するには、[編集] アイコンをクリックします。
[フィールドのプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
4. [属性名] フィールドから [(セパレータ)] 属性を選択します。
5. [スタイル] フィールドで [タスク] を選択します。
[フィールドのプロパティ] ダイアログボックスに新しい設定フィールドが表示されます。
6. 必要に応じて、以下のフィールドに入力します。
 - [フィールドの幅]
フィールドの (ラベルを除く) 幅 (桁数)。
 - [デフォルトタスク]
既存のタスクに追加するタスクを指定します。
 - [タスク名の上書き]
アクティブタスクの [プロフィール] 画面に表示するタスクリンクまたはボタンの名前を指定します。
 - [タスクリンク]
ネストタスクをリンクとボタンのどちらとして表示するかを指定します。

■ [現在のオブジェクトをタスクの対象として使用]

このオプションをオンにすると、CA Identity Manager によりアクティブ タスクの対象がタスクの対象として使用されます。たとえば、[ユーザの変更] タスクに、[ユーザの削除] タスクへのリンクが含まれるとします。管理者は [ユーザの変更] タスクを使用して John Smith のプロフィールを変更します。管理者は、John Smith のプロフィールが不要と判断し、[ユーザの削除] リンクを使用して [ユーザの削除] タスクを開きます。タスクが開くと、CA Identity Manager が管理者に、John Smith のプロフィールを削除するかどうかを確認します。削除するプロフィールを管理者が検索する必要はありません。

■ [タスク行動]

CA Identity Manager でタスクを開く方法が指定されます。

- [アクティブ タスクの置換]

アクティブ タスクが完了する前に新しいタスクを開きます。新しいタスクにより以前のタスクが置き換えられます。ネストタスクが完了したとき、ユーザは元のタスクに戻りません。

- [アクティブ タスク内にタスクをネスト]

アクティブ タスクが完了する前に新しいタスクをサブミットします。ユーザが新しいタスクを完了すると、元のタスクに戻ります。

- [アクティブ タスクにネストし、アクティブ タスクが正常に完了した場合のみ実行]

元のタスクが完了した後に新しいタスクをサブミットします。これはポスト タスクと呼ばれます。

プロフィール画面へのヘルプ テキストの追加

プロフィール画面にはあらゆる場所にテキストを追加することができ、これにより、フィールドのオンライン ヘルプ テキストなど、追加情報をユーザに表示できます。

プロフィール画面にヘルプ テキストを追加する方法

1. [プロフィール画面を変更します](#) (P. 29)。
2. オンライン ヘルプ テキストを追加する行の下にあるフィールドを選択し、[追加] ボタンを押すと、選択した行の上に、1つのフィールドを含む1行が追加されます。

CA Identity Manager は、選択したフィールドの上に新しいフィールドを追加します。

3. 新しいフィールドを編集するには、[編集] アイコンをクリックします。
[フィールドのプロパティ] ダイアログ ボックスが開きます。
4. [属性名] フィールドから [(セパレータ)] 属性を選択します。
5. [スタイル] フィールドで [HTML] を選択します。
[HTML] フィールドが表示されます。
6. たとえば、以下のように HTML タグを使用して、表示するテキストを入力します。
`<h1>オンライン ヘルプ テキストをここに追加します</h1>`
7. [OK] をクリックします。

注: カスタム HTML を別の言語で表示するには、カスタム HTML フィールドで以下の形式を使用してリソース キーを指定します。

`#{bundle=ResourceBundle:key=keyID}`

ResourceBundle

キー ID のテキスト文字列マッピングが含まれるリソース バンドルを指定します。

keyID

表示するテキスト文字列にマップするキー ID を指定します。マッピングはリソース バンドル内に存在する必要があります。

たとえば、ローカライズされたフィールドの HTML は以下のようになります。

```
<p>
#{bundle=MyResourceBundle;key=MyResourceKey}
</p>
```

注: リソース バンドルの詳細については、「ユーザ コンソール デザイン ガイド」を参照してください。

履歴エディタ フィールドの追加

履歴エディタはテキスト領域です。タスクのサブミット時にこのテキスト領域にテキストが含まれる場合、新しい履歴エントリが作成されます。履歴エディタにオプションのサブミット ボタンを含めて、タスクをサブミットすることなく履歴エントリを作成することができます。

履歴エディタ フィールドをプロフィール画面に追加する方法

1. [プロフィール画面を変更します](#) (P. 29)。
2. 変更するフィールドを選択するか、または新規フィールドを追加します。
3. [属性名] フィールドから [(セパレータ)] を選択します。
CA Identity Manager によって、表示されているフィールドが変更されます。
4. [スタイル] フィールドで [履歴エディタ] を選択します。
5. [ラベル] フィールドで、プロフィール画面に表示する履歴エディタ フィールドの名前を入力します。
6. 履歴ログ エントリに添えるテキストを入力します。[利害関係者] フィールドに、ログ エントリを作成したユーザのロールを記載します。

たとえば、以下の説明が、[承認者] の利害関係者ラベルを持つユーザの履歴表示の [ソース] 列に表示されます。

[承認者] の役割を果たす SalesMgr (John Doe) のユーザ コメント

これは文字列またはローカライズ キー場合があります。CA Identity Manager のローカライズルールに従って指定されます。利害関係者の種類はデフォルトでは空で、オプションです。

7. 履歴エディタの行および列の数を入力します。
注: 行および列の値を指定しない場合、履歴エディタはプロフィール画面に正しく表示されません。
8. [履歴レベル] フィールドで以下のいずれかのオプションを選択します。
 - [タスク レベル] — 承認タスクの場合、承認されるイベントに属するタスクです。承認タスク以外の場合、現在のタスクです。
 - [イベント レベル] — 承認タスクの場合、承認対象のイベントです。承認タスク以外の場合、結果は返されません。
9. [追加ボタンのラベル] フィールドで、送信ボタンに表示するテキストを指定します。

これは文字列またはローカライズ キー場合があります。CA Identity Manager のローカライズルールに従って指定されます。空 (デフォルト値) にすると、ボタン ラベルは [履歴イベントの追加] になります。

10. [ボタンの CSS クラスへの追加] フィールドで [追加] ボタンに使用する CSS クラスを指定します。

これらの文字列は、それぞれ「class」エレメントおよび「style」エレメントのコンテンツとして、プロフィール画面の <input> エレメントに含まれます。

11. [ボタンの CSS スタイルへの追加] フィールドで [追加] ボタンに使用する CSS クラスを指定します。

これらの文字列は、それぞれ「style」エレメントおよび「class」エレメントのコンテンツとして、プロフィール画面の <input> エレメントに含まれます。

12. [追加ボタンの有効化] フィールドをオンまたはオフにすることにより、履歴エディタ専用の独立した [追加] ボタンを含めるかどうかを指定します。

オンにした場合、このボタンでは、全体のタスクではなく新しい履歴エントリのみがサブミットされます。

詳細情報:

[\[履歴表示\] フィールドの追加 \(P. 87\)](#)

[履歴表示]フィールドの追加

履歴表示は、履歴エディタを使用して作成されたテキストエントリのリストです。履歴表示は、対象の種類に関係なく、すべてのプロフィール画面で表示できます。履歴表示には以下のフィールドプロパティ設定があります。

[履歴表示]フィールドをプロフィール画面に追加する方法

1. [プロフィール画面を変更します \(P. 29\)](#)。
2. 変更するフィールドを選択するか、または新規フィールドを追加します。
3. [属性名] フィールドから [(セパレータ)] を選択します。
CA Identity Manager によって、表示されているフィールドが変更されます。
4. [スタイル] フィールドで、[履歴表示] を選択します。
5. [ラベル] フィールドで、プロフィール画面に表示する履歴エディタ フィールドの名前を入力します。
6. [履歴レベル] フィールドで、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - [タスク レベル] — 承認タスクの場合、承認されるイベントに属するタスクです。承認タスク以外の場合、現在のタスクです。
 - [イベント レベル] — 承認タスクの場合、承認対象のイベントです。承認タスク以外の場合、結果は返されません。

7. [エン트리 タイプの表示] フィールドで、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - [ユーザの作成したエントリのみ] - 履歴エディタを使用して作成された実行時のエントリのみが表示されます。
 - [すべてのエントリ] - ワークフローまたはタスク コントローラで作成されたエントリを含む、すべてのエントリが表示されます。

タスクレベルの検証の設定

プロファイル タスク画面でフィールド プロパティを定義するとき、ユーザ コンソールでタスク レベルの検証を設定します。

タスクレベルの検証を設定する方法

1. プロファイル画面で、検証するフィールドを選択し、[フィールドのプロパティ] をクリックします。

タスクのタブ定義の一部として、プロファイル画面を定義します。

2. 検証ルールの実装方法に応じて、以下のフィールドのいずれかに値を指定します。

- 検証式： 検証を実行する正規表現を指定します。
- 検証 Java クラス： 検証を実行する Java クラスの完全修飾名を指定します。以下に例を示します。

```
com.mycompany.MyJavaValidator
```

CA Identity Manager では、カスタム Java クラス ファイルに指定されたルート ディレクトリに、クラス ファイルが格納されていると判断します。Java クラス ファイルの配置の詳細については、「*Programming Guide for Java*」を参照してください。

- 検証 JavaScript： 検証を実行する完全な JavaScript コードを指定します。JavaScript コードはこのフィールドに指定する必要があります。タスク レベルの検証では、JavaScript コードを含むファイルを参照することはできません。

3. (オプション) フィールドの変更と同時に検証が実行されるように、[変更時に検証] を有効にします。

4. (オプション) ユーザ、グループ、または組織の場合、プロフィール タブの [検証] ボタンを使用できます。[検証] ボタンはデフォルトで非表示です。このボタンを表示するには、タスクのプロフィール タブを設定するときに、[検証ボタンの非表示] オプションをオフにします。

フィールドの [変更時に検証] が有効で、そのフィールドの値が変化すると、[検証] ボタンで、画面上の他のフィールドが更新されます。

注: [検証] ボタンによって、検証メソッドを含むロジカルアトリビュートハンドラも実行されます。ロジカルアトリビュートハンドラの詳細については、「*Programming Guide for Java*」を参照してください。

ディレクトリ レベルの検証では、`directory.xml` ファイルのコンテンツに基づいてフィールドを検証します。

注: ディレクトリ レベルの検証、および CA Identity Manager に含まれるデフォルトの検証の詳細については、「*設定ガイド*」を参照してください。

ロールのユーザ定義のカスタム属性

CA Identity Manager は、ロールに関する追加情報を指定できるユーザ定義のカスタム属性に対応しています。この情報を、組織のロールをフィルタするために使用することもできます。たとえば、企業環境では 1000 を超えるロールが存在する場合があります。そのような企業では、各ロールに業務部門や地域といった追加情報を指定することができます。管理者は、このような追加情報を使用してロールの検索を簡易化することができます。

以下のロールについては、タスクの作成、変更、および表示にカスタム属性を使用できます。

- 管理ロール
- プロビジョニング ロール
- アクセス ロール

ロールのカスタム属性を設定するには、以下の概要手順に従います。

1. 管理ロール、プロビジョニング ロール、またはアクセス ロールを作成、変更、または表示するタスクの [プロフィール] タブに、カスタム属性に対するサポートを追加します。
2. カスタム属性を含めるように、そのロールの検索画面およびリスト画面を設定します。

詳細情報:

[ロールの \[プロフィール\] タブにおけるカスタム属性の設定 \(P. 90\)](#)
[検索画面の定義へのカスタム属性の追加 \(P. 91\)](#)

ロールの [プロフィール] タブにおけるカスタム属性の設定

CA Identity Manager では、ロールを作成、変更または表示するタスクの [プロフィール] タブに最大 10 個のカスタム属性を設定することができます。

[プロフィール] タブにおけるカスタム属性の設定方法

- 次のいずれかをクリックします。
 - [タスク] - [ロールおよびタスク]
 - [ロールおよびタスク]
- [管理タスク] - [管理タスクの変更] をクリックします。
[管理タスクの選択] 画面が表示されます。
- 変更する管理タスクを検索し、選択します。
選択した管理タスクの詳細が表示されます。
- [タブ] タブをクリックします。
この管理タスク用に設定されたタブが表示されます。
- 矢印アイコンをクリックし、[プロフィール] タブを編集します。
[プロフィールの設定] 画面が表示されます。
- カスタム属性を [プロフィール] タブに追加し、わかりやすいラベルを入力するには、各 [カスタム] フィールドの隣にあるチェック ボックスを選択します。
- [OK] をクリックします。
タスクをサブミットすると、変更されたタスクの [プロフィール] タブでカスタム属性が使用できるようになります。

注: ロール検索でカスタム属性を使用するには、カスタム属性を表示するように[検索画面を設定してください \(P. 91\)](#)。

検索画面の定義へのカスタム属性の追加

CA Identity Manager でロールをフィルタする場合は、検索画面で使用できる属性のみを使用できます。定義したカスタム属性に基づいてロールをフィルタするには、ロールの検索画面にカスタム属性を追加する必要があります。

ロールの検索画面に対するカスタム属性の追加方法

- 次のいずれかをクリックします。
 - [タスク] - [ロールおよびタスク]
 - [ロールおよびタスク]
- [管理タスク] - [管理タスクの変更] をクリックします。
[管理タスクの選択] 画面が表示されます。
- 変更するタスクを検索し、選択します。
検索画面にカスタム属性を追加するには、カスタム属性を含むロールのタイプ（管理、プロビジョニング、またはアクセス）の変更または表示タスクを選択します。
選択した管理タスクの詳細が表示されます。
- [管理ロールの変更] 画面で [検索] タブをクリックします。
検索画面の詳細が表示されます。
- そのタスクで使用できる検索画面定義のリストを表示するには、[参照] ボタンをクリックします。
[画面定義の選択] ページが開きます。
- 編集する検索画面定義を選択するか、既存の検索画面定義のコピーを作成します。
[標準検索画面の設定] が表示されます。
- 以下のテーブルにカスタム属性を追加します。
 - [ユーザが検索可能なフィールドを選択]
 - 検索結果に表示されるフィールドの選択
- [プロファイル] タブを設定した際に指定した名前と一致するように、カスタム属性の名前を変更します。
- 検索画面定義の変更を保存するには、[OK] をクリックします。
[画面定義の選択] 画面が再度開きます。
- 作成、または編集した画面を選択し [選択] をクリックします。

11. 検索オプションリストから [すべての管理ロール] を選択します。
12. [サブミット] をクリックします。

これで、検索画面の検索オプションにカスタム属性が追加され、検索結果に属性が表示されるようになりました。

第 4 章: [アカウント] タブの設定

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[\[アカウント\] タブ \(P. 93\)](#)

[\[アカウント\] タブを使用するための前提条件 \(P. 94\)](#)

[\[アカウント\] タブのフィールド \(P. 94\)](#)

[\[アカウント\] タブのその他の機能 \(P. 95\)](#)

[アカウント] タブ

[アカウント] タブには、プロビジョニング ロールを割り当てたユーザの管理エンドポイントのアカウントが表示されます。通常、このタブは、ユーザを表示または変更できるタスクに追加されます。

アカウント詳細

今すぐアクションを実行するアカウント名をクリックします。

選択	名前	エンドポイント	タイプ	エンドポイント	一時停止	ロック済み
<input checked="" type="checkbox"/>	 ken	Windows NT		iam-fw-wl10		

アカウントの作成

選択したアカウントに対するアクション

アカウントのリフレッシュ	一時停止	再開	ロック解除	パスワードの変更	割り当て解除	割り当て	削除
--------------	------	----	-------	----------	--------	------	----

[アカウント] タブを [ユーザの変更] タスクに追加すると、管理者はユーザのアカウントに対して他のアクションを実行できます。以下に例を示します。

- アカウントの一時停止または再開。
- 不正または不適切なアクセスによって自動的にロックされたアカウントのロック解除。たとえば、CA Identity Manager のパスワードポリシーに設定されているログイン失敗回数の上限を超えると、アカウントはロックされます。
- 1つ以上のアカウントでのユーザパスワードの変更。
- ユーザに対するアカウントの割り当てと割り当て解除。

[アカウント] タブで設定可能な他のオプションの詳細については、[アカウントの設定] タブのユーザ コンソールヘルプを参照してください。

[アカウント]タブを使用するための前提条件

[アカウント] タブを使用するには、プロビジョニング サポートを使用して CA Identity Manager を設定する必要があります。また、CA Identity Manager 環境にプロビジョニング ディレクトリが存在する必要があります。

注: 環境にプロビジョニング サポートを設定するには、「[設定ガイド](#)」を参照してください。

[アカウント]タブのフィールド

[アカウント] タブには、ユーザがエンドポイント システムで保持しているアカウントに関する詳細情報が表示されます。

特に重要なテーブルは以下のとおりです。

- 名前: アカウントのログイン名、電子メール名、またはその他の名前。
- エンドポイント タイプ: アカウントに関連付けられているエンドポイントのタイプ。LDAP ディレクトリなど。
- エンドポイント: アカウントに関連付けられている特定のエンドポイント。
- 一時停止: 3つの状態のうちの1つ。
 - アカウントが有効な場合は、アクティブが表示されます。
 - アカウントが無効の場合は、一時停止が表示されます。
 - 再開、または一時停止できない場合は、有効化を保留中(手動)が表示されます。アカウントを再開または一時停止するには、エンドポイント システムにログインする必要があります。
 - エンドポイントと通信できないために状態を取得できない場合、[利用不可]と表示されます。
- ロック済み: アカウントがロックされているかどうかを示します。ユーザが誤ったパスワードでアカウントへのログインを数回試みるとロックされます。エンドポイントと通信できないために状態を取得できない場合、[利用不可]と表示されます。

[アカウント]タブのその他の機能

ユーザを変更するタスクに [アカウント] タブを含めると、管理者はそのタスクを使用して、ユーザのアカウントに対してさまざまな機能を実行できます。使用できる機能は、タブ設定によって決まります。

使用できる機能を選択するには、[アカウント] タブが含まれたタスクで [管理タスクの変更] を使用します。[アカウント] タブを編集して、[アカウントの割り当て] や [アカウントのアサイン解除] などの機能を、タブで使用可能にするかどうかを指定します。

注: 詳細については、[アカウントの設定] タブのオンラインヘルプを参照してください。

第 5 章: [検索]画面および[リスト]画面

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[検索画面設定 \(P. 97\)](#)

[リスト画面 \(P. 108\)](#)

[検索画面とリスト画面の追加タスク \(P. 113\)](#)

検索画面設定

検索画面を設定して、タスクのスコープを制限し、ユーザが検索できるフィールドを制御します。検索画面は 2 種類のオブジェクトに適用されます。

- **プライマリ オブジェクト**: タスクから変更または表示できるオブジェクト。
- **セカンダリ オブジェクト**: プライマリ オブジェクトに関連があるオブジェクト。

たとえば、[ユーザの作成] タスクにグループ タブを含める場合、ユーザはプライマリ オブジェクトでグループはセカンダリ オブジェクトです。グループ タブにはグループの検索画面が必要です。

注: 検索画面の設定後は、プライマリ オブジェクトまたはセカンダリ オブジェクトを検索する任意のタスクに使用できます。

[検索]画面の変更

以下の目的で、既存の検索画面を変更できます。

- 検索フィルタのデフォルト値の設定
- 検索フィルタのフィールドの変更
- 検索結果のフィールドの変更
- 検索画面へのヘルプ テキストの追加

検索画面の変更方法

1. ユーザ コンソールで、[ルールおよびタスク] - [管理タスク] - [管理タスクの変更] を選択します。
2. 変更する管理タスクを検索して選択します。

選択したタスクを設定するタブが CA Identity Manager に表示されます。

3. [検索] タブを選択します。
4. (オプション) [変更されたオブジェクトは、管理者のスコープ内に残す必要があります] チェック ボックスを選択します。

このチェック ボックスを選択すると、タスクの変更により管理者のスコープからプライマリ オブジェクトが失われた場合、CA Identity Manager によりエラーが表示されます。たとえば、管理者は「ユーザの変更」を使用してユーザの従業員タイプ属性をマネージャに変更するとします。この変更により、このユーザは管理者のスコープから除外されることがあります。

注: このオプションは、ロールを管理するタスクには表示されません。

5. [画面] フィールドの横にある [参照] をクリックします。

CA Identity Manager により適用可能な画面のリストが表示されます。

6. 変更またはコピーする検索画面を選択し、以下のボタンのいずれかをクリックします。

- **Select**

設定している検索に、選択した画面を追加します。

- **編集**

選択した画面のフィールド、フィールドのプロパティ、レイアウトなど、設定を変更する新しい画面が開きます。

- **削除**

選択した画面を削除します。

- **新規**

画面を作成する新しい画面が開きます。新しい画面には、デフォルトのフィールドが含まれません。

- **コピー**

既存の画面の設定を使用して、新しい画面を作成します。既存の画面に基づいて新しい画面を作成するには、新しい名前とタグを画面に追加し、必要に応じて設定を変更します。

- **キャンセル**

[検索] の設定画面に戻ります。

[編集]、[新規]、または [コピー] を選択すると、CA Identity Manager により検索画面を作成または変更するための新しい画面が開かれます。

検索フィルタ

検索フィルタでは、検索によって返されるオブジェクトを制限します。たとえば、オブジェクトがユーザの場合、契約者のみを見つけるように検索を制限できます。[従業員タイプ]に「Contractor」を指定してユーザを検索するフィルタを設定できます。

検索用に以下のフィールドを設定できます。

[以下のルールに適合するオブジェクトのみ表示]

検索を制限するには、ユーザ定義フィルタと組み合わせる追加の基準を定義します。

このフィールドを使用するときは、以下の点に注意してください。

- プロビジョニング ロール検索の制限により、これらの基準は、ユーザが入力した同じ名前のフィルタ フィールドを上書きします。
- このフィールドを設定するときに使用した属性は、検索画面の使用可能な検索フィールドとして追加しないでください。

たとえば、検索画面を設定して、Enabled 属性が「Yes」に設定されているロールのみ表示する場合は、検索条件でユーザが指定できる属性のリストから Enabled 属性を削除します。

削除しない場合は、ユーザが入力した条件は無視されます。

[デフォルトの検索フィルタ]

管理者が検索画面を使用する場合、デフォルトで表示されるフィルタを定義します。たとえば、[Modify Contractor] タスクの検索画面を設定していて、管理者は通常、契約者の会社名で契約者を検索することがわかっている場合、デフォルト フィルタを「契約会社=*」に設定できます。管理者は、異なる検査基準を指定して、デフォルト フィルタを無効にできます。デフォルト フィルタを設定すると、検索の開始前に管理者がフィルタを指定しなくても、返される結果の数が制限されるため、パフォーマンスが向上します。

[複数選択タスクで使用時にすべての検索結果を自動選択]

デフォルトですべての検索結果を選択することを指定します。このチェック ボックスをオンにすると、検索結果リストのすべてのオブジェクトは、オブジェクト名の横のチェック ボックスがオンになって表示されます。

[自動的に検索を実行]

検索フィールドに検索結果が表示されるように指定します。

[単一の検索結果しかない場合、タスクの対象を自動的に設定]

1つのオブジェクトのみが検索フィルタに適合する場合、タスクのプライマリ オブジェクトが自動的に設定されます。

たとえば、[ユーザの変更] タスクに関連付けられているユーザ検索画面でこのオプションを選択したとします。管理者が[ユーザの変更] タスクを開き、検索フィルタを入力した結果、1人のユーザのみが返された場合、そのユーザの[ユーザの変更] タスクが開きます。管理者は、[ユーザの変更] タスクを開くためにユーザを選択する必要はありません。

注: この設定を適用するには、[自動的に検索を実行] も選択されている必要があります。

[検索フィルタの保存]

タスクの検索フィルタが現在のセッションのユーザ用に保存されるように指定します。タスク内で次の検索を実行すると、保存した検索フィルタが表示されます。

注: CA Identity Manager では、ユーザセッション期間の検索フィルタが保存されます。ユーザがログアウトすると、検索フィルタはクリアされます。

[組織内の検索]

検索画面に組織フィルタが表示されます。このチェック ボックスをオンにすると、管理者は CA Identity Manager でオブジェクトを検索する組織を制限するフィルタを指定できます。組織検索フィルタのデフォルトを指定するには、[組織検索] フィールドの検索画面を指定します。

[組織検索の保存]

検索対象となる組織が作成された場合、タスクの組織を保存するように指定します。タスク内で次の検索を実行すると、組織が表示されます。

[組織検索]

CA Identity Manager によって使用される検索画面で、管理者が組織を検索できるように指定します。

[デフォルトの組織検索スコープ]

管理者が検索画面を使用する際に表示される [デフォルトの組織検索スコープ] を指定します。検索スコープによって、検索に含まれる組織ツリーのレベルが指定されます。管理者は、検索画面で異なる検索基準を指定して [デフォルトの組織検索スコープ] を変更できます。

たとえば、契約者の情報をさまざまなレベルの組織ツリーに保存する環境にカスタマイズした [契約者の変更] タスク用に検索画面を設定した場合、[デフォルトの組織検索スコープ] を [かつ次より低い] に設定できます。

[単一式による検索]

検索画面に表示される検索フィルタのタイプを定義します。このチェックボックスをオンにすると、<attribute><comparator><value> など、単一の検索フィルタを指定できます。このチェックボックスをオフにすると、複数の検索フィルタを指定できます。たとえば、<attribute1><comparator><value1> AND <attribute2><comparator><value2> です。すべてのフィルタの条件に適合するオブジェクトが、検索結果に返されます。前の例では、<value1> と <value2> を含むオブジェクトが検索結果として返されます。

[等号のみの検索]

管理者に「=」以外の検索演算子の使用を禁止します。

[結果の件数の表示]

一致した検索結果の数が表示されます。このチェックボックスがオンの場合、すべての検索で、「X 個の結果があります。」というメッセージが返されます。

[次に対しタスク ボタンを追加] <task name>

別のタスクへのリンクを検索画面に追加します。リンクはボタンとして表示されます。

通常、このフィールドは、オブジェクト タスク ナビゲーションに設定されている検索画面に [作成] タスクを追加するために使用されます。

[オプションのラベル]

前のフィールドで選択したタスクのラベルを指定します。このラベルはタスクのボタンに表示されます。

[次に対し複数削除ボタンを追加] <task name>

管理者が複数オブジェクトを選択して削除できるタスクへのリンクを追加します。リンクはボタンとして表示されます。

通常、このフィールドは、オブジェクトタスク ナビゲーションと共に使用します。

検索フィールドと検索結果

検索画面の別の部分で、管理者が検索クエリに使用するフィールド、および検索結果を表示するフィールドを選択します。

[ユーザが検索可能なフィールドを選択]

管理者が検索クエリの作成に使用するフィールドを選択します。

フィールドをさらに追加するには、検索フィールドテーブルの下にあるリストボックスのフィールドを選択します。

フィールドを選択した後で、フィールドの右にある上矢印と下矢印のアイコンを使用して、表示する順序を変更できます。

注: 検索対象フィールドが指定されなかった場合、自動的に検索が開始されます。

検索結果に表示されるフィールドの選択

CA Identity Manager の検索結果に表示されるフィールドを選択します。検索クエリに使用できないフィールドを選択できます。

フィールドをさらに追加するには、検索フィールドテーブルの下にあるリストボックスのフィールドを選択します。

スタイル

検索結果に表示するフィールドを選択する場合、以下のスタイルオプションのいずれかを選択できます。

■ 論理値の表示名

true であるすべての結果のフィールド名が表示されます。たとえば、「有効」をユーザのアカウント ステータスを示す属性名として入力すると、すべてのアクティブなユーザ アカウントの検索結果に、「有効」が表示されます。

- **チェックマーク**

属性値に基づき、選択されたチェックマークとして値が表示されます。たとえば、ユーザアカウントの有効状態や無効状態を表すためにチェックマークスタイルを選択した場合、CA Identity Manager ではすべてのアクティブなアカウントに選択されたチェックマークが表示されます。

- **複数值文字列**

別個の行に複数值属性の値が表示されます。値はアルファベット順に表示されます。

- **読み取り専用チェックボックス**

値を読み取り専用チェックボックスとして表示します。

- **文字列**

値をテキスト文字列として表示します。

■ タスク

フィールドにタスク リストを追加します。ユーザが右矢印アイコンをクリックすると、検索フィールドに関連付けられたオブジェクトに対して実行できるタスクのリストが表示されます。たとえば、タスク リストを検索結果の [姓] フィールドに追加した場合、そのフィールドの矢印アイコンをクリックすると、選択したユーザに対して実行できるタスクのリストが表示されます。

この設定を使用して、属性値をタスクへのリンクとして表示することもできます。

[タスク] スタイルを選択している場合、[スタイル] 列の横に右矢印アイコンが表示されます。矢印をクリックすると、[フィールドのプロパティ] ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスを使用して、[タスク リスト](#) (P. 110)を設定します。

■ タスク リスト

検索画面とリスト画面内のオブジェクトでユーザが実行できるタスクを追加します。たとえば、[ユーザの変更] タスクの検索画面で、検索によって返されたユーザ リストから、ユーザの無効化などのタスクをユーザが実行できるように設定できます。

このオプションを選択する際、ユーザのアクセス方法をアイコンのクリックにするかテキスト リンクにするかを決定します。

■ タスク メニュー

ポップアップ メニュー アイテムとしてタスク (タスク リストに似たスタイル) を追加します。

このオプションを選択すると、検索画面またはリスト画面の各オブジェクトの横に [アクション] ボタンが表示されます。ユーザは、[アクション] ボタンをクリックして、そのオブジェクトに対して実行できるタスクのリストを表示します。

注: [タスク リスト] および [タスク メニュー] スタイル オプションを表示するには、検索結果テーブルにフィールドを追加する際に [(セパレータ)] を選択します。検索画面およびリスト画面へのタスクの追加の詳細については、「ユーザ コンソール デザイン ガイド」を参照してください。

並べ替え可能

このチェック ボックスを選択すると、検索結果を 1 つまたは複数のフィールドによって並べ替えることができます。

検索結果のデフォルトの並べ替え順の設定

検索結果の表示順を指定します。検索結果の表示は、はじめにリストの最初のフィールド、次に順番に残りの各フィールドによって並べ替えられます。[降順] チェック ボックスを選択すると、降順に結果が並べ替えられます。

[フィールドが変更されたオブジェクトの選択] の名前

ユーザが [選択] ボタンをクリックすると、指定されたフィールドに変更が加えられたオブジェクトが選択されるように指定します。

返す数 N (各ページ)

ページごとに表示できる結果の数を選択します。検索結果が指定した数を超える場合、各結果ページへのリンクが表示されます。

検索画面のユーザ定義ヘルプ

検索画面にカスタム テキストを追加する場合、対応する HTML テキスト ボックスでテキストを定義します。以下の領域にテキストを追加できます。

- ページの先頭または末尾
- 作成の前または後
- 結果の前または後

検索画面のタイプ

CA Identity Manager には、以下の事前設定の検索画面があります。

アクセス ロール検索画面

[アクセス ロール検索画面] を使用して、特定の基準に適合するアクセス ロールを見つける検索フィルタを設定できます。

アクセス タスク検索画面

[アクセス タスク検索画面] を使用して、特定の基準に適合するアクセス タスクを見つける検索フィルタを設定できます。この検索画面は、表示または変更するアクセス タスクを見つけるとき、またはアクセス ロールにタスクを追加するときに使用されます。

管理ロール検索画面

[管理ロール検索画面] を使用して、特定の基準に適合する管理ロールを見つける検索フィルタを設定できます。

管理タスク検索画面

[管理タスク検索画面] を使用して、特定の基準に適合する管理タスクを見つける検索フィルタを設定できます。この検索画面は、表示または変更する管理タスクを見つけるとき、または管理ロールにタスクを追加するとき使用されます。

承認検索画面

[承認検索画面] を使用すると、承認タスクの上部に表示される内容を設定できます。

証明書開始ユーザ検索画面

証明書開始ユーザ検索画面を使用すると、証明書が必要と設定するユーザを見つける検索フィルタを設定できます。選択されたユーザは、証明書のステータスが *証明書が必要* に設定されます。

認証ユーザの検索画面

[認証ユーザの検索] 画面を使用すると、証明書が必要なユーザを見つける検索フィルタを設定できます。

委任検索画面

委任検索画面を使用すると、委任されたユーザとして追加する新規ユーザを見つける検索フィルタを設定できます。委任されたユーザは、別のユーザのワークフローの作業アイテムを表示および解決する権限を一時的に付与されるユーザです。

ユーザの有効化/無効化の検索画面

[ユーザの有効化/無効化検索の画面] を使用すると、特定の基準に一致するユーザを有効化/無効化する検索フィルタを設定できます。

証明書終了ユーザ検索画面

証明書終了ユーザ検索画面を使用すると、証明書のサイクルが完了したユーザを特定する検索フィルタを設定できます。

エンド ユーザ使用許諾契約の検索画面

[エンドユーザ使用許諾契約の検索画面] を使用すると、自分のアイデンティティに基づいたアプリケーション固有のページを使用して、[自己登録] タスクを設定できます。

検索および関連付け検索

[検索および関連付け検索画面] を使用すると、特定の基準に一致する検索および関連付け定義の検索フィルタを設定できます。

フィーダ ファイル アップロード検索画面

フィーダ ファイル アップロード検索画面を使用すると、アップロードするフィーダ ファイルを参照できます。フィーダ ファイルは、大量の管理対象オブジェクトに繰り返しのアクションを自動的に実行するために使用します。

忘れたパスワードの検索画面/忘れたユーザ ID の検索画面

[忘れたパスワードの検索画面] を使用すると、アイデンティティを確認する情報をユーザに求めるように、[忘れたパスワード] タスクを設定できます。

グループ検索画面

グループ検索画面を使用すると、財務組織内のグループなど、グループの検索フィルタを設定できます。

アイデンティティ ポリシー セット検索画面

[アイデンティティ ポリシー セット検索画面] を使用すると、特定の基準に一致するアイデンティティ ポリシー セットを見つける検索フィルタを設定できます。

ロジカル アトリビュート ハンドラ検索画面

[ロジカル アトリビュート ハンドラ検索画面] を使用すると、ロジカル アトリビュート ハンドラを見つける検索フィルタを設定できます。この検索画面は、ロジカル アトリビュート ハンドラを見つけて設定を表示または変更するときに使用します。

レポート管理検索画面

[レポート管理検索画面] を使用すると、表示または削除するレポートを見つける検索フィルタを設定できます。

証明されていないユーザ検索画面

証明されていないユーザ検索画面を使用すると、証明期間の終了までに証明されなかったユーザを見つける検索フィルタを設定できます。

組織検索画面

[組織検索画面] を使用すると、組織の選択を特定の低位組織に制限する検索フィルタを設定できます。

プロビジョニング ロール検索画面

[プロビジョニング ロール検索画面] を使用すると、プロビジョニング ロールを取得する検索フィルタを設定できます。

アカウント テンプレート検索画面

アカウント テンプレート検索画面を使用すると、アカウント テンプレートを取得する検索フィルタを設定できます。

パスワード ポリシー検索画面

[パスワード ポリシー検索画面] を使用して、特定の基準に適合するパスワード ポリシーを見つける検索フィルタを設定できます。

スナップショット定義検索画面

スナップショット定義検索画面を使用すると、表示、変更、または削除するスナップショット定義を見つける検索フィルタを設定できます。

標準検索画面

[標準検索画面] を使用すると、カスタムの管理対象オブジェクトを見つけるフィルタを設定できます。

ユーザ検索画面

[ユーザ検索画面] を使用すると、特定の基準に一致するユーザを見つける検索フィルタを設定できます。たとえば、契約者であるユーザを検索できます。

[検索] タブに入力してから、タスクのタブを選択します。

リスト画面

設定タブで、ユーザやロールのリストなど、アイテムのリスト表示が必要な場合がよくあります。設定しているタブにリストが表示されます。このような場合、リスト画面を作成して、タブ上の列とオブジェクトの並べ替えを制御できます。

リスト画面では以下のフィールドを設定できます。

名前

タスクの名前を定義します。

タグ

タスク内で一意な識別子。タグには、ASCII 文字 (a ~ z、A ~ Z)、数字 (0 ~ 9)、またはアンダースコアを含めることが可能で、1 字目には文字かアンダースコアを使用します。タグは主として、XML ドキュメントまたは HTTP パラメータを通じてデータ値を設定するために使用されます。

フィールド

検索結果でフィールドとして表示される属性を指定します。

名前

検索結果のフィールドのラベルを指定します。

スタイル

検索結果のフィールドのフォーマットを指定します。以下のスタイルオプションを指定できます。

論理値の表示名

true であるすべての結果のフィールド名が表示されます。たとえば、「有効」をユーザのアカウント ステータスを示す属性名として入力すると、すべてのアクティブなユーザ アカウントの検索結果に、「有効」が表示されます。

チェックマーク

属性値に基づいて、選択された、または選択を解除したチェックマークとして値が表示されます。たとえば、ユーザ アカウントの有効/無効状態を表すためにチェック マーク スタイルを選択した場合、すべてのアクティブなアカウントに、選択されたチェックマークが表示されます。

複数值文字列

別個の行に複数值属性の値が表示されます。値はアルファベット順に表示されます。

読み取り専用チェックボックス

値を読み取り専用チェックボックスとして表示します。

文字列

値をテキスト文字列として表示します。

タスク

フィールドにタスク リストを追加します。ユーザが右矢印アイコンをクリックすると、検索フィールドに関連付けられたオブジェクトに対して実行できるタスクのリストが表示されます。たとえば、タスク リストを検索結果の [姓] フィールドに追加した場合、そのフィールドの矢印アイコンをクリックすると、選択したユーザに対して実行できるタスクのリストが表示されます。

[並べ替え可能]

選択したフィールドに基づいて検索結果を並べ替えることができるかどうかを指定します。

降順

検索結果の表示順を指定します。[降順] チェック ボックスをオンにすると、検索結果は降順のアルファベット順に並べ替えられます。リストに表示されている順番に結果が並べ替えられます。

(各ページ)

検索結果に表示する検索結果の数を指定します。

リストの前に表示する HTML の入力

検索結果のリストの上に表示するテキストを指定します。

リストの後に表示する HTML の入力

検索結果のリストの下に表示するテキストを指定します。

リスト画面の上と下にもテキストを追加できます。

タスクリストの追加

タスク リストは、リスト画面や検索結果画面など、オブジェクトのリストからアクセスするタスクのメニューです。タスク リストを使用すると、新しいタスクを使用するたびにオブジェクトを検索しなくても、オブジェクトに適用するタスクを表示および使用できます。たとえば、CA Identity Manager を設定して、[管理 ロール メンバの変更] タスクの [メンバシップ] タブに表示される各ロール メンバ用にタスク メニューを表示させることができます。管理者はタスク メニューを使用して、ロール メンバごとに新しい検索を実行することなく、ロール メンバを管理できます。

タスクリストを追加する方法

1. 以下のいずれかの操作を実行します。
 - [ルールおよびタスク] - [管理タスク] から [管理タスクの変更] を選択します。変更する管理タスクを検索して選択します。
 - [ルールおよびタスク] - [管理タスク] から [管理タスクの変更] を選択します。次に、[管理タスクのコピーの作成] を選択し、コピーするタスクを検索します。

選択したタスクを設定するタブが **CA Identity Manager** に表示されます。

2. タスク リストを追加するタブを選択します。

通常、[メンバシップ] タブなど、検索画面またはリスト画面を含むタブです。
3. [参照] をクリックして、リスト画面または検索画面を検索します。
4. 検索結果に表示されるフィールドリストから、タスク リストのフィールドを選択します。
5. [スタイル] フィールドで [タスク] を選択します。
6. タスク リストを設定できる [フィールドプロパティ] セクションを開くには、右矢印アイコンをクリックします。
7. 必要に応じて、以下のフィールドに入力します。

- **[デフォルト タスク]**

ユーザがフィールドの値をクリックしたときに開くタスクを指定します。タスク リストをサポートするフィールドを設定して、デフォルト タスクを指定すると、リンクを示す青色のテキストでフィールド値が表示されます。

たとえば、[姓] フィールドにタスク リストが含まれるように設定すると、管理者はユーザの姓をクリックしてデフォルト タスクを開くことができます。

- **Alternate Task (代替タスク)**

フィールド値をクリックしたユーザがデフォルト タスクを使用する権限を持たない場合に開くタスクを指定します。

■ **ポップアップタスクメニューの有効化**

フィールドの横に右矢印アイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、そのフィールド内で、そのオブジェクトに対して、ユーザが実行できるタスクのリストが表示されます。

このチェックボックスをオンにすると、以下のオプションが表示されます。

- **管理者がこのオブジェクト上で実行できるすべてのタスクを含みます**
- **メニュー上で非表示で無い限り管理者がこのオブジェクト上で実行できるすべてのタスクを含みます**
- **指定されたタスクのみを含みます**

[タスク] フィールドで指定したタスクのみが表示されます。

注: 指定したタスクを使用する権限がユーザにない場合、そのタスクは表示されません。

- **指定されたタスクを除外します**

管理者がオブジェクトに対して実行できるタスクが表示されます。ただし、[タスク] フィールドに表示されるタスクは**除きます**。

- **タスク**

[指定されたタスクのみを含みます] チェックボックスまたは [指定されたタスクを除外します] チェックボックスを選択して、タスクリストに表示するタスク、または表示しないタスクを指定します。

■ **ネストタスク**

オンの場合、CA Identity Manager がネストタスクとしてタスクを開くように指定します。ユーザがネストタスクを完了すると、元のタスクに戻ります。

このオプションがオフの場合、新しいタスクが元のタスクを置き換えます。

8. [OK] をクリックします。

検索画面とリスト画面の追加タスク

CA Identity Manager を設定して、検索画面およびリスト画面でユーザが実行できるアクションを追加することができます。たとえば、[ユーザの変更] タスクの検索画面で、検索によって返されたユーザリストから、ユーザの無効化などのタスクをユーザが実行できるように設定できます。

検索画面やリスト画面にタスクを追加すると、タスクを完了するのに必要なクリック回数が減り、ユーザコンソールが簡略化されます。

検索画面およびリスト画面のタスクは、以下の方法のいずれかを使用して表示できます。

- タスク リンクまたはタスク アイコン

検索結果またはリスト画面で、各タスクをリンクまたはアイコンとして表示します。この方法は、少数のタスクを表示する際に使用します。

Modify Contractor: Select User

Search for a user

Search for a user
in organization Browse Clear

where + User ID ▼ = ▼ *j* - + Search Clear

Search Results

1-3 of 3

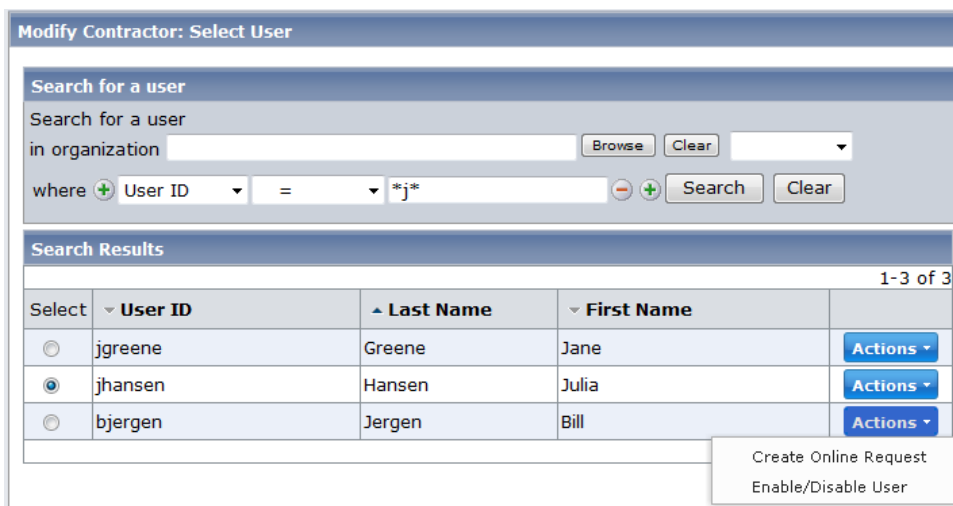
Select	User ID	Last Name	First Name	
<input type="radio"/>	jgreene	Greene	Jane	
<input checked="" type="radio"/>	jhansen	Hansen	Julia	
<input type="radio"/>	bjergen	Jergen	Bill	

1-3 of 3

- タスク メニュー

検索結果またはリスト画面で、各行に [アクション] ボタンを表示します。管理者は、[アクション] ボタンをクリックして、そのユーザに対して実行できるタスクのリストを表示します。

この方法は、ユーザが 3、4 つ以上のタスクを実行できる場合に使用します。



検索画面およびリスト画面へのタスクの追加

タスク完了までの手順を減らすために、検索画面またはリスト画面から追加タスクを起動できるように CA Identity Manager を設定できます。

検索画面およびリスト画面へのタスクの追加方法

1. 検索画面またはリスト画面を変更します。
[標準検索画面の設定] 画面が表示されます。
2. 検索結果フィールドセクションに以下のように新しい行を追加します。
 - a. 検索結果テーブルの下にある「+」アイコンをクリックして、新規行を追加します。
 - b. 区切り記号のスタイルを選択します。
 - c. 以下のいずれかのオプションを選択し、次に編集アイコンをダブルクリックして、追加タスクを設定します。
 - タスク リンク
追加タスクがアイコンまたはテキスト リンクとして表示されます。
 - タスク メニュー
[アクション] ボタンを表示します。ユーザがこのボタンをクリックすると、実行できるタスクのメニューが表示されます。

3. [タスク リンク] を選択した場合は、以下の手順に従います。
 - a. タスク アイコンまたはデフォルト タスク フィールド内のリンクをクリックすると開くタスクを指定します。
 - b. デフォルト タスクを開く権限がユーザにない場合は、代わりに開くタスクを指定します。
 - c. [ネスト タスク] フィールドを選択またはクリアして、**CA Identity Manager** がどのようにタスクを開始するかを決定します。

このオプションが選択されていると、タスクはネストタスクとして開きます。ユーザがネストタスクを完了すると、検索画面またはリスト画面に戻ります。
 - d. [タスク アイコン] フィールドを選択またはクリアして、追加タスクの表示方法（アイコンまたはテキストリンク）を決定します。

ユーザがこのオプションをクリアすると、タスクはテキストリンクとして表示されます。
4. [タスク メニュー] を選択した場合は、以下の手順に従います。
 - a. **CA Identity Manager** がタスク メニューに表示するタスクのタイプを選択します。
 - b. 手順 a で [指定されたタスクのみを含みます] または [指定されたタスクを除外します] オプションを選択した場合に表示するタスクを指定します。
 - c. [ネスト タスク] オプションを選択またはクリアして、メニュー タスクをネストタスクとして開くかどうかを決定します。

[タスクのネスト] オプションを選択すると、**CA Identity Manager** は、追加タスクが完了したときにタスクを起動する場所をユーザに返します。
5. [OK] をクリックした後、[選択] をクリックします。
6. [OK] - [サブミット] をクリックし、画面の変更内容を保存します。

第 6 章: セルフサービス タスク

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA Identity Manager のセルフサービス タスク \(P. 117\)](#)

[セルフサービス タスクの設定方法 \(P. 118\)](#)

[自己登録タスクの設定 \(P. 119\)](#)

[忘れたパスワードのリセットおよび忘れたユーザ ID タスクの設定 \(P. 122\)](#)

[\[ログアウト\] ページ \(P. 132\)](#)

CA Identity Manager のセルフサービス タスク

セルフサービス タスクは、ユーザが自分のプロフィールを管理するために使用できる CA Identity Manager タスクです。このタスクには以下の 2 つの種類があります。

- **パブリック タスク**：ユーザがログイン認証情報を提供せずに使用できるタスクです。パブリック タスクの例は、自己登録、忘れたパスワード、忘れたユーザ ID のタスクです。
- **保護タスク**：ユーザによる有効な認定情報の入力が必要なタスクです。例として、パスワードまたはプロフィール情報の変更タスクなどがあります。これらのタスクへのアクセスを取得するには、自己管理マネージャなどのロールをユーザに指定する必要があります。

以下の表に、CA Identity Manager をインストールすると使用できる、デフォルトのセルフサービス タスクを示します。

タスクタイプ	タスク
パブリック タスク	<ul style="list-style-type: none">■ 自己登録：ユーザが企業の Web サイトに登録することができます。■ 忘れたパスワードのリセット：ユーザが忘れたパスワードをリセットできます。■ 忘れたパスワード：CA Identity Manager にログインするときにユーザが使用できる一時パスワードを表示します。ユーザがログインすると、新しいパスワードの入力が求められます。■ 忘れたユーザ ID：忘れたユーザ ID を取得またはリセットします。

タスクタイプ	タスク
保護タスク	<ul style="list-style-type: none"> ■ マイ パスワードの変更：ユーザがパスワードをリセットできます。 ■ マイ プロファイルの変更：住所および電話番号などのプロフィール情報を保守します。 ■ マイ グループの変更：ユーザがグループに参加することができます。 ■ マイ ロールの表示：ユーザのロールを表示します。 ■ サブミット済みタスクの表示：ユーザが開始した CA Identity Manager タスクを表示します。

セルフサービス タスクの設定方法

以下の表では、CA Identity Manager 環境でのセルフサービス タスクの設定手順について説明しています。手順の一部はオプションです。

手順	参照先
1. 管理コンソールのパブリック エイリアスを設定して、自己登録、忘れたパスワードのリセット、および忘れたユーザ ID のタスクなどのパブリック タスクにユーザがアクセスできるようにします。	設定ガイド
2. お使いの環境で適用するセルフサービス タスクを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自己登録タスクの設定 (P. 119) ■ 忘れたパスワードのリセットおよび忘れたユーザ ID タスクの設定 (P. 122)
3. お使いの環境のセルフサービス タスクをカスタマイズします。	セルフサービス タスクのカスタマイズ
4. セルフサービス タスクにアクセスするリンクを自社の企業 Web サイトに追加します。	セルフサービス タスクへのアクセス

5. 自己管理マネージャ ロールを設定します。（オプショ *管理ガイド*ン）。

デフォルトでは、自己管理マネージャ ロールはすべてのユーザに割り当てられています。このロールへのアクセス権限があるユーザを制限する場合のみこの手順を実行してください。

自己登録タスクの設定

ユーザの自己登録を設定するには、まず、CA Identity Manager 環境のパブリックタスクのエイリアスがあることを確認します。（詳細については、「*設定ガイド*」を参照してください）。その後、自己登録タスクを設定します。

注: デフォルトの [自己登録] タスクの上書きを回避するには、このタスクのコピーを作成します。必要に応じて新しいタスクをカスタマイズします。

1. ユーザ コンソールで、[ルールおよびタスク] - [管理タスク] - [管理タスクの変更] を選択します。
2. [自己登録] タスクを選択します。
3. [検索] タブで、[参照] をクリックして、[エンドユーザ使用許諾契約] の画面を選択します。

この画面を編集して、適切なタイトルとメッセージ URL を表示します。

メッセージ URL では、新規ユーザがアプリケーションのライセンス制限に同意することを求めるために、作成したページを使用します。

4. [タブ] タブで、必要に応じて [Profile and Groups] タブを編集します。
 - CA Identity Manager 環境によって組織がサポートされている場合は、[自己登録されたユーザのプロファイルが保存されているデフォルトの組織を指定します](#) (P. 120)。
 - デフォルトのタスクがビジネス要件に適していない場合は、プロファイルと一覧の画面をカスタマイズします。
 - CA Identity Manager 環境によって忘れたパスワードまたは忘れたユーザ ID がサポートされている場合は、[パスワードの質問と回答を収集するフィールドを追加します](#) (P. 120)。

自己登録ユーザのデフォルトの組織の設定

CA Identity Manager 環境で組織がサポートされている場合は、CA Identity Manager により自己登録ユーザのアカウントが作成される組織を指定できます。

注: 異なる環境で、顧客とサプライヤなどの異なる種類のユーザのプロファイルを保存するには、個別のデフォルトの組織ごとに複数の自己登録タスクを作成します。たとえば、顧客が自分の組織に自己登録して、サプライヤが自分の組織に登録する場合、顧客の登録とサプライヤの登録という 2 つの自己登録タスクを作成します。各タスクごとに、適切なデフォルトの組織を定義します。

1. 必要に応じて、[自己登録] タスクの [プロファイルの設定] 画面に移動します。
 - a. ユーザ コンソールで、[ロールおよびタスク] - [管理タスク] - [管理タスクの変更] を選択します。
 - b. [自己登録] タスクを選択します。
 - c. [タブ] タブを選択します。
 - d. [プロファイル] タブの横にある右矢印をクリックします。
2. [プロファイルの設定] 画面で、[デフォルトの組織] の横にある [参照] をクリックします。
3. 新しいユーザを作成する組織を選択します。
4. 変更内容を保存します。

確認質問と回答の追加

忘れたパスワードまたはユーザ ID を取得するために使用可能な、質問と回答のペアをユーザが指定できるようにするには、質問と回答フィールドを自己登録画面に追加します。

注: 質問と回答フィールドを追加して確認情報を収集する前に、質問と回答のペアのロジカルアトリビュートが、忘れたパスワードのロジカルアトリビュートハンドラで設定されていることを確認します。ロジカルアトリビュートハンドラは、ユーザ コンソールまたは管理コンソールで設定します。詳細については、使用するコンソールのオンライン ヘルプを参照してください。

確認質問と回答を追加する方法

1. 必要に応じて、[自己登録] タスクの [プロフィールの設定] 画面に移動します。
 - a. ユーザ コンソールで、[ロールおよびタスク] - [管理タスク] - [管理タスクの変更] を選択します。
 - b. [自己登録] タスクを選択します。
 - c. [タブ] タブを選択します。
 - d. [プロフィール] タブの横にある [編集] アイコンをクリックします。
2. [標準プロフィール画面の設定] で、[画面] フィールドの横にある [参照] をクリックします。

[画面定義の選択] 画面が開きます。
3. [自己登録プロフィール] を選択してから、[コピー] をクリックします。
4. 作成するカスタム自己登録プロフィール画面の新しい名前およびタグを指定します。

タグには、ASCII 文字 (a ~ z、A ~ Z)、数字 (0 ~ 9)、またはアンダースコアを含めることが可能で、1 字目には文字かアンダースコアを使用します。
5. 確認の質問と回答で表示する行数とフィールド数を追加します。

たとえば、ユーザが 2 つの質問と回答のペアを指定する場合は、2 つの行と 2 つのフィールドを追加します。
6. 最初の質問のフィールドプロパティでは、使用可能な属性のリストから |Question 1| を選択します。必要に応じてフィールドプロパティを設定します。

注: ロジカルアトリビュートハンドラ `ForgottenPasswordHandler` を設定してユーザが選択可能な質問のリストを表示する場合は、[オプションセレクト] スタイルを指定します。
7. 追加する新しいフィールドごとに手順 6 を繰り返します。
8. [適用] をクリックします。

[画面定義の選択] 画面が再度開きます。
9. 画面定義が選択されていることを確認して、[選択] をクリックします。

[プロフィールの設定] 画面が表示されます。
10. [OK] をクリックして [プロフィールの設定] 画面を閉じ、[タブ] タブに戻ります。

忘れたパスワードのリセットおよび忘れたユーザ ID タスクの設定

CA Identity Manager には、パスワードまたはユーザ ID を忘れたために自分のアカウントにアクセスできないユーザ用に以下のデフォルトのタスクがあります。

- [忘れたパスワードのリセット タスク](#) (P. 122)
- [忘れたユーザ ID タスク](#) (P. 122)

インストール時のタスクを使用することも、ニーズに合わせてカスタマイズすることもできます。

忘れたパスワードのリセット タスク

[忘れたパスワードのリセット] タスクを使用すると、CA Identity Manager によりユーザの身元が確認された後に、ユーザがパスワードをリセットできます。CA Identity Manager により以下の 2 種類の質問でユーザの身元が確認されます。

- 識別の質問 - ユーザを判別します。たとえば、ユーザの氏名、ユーザ ID、または電子メールアドレスがあります。
- 確認の質問 - ユーザの身元を確認します。CA Identity Manager の設定方法に応じて、ユーザが独自の確認の質問を指定したり、事前定義済みのリストから質問を選択することもできます。

デフォルトの [忘れたパスワードのリセット] タスクでは、ユーザはユーザ ID を入力して 5 つの確認の質問に回答する必要があります。それぞれ個別の画面に表示される確認の質問は、登録時にユーザが指定した 5 つの質問のリストからランダムに選択されます。

CA Identity Manager によりユーザの身元が確認されると、ユーザが新しいパスワードを入力できる画面が表示されます。

忘れたユーザ ID タスク

デフォルトの [忘れたユーザ ID] タスクでは、電子メールアドレスを入力して、1 つの確認の質問に回答し、ユーザ コンソールのユーザ ID を確認する必要があります。個別の画面に表示される確認の質問は、登録時にユーザが指定した 5 つの質問のリストからランダムに選択されます。

[忘れたパスワードのリセット]タスクまたは[忘れたユーザ ID]タスクのカスタマイズ

インストール時の [忘れたパスワードのリセット] タスクまたは [忘れたユーザ ID] タスクを使用することも、お使いの環境でこのタスクをカスタマイズすることもできます。以下の操作を行うことができます。

- 身元を確認するためにユーザが正しく回答する必要のある [質問](#) (P. 123) の数を指定します。
- ユーザが自分の [確認の質問](#) (P. 123) を指定するか、または事前定義済みのリストから質問を選択するかを決定します。
- 画面上での確認の質問の [表示を定義します](#) (P. 126)。
- [身元確認のために](#) (P. 128)、社会保障番号などの追加情報を入力するようにユーザに要求します。
- ユーザが [パスワード](#) (P. 131) または [ユーザ ID](#) (P. 132) を受け取る方法を決定します。
- 確認の試行の失敗が 3 回を超えるなど、[このタスクからユーザをロックアウトする](#) (P. 129) 基準を指定します。

注: [忘れたパスワードのリセット] タスクは、多くの場合アウトバウンド同期用に設定されるべきではありません。一時パスワードは、プロビジョニングユーザに関連付けられている各アカウントのパスワード構成ルールに一致しない可能性があります。このため、ForgottenPasswordEvent はデフォルトのプロビジョニングアウトバウンドマッピングに含まれていません。

ユーザ確認の質問と回答のペアの収集

ユーザは、身元確認に使用される質問と回答のペアを指定する必要があります。

ユーザが独自の質問を作成することを許可したり、リストから事前定義済みの質問を選択するようにユーザに要求することもできます。

質問と回答のペアを収集するように CA Identity Manager を設定するには、以下の手順に従います。

- 質問と回答を収集するフィールドを、[自己登録]、[マイプロフィールの変更]、および [マイパスワードの変更] [タスク](#) (P. 119) に追加します。
- ユーザコンソールまたは管理コンソールで ForgottenPasswordHandler ハンドラを設定します。設定の詳細については、使用するコンソールのオンラインヘルプを参照してください。

忘れたパスワードのリセットまたは忘れたユーザ ID タスクの設定

[忘れたパスワードのリセット] タスクと [忘れたユーザ ID] タスクの設定は、似ています。

これらのタスクを設定する方法

1. 以下のアイテムが管理コンソールで設定されていることを確認します。
 - パブリック エイリアス
[忘れたパスワードのリセット] タスクや [忘れたユーザ ID] タスクなど、パブリック タスクにアクセスするために CA Identity Manager により URL に追加されたテキスト文字列。
注: 詳細については、[「](#)を参照してください。
 - ForgottenPasswordHandler
ユーザが 1 つ以上の確認の質問を作成したり、事前定義済みのリストから質問を選択することができるロジカルアトリビュートハンドラ
詳細については、[「Programming Guide for Java」](#) を参照してください。
注: ユーザ コンソールで ForgottenPasswordHandler を設定することもできます。詳細については、ユーザ コンソールの [ヘルプ] ボタンをクリックしてください。
2. ユーザ コンソールで、次のいずれかを実行します。
 - [忘れたパスワードのリセット] タスクまたは [忘れたユーザ ID] タスク (推奨) のコピーを作成するには、[ロールおよびタスク] - [管理ロール] - [管理タスクの作成] を選択します。 [管理タスクのコピーの作成] を選択して、コピーするタスクを検索します。
 - デフォルトのタスクを変更するには、[ロールおよびタスク] - [管理タスク] - [管理タスクの変更] を選択します。 変更するタスクを検索します。
CA Identity Manager に入力した基準に一致するタスクが表示されます。
3. [忘れたパスワードのリセット] タスクまたは [忘れたユーザ ID] タスクを選択します。
4. [検索] タブで、[参照] をクリックして、編集する画面のリストを表示します。
5. 以下のいずれかを選択して、[編集] をクリックします。
 - 忘れたパスワードの検索
 - 忘れたユーザ ID の検索

6. ニーズに基づいて以下の設定を行います。
 - 識別画面
ユーザを判別します。これは、[忘れたパスワードのリセット] タスクまたは [忘れたユーザ ID タスク] にアクセスしたときにユーザに表示される最初の画面です。
 - 確認画面
ユーザに 1 つ以上の確認の質問を表示します。
7. 身元を確認するためにユーザが回答する必要がある質問の数を入力します。

注: 単独の画面に複数の確認の質問を表示するように CA Identity Manager を設定すると、質問の数は、このタスクに関連付けられたロジカルアトリビュートハンドラによって決定します。[質問の数] 設定は適用されません。
8. [忘れたユーザ ID] または [パスワード] タスクをロックする基準を設定します。
9. タスクをサブミットします。

識別画面の設計

識別画面は、[忘れたパスワードのリセット] タスクまたは [忘れたユーザ ID] タスクにアクセスしたときにユーザに表示される最初の画面です。

デフォルトの識別画面は、ユーザにユーザ ID の入力を求める画面です。ニーズに合わせて、識別画面のフィールドを追加したり変更することができます。

次の手順に従ってください:

1. 必要に応じて、CA Identity Manager ユーザ コンソールの [忘れたパスワードの検索] または [忘れたユーザ ID の検索] の画面に移動します。
 - a. [ロールおよびタスク] - [管理タスク] - [管理タスクの変更] を選択します。
 - b. [忘れたパスワードのリセット] タスクまたは [忘れたユーザ ID] タスクを選択します。
 - c. [検索] タブで、[参照] をクリックして、編集する画面のリストを表示します。
 - d. 以下のいずれかを選択して、[編集] をクリックします。
 - 忘れたパスワードの検索
 - 忘れたユーザ ID の検索

2. [プロンプト] フィールドに、ユーザがアカウント情報を入力する領域の上に表示されるテキストを入力します。
3. [識別用のプロフィール画面] フィールドで適切な画面を選択します。
4. 画面を変更し、ユーザの入力が必要となる属性の選択肢を追加します。

確認画面の設計

ユーザが識別画面の入力を正常に完了すると、身元確認のために情報の入力が必要となる確認画面にリダイレクトされます。ユーザは、1つ以上の質問に回答するか、社会保障番号などの属性を入力するように求められる場合があります。

ユーザが複数の確認の質問に回答する必要がある場合、CA Identity Manager では単独の画面または個別の画面にこの質問を表示することができます。

一度に複数の確認の質問を表示する

身元確認のためにユーザが複数の質問に回答する場合は、単独の画面にこれらの質問を表示することができます。

注: 単独の画面に複数の質問が表示される場合、ユーザの回答が必要な質問数は、タスクの検索画面で設定した質問の数ではなく、プライマリ確認のプロフィール画面に追加した質問と回答のペアの数によって決まります。

単独の画面に複数の確認の質問を表示する方法

1. 複数の質問と回答のペアのために、忘れたパスワードのロジカルアトリビュートハンドラを設定します。

ユーザ コンソールまたは管理コンソールで `ForgottenPasswordHandler` を設定できます。詳細については、使用するコンソールのオンライン ヘルプを参照してください。

設定する質問の数に応じて、`|VerifyQuestion1|`、`|VerifyAnswer1|` ペアを追加します。

2. 必要に応じて、[忘れたパスワードの検索の設定] 画面または [忘れた ID の検索の設定] の画面に移動します。
3. [プライマリ確認画面のプロンプト] フィールドに、ユーザが確認情報を入力する領域の上に表示されるテキストを入力します。

4. [プライマリ確認用のプロフィール画面] フィールドで、[忘れたパスワードの確認] 画面などの画面定義を選択します。
5. 画面定義を変更して、画面に表示する確認の質問と回答のペアごとにロジカルアトリビュートを指定します。たとえば、以下のようにフィールドを追加します。

|VerifyQuestion1| - 読み取り専用

|VerifyAnswer1| - 書き込みが必要

注: 詳細については、忘れたパスワードのロジカルアトリビュートハンドラのオンラインヘルプを参照してください。

6. [セカンダリ確認画面のプロンプト] フィールドおよび [セカンダリ確認用のプロフィール画面] フィールドが [忘れたパスワードの検索の設定] 画面または [忘れた ID の検索の設定] 画面で空白となっていることを確認します。
7. [質問の数] フィールドにユーザが正しく回答する必要がある質問の数を入力します。
8. [OK] をクリックします。

一度に1つの確認質問を表示する

セキュリティを高めるために、一度に表示する質問を1つのみにすることができます。後続の質問は、前の質問に正しく回答した場合のみ表示されます。

個別のページに各確認の質問を表示するには、[Primary Verification Screen (プライマリ確認画面)] および [Secondary Verification Screen (セカンダリ確認画面)] を定義します。

[Primary Verification Screen (プライマリ確認画面)] は、ユーザ ID などの有効な身元確認をユーザが入力した後に表示されます。ユーザがプライマリ確認画面の質問に正しく回答すると、CA Identity Manager には、残りの各質問のセカンダリ確認画面が表示されます。

プライマリ設定画面とセカンダリ設定画面を設定するには、以下の手順に従います。

1. |VerifyQuestion| と |VerifyAnswer| のロジカルアトリビュートが、ForgottenPasswordHandler ロジカルアトリビュートハンドラで設定されていることを確認します。「Java のプログラミングガイド」を参照してください。
2. 必要に応じて、以下の画面のいずれかに移動します。
 - 忘れたパスワードの検索の設定画面
 - 忘れた ID の検索の設定画面
3. [プライマリ確認画面のプロンプト] フィールドに、ユーザが確認情報を入力する領域の上に表示されるテキストを入力します。

4. [プライマリ確認用のプロフィール画面] フィールドで、[忘れたパスワードの確認] 画面などの画面定義を選択します。

注: 画面定義を変更して、画面に表示する確認の質問と回答のペアごとにロジカルアトリビュートを指定します。

5. [セカンダリ確認画面のプロンプト] フィールドに、ユーザが確認情報を入力する領域の上に表示されるテキストを入力します。

6. [セカンダリ確認用のプロフィール画面] フィールドで [忘れたパスワードの 2 番目の確認] 画面を選択します。

画面を変更して、|VerifyQuestion| および |VerifyAnswer| ロジカルアトリビュートを指定します。

注: セカンダリ確認画面を使用する場合は、プライマリ確認画面を設定する必要があります。

7. [質問の数] フィールドにユーザが正しく回答する必要がある質問の数を入力します。
8. [OK] をクリックします。

ユーザ属性の確認

CA Identity Manager により、1 つ以上のプロフィール属性の入力がユーザに要求され、ユーザの身元が確認されます。確認の質問に加えて、または確認の質問の代わりに、これらの属性を要求することができます。

確認プロセスでユーザ属性を使用する方法

1. 以下のいずれかのセクションの説明に従って確認画面を設定します。

- [一度に複数の確認の質問を表示する \(P. 126\)](#)
- [一度に 1 つの確認質問を表示する \(P. 127\)](#)

2. 確認画面を設計する場合は、[忘れたパスワードの確認] 画面またはカスタムのプライマリ確認画面でユーザ属性を収集するために 1 つ以上のフィールドを追加します。

たとえば、ユーザ ID に加えて従業員番号を収集するには、[忘れたパスワードの識別] プロフィール画面を変更します。ユーザ ID フィールドの前または後に、単一のフィールドを含む行を 1 つ追加します。新しいフィールドの右矢印をクリックして、プロパティを定義します。

[忘れたパスワードのリセット]タスクまたは[忘れたユーザ ID]タスクのロック

[忘れたパスワードのリセット]タスクまたは[忘れたユーザ ID]タスクのセキュリティを高めるために、ユーザが失敗した確認の試行回数を制限できます。ユーザが失敗した試行の上限数を超えると、タスクがロックし、ユーザはこのタスクにアクセスできなくなります。

CA Identity Manager により確認試行の失敗と判断される基準を決定できます。失敗の試行の定義は、1つの質問に対する不正な回答のように非常に厳しくすることも、回答のミスタイプなどの誤りを許容するなど緩やかにすることもできます。

注: [正常な確認試行 \(P. 130\)](#)が指定した回数を超えた場合に、[忘れたパスワードのリセット]タスクまたは[忘れたユーザ ID]タスクをロックするように、CA Identity Manager を設定することもできます。これにより、ユーザがログイン認証情報を記憶せずに[忘れたパスワードのリセット]タスクまたは[忘れたユーザ ID]タスクを使用することを防止します。

失敗した試行回数の制限の設定

失敗した確認試行の後に、[忘れたパスワードのリセット]タスクまたは[忘れたユーザ ID]タスクをロックするように CA Identity Manager を設定するには、以下の手順に従います。

1. 必要に応じて、忘れたパスワードの検索画面に移動します。
2. 必要に応じて、確認の失敗の基準を設定します。
 - 許容可能な誤回答の数 - 確認の失敗が CA Identity Manager に記録されるまでにユーザが入力できる誤回答の数
 - 検証ページタイムアウト - 1つのページの質問すべてに回答するための制限時間

確認ページ試行の制限 - 1つのページの質問にユーザが回答を試みる回数

ページごとに表示される質問が 1問のみの場合は、確認ページ試行の制限はユーザがその質問への回答を試行できる回数になります。

注: 該当しない質問には「0」を指定します。

ユーザが指定した基準を超えると、CA Identity Manager に確認の失敗が記録されます。

3. [失敗した試行回数の制限] フィールドには、ユーザがタスクからロックアウトされるまでに確認プロセスの失敗が許容される連続回数を入力します。
失敗した試行回数の制限を超えた後、ユーザが ID の検証を試みると、CA Identity Manager によりそのユーザはタスクからロックアウトされ、また指定によりユーザのアカウントが無効になります。たとえば、失敗した試行回数の制限が 3 の場合、3 回目の試行に失敗するとユーザはロックアウトされ、無効になります。
4. [ユーザの無効化] チェック ボックスをオンにして、失敗した試行回数の制限を超えたときに、タスクをロックしてさらにユーザのアカウントを無効にするようにします。
5. [失敗した試行のロックアウト期間] フィールドに、失敗した試行回数の制限を超えた場合にタスクからユーザをロックアウトする時間の長さを入力します。
指定できる値は分、時間、日数です。特に制限が適用されないようにするには、0 を入力します。
注: 指定する属性は、CA Identity Manager 環境のディレクトリ設定ファイル (directory.xml) に定義されている必要があります。
6. [属性の追跡を試行] フィールドで、確認の試行を追跡するときに CA Identity Manager により使用される属性を選択します。

正常な試行の制限の設定

正常な検証試行の回数を制限すると、パスワードリセットまたは忘れたユーザ ID タスクをユーザが誤って使用するのを防ぐことができます。たとえば、ユーザは、厳しいパスワードポリシーに準拠するパスワードを記憶する代わりに、パスワードリセットに依存してパスワードをリセットする可能性があります。

正常な試行回数を制限するには、以下の手順に従います。

1. 必要に応じて、忘れたパスワードの検索画面に移動します。
2. [属性の追跡を試行] フィールドで、確認の試行を追跡するときに CA Identity Manager により使用される属性を選択します。
3. [正常な試行の制限] フィールドに、タスクを使用するまでにユーザが待機する必要がある日数を入力します。

ユーザがパスワードをリセットする方法を決定する

CA Identity Manager が [忘れたパスワード] タスクでユーザの身元を確認すると、以下のうち 1 つのアクションが実行されます。

- 新しいパスワードを入力できる画面にユーザをリダイレクトします。（デフォルト）
- 一時パスワードを電子メールで送信するか、表示します。ユーザは一時パスワードを使用して CA Identity Manager にログインできます。ここで新しいパスワードを設定する必要があります。

CA Identity Manager を設定して一時パスワードを表示または電子メールで送信するには、[忘れたパスワードのリセット] タスクではなく [忘れたパスワード] タスクを使用します。

[忘れたパスワード] タスクは、カスタム ビジネス ロジックを形成する Java オブジェクトである、ビジネス ロジック タスク ハンドラに関連付けられています。これにより、一時パスワードが生成されます。

デフォルトでは、[忘れたパスワード] タスクにより、ユーザ コンソールに一時パスワードが表示されます。

[忘れたパスワード] タスクを設定して一時パスワードを電子メールで送信する方法

1. 管理コンソールで、CA Identity Manager 環境の電子メール通知を設定します。詳細については、「設定ガイド」を参照してください。
2. ユーザ コンソールで、[ロールおよびタスク] - [管理タスク] - [管理タスクの変更] を選択します。
3. [忘れたパスワード] タスクを選択します。
4. [プロファイル] タブで、[ビジネス ロジック タスク ハンドラ] をクリックします。
[ビジネス ロジック タスク ハンドラ] の画面が開きます。
BLTHGenerateTemporaryPassword ハンドラがハンドラのリストに表示されます。
5. 右矢印アイコンをクリックして、ハンドラのプロパティを編集します。
6. [プロパティ] フィールドで、マイナスのアイコンをクリックして [ShowPwdOnScreen] プロパティを削除します。
7. [プロパティ] フィールドで「ShowPwdOnScreen」と再度入力します。

8. [値] フィールドに以下の値を入力します。
false
9. [追加] をクリックします。

忘れたユーザ ID を取得する方法の決定

CA Identity Manager によりユーザの身元が確認されると、ユーザの ID が画面に表示されます。

セキュリティを高めるために、ユーザの ID を電子メールで送信するように CA Identity Manager 設定できます。

ユーザ ID を電子メールで送信するように CA Identity Manager を設定する方法

1. 電子メール通知をサポートするように CA Identity Manager 環境を設定します。
2. [ロールおよびタスク]-[管理タスク]-[管理タスクの変更] を選択します。
3. [忘れたユーザ ID] タスクを選択します。
4. [プロフィール] タブで、[ビジネス ロジック タスク ハンドラ] をクリックします。
[ビジネス ロジック タスク ハンドラ] の画面が開きます。
5. BLTHDisplayUserID ハンドラの横にある [削除] アイコンをクリックして、削除します。

BLTHDisplayUserID ハンドラを削除すると、CA Identity Manager にユーザ コンソールのユーザ ID が表示されなくなります。CA Identity Manager にユーザ コンソールのユーザ ID を表示させて、かつユーザ ID を電子メールで送信する場合は、BLTHDisplayUserID ハンドラを削除しないでください。

[ログアウト]ページ

ログアウト ページは、ある CA Identity Manager タスク画面でアクションを実行した後、たとえばユーザ コンソールで [ログアウト] リンクをクリックした後に、ユーザがダイレクトされるページです。

自己登録タスクや忘れたパスワードタスクなど、セルフ サービスのタスクについては、[キャンセル] をクリックしてタスクを終了するとき、または確認メッセージやエラーメッセージで [OK] をクリックするときに、ユーザはログアウト ページにリダイレクトされます。

以下の CA Identity Manager 画面についてカスタム ログアウト ページを設定できます。

- ユーザ コンソール
- [自己登録] タスク
- [忘れたパスワード] タスク

重要: CA Identity Manager が CA SiteMinder と統合する場合は、ユーザが CA Identity Manager からログアウトした後ユーザセッションを終了するよう、CA SiteMinder Web エージェントを設定します。ユーザが Web エージェントを設定しない場合、CA SiteMinder はユーザセッションを再開する場合があります。

ログアウト ページの設定

次の手順に従ってください:

1. 1つ以上のカスタム ログアウト ページを作成します。

HTML ログアウト ページが、ブラウザのキャッシュからではなく、確実に Web サーバからロードされるようにするには、ログアウト ページをブラウザ内にキャッシュできないように設定します。たとえば、HTML ページの場合は、ページに次のようなメタタグを追加します。

```
<META HTTP-EQUIV="Pragma" CONTENT="no-cache">  
<META HTTP-EQUIV="Expires" CONTENT="-1">
```

重要: Internet Explorer ブラウザと組み合わせる場合、メタタグは必ずしも動作するとは限りません。動作しない場合、キャッシュ コントロール HTTP ヘッダを使用します。

2. CA Identity Manager 環境画面で、適切な環境の名前をクリックします。

[Environment Properties] 画面が表示されます。

3. [Advanced Settings] - [Miscellaneous] をクリックします。

[Miscellaneous Properties] 画面が表示されます。

4. [Properties] フィールドで、以下のいずれかのプロパティを入力します:

- MainConsoleLogoutUrl -- メイン コンソールのデフォルト ログアウト URL を上書きします。

ユーザが *tasktagLogoutUrl* プロパティを使用してカスタム ログアウト ページを指定しない場合、この URL は自己登録タスクおよび忘れたパスワードタスクに対しても表示されます。

- `tasktagLogoutUrl` -- パブリック タスクに対するログアウト ページを指定します。

このプロパティでは、`tasktag` は、カスタム ログアウト ページを設定しているタスクを識別します。

たとえば、デフォルトの自己登録タスクに対してログアウト ページを設定するには、`[Property]` フィールドに以下のように入力します。

SelfRegistrationLogoutUrl

別のタスクに対して別のログアウト ページを設定するために、複数の `tasktagLogoutUrl` プロパティを定義できます。たとえば、カスタムおよびサプライヤに対して別の自己登録ページがあるとき、各タスクに対して別のログアウト ページを定義できます。

注: ユーザ コンソールのタスクを設定する場合は、タスク タグを指定します。詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

5. `[Value]` フィールドに、ユーザがログアウトのときにリダイレクトされる URL を入力します。
6. `[Save]` をクリックします。

第 7 章: ユーザ コンソールのブランド設定

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[スキン \(P. 135\)](#)

[スキンのコンポーネント \(P. 136\)](#)

[CA Identity Manager スキン \(P. 137\)](#)

[スキンの関連付け \(P. 140\)](#)

[スキンの作成方法 \(P. 140\)](#)

[.jsp ファイルの再コンパイルおよびアプリケーション サーバの再起動 \(P. 144\)](#)

[複数のスキンの使用方法 \(P. 144\)](#)

[コンソール ページの編集方法 \(P. 147\)](#)

スキン

CA Identity Manager ユーザは、ほとんどの管理タスクをユーザ コンソールで実行します。CA Identity Manager には、以下のユーザ コンソールが含まれます。

- `ca12` -- デフォルトのユーザ コンソール
- `ui7`--CA Technologies の新しいユーザ インターフェース基準に適合したユーザ コンソール。
- `imcss` -- ビジネス ニーズに対してカスタマイズできる代替ユーザ コンソール

コンソール名は各コンソール ページの URL に追加されます。たとえば、以下の URL はそれぞれ `ca12` および `imcss` コンソールの [ユーザの作成] タスク用です。

- `http://myserver.ca.com:8080/iam/im/neteauto/ca12/index.jsp?task.tag=CreateUser`
- `http://myserver.ca.com:8080/iam/im/neteauto/imcss/index.jsp?task.tag=CreateUser`

注: 管理者がユーザ コンソールにログインすると、CA Identity Manager によりこれらの URL が自動的に生成されます。

コンソールのスキンを変更することができます。スキンは、対象ユーザ別にユーザ インターフェース (UI) の外観をカスタマイズできるコンポーネントのセットです。

以下の要素を変更できます。

- 画像
- 色とフォント
- ページのヘッダおよびフッタ

CA Identity Manager 環境では、複数のスキンを利用できます。また、ユーザ別に異なるスキンを作成できます。たとえば、従業員とパートナーで異なるスキンを表示させることができます。

スキンのコンポーネント

スキンのコンポーネントを以下に示します。

カスケードスタイルシート(CSS)

色とフォントの定義を含む CSS ファイルを定義します。

場所：

```
iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/skin_name/fileName.css *
```

画像

.gif、.jpeg または .png ファイルなど Web ページ上に表示できる画像ファイルを定義します。

場所：

```
iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/skin_name/image/*
```

.properties ファイル

スキンのコンポーネントを定義するテキスト ファイルを定義します。

場所：

```
iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/skin_name/
```

```
lam_im.ear
```

lam_im.ear ディレクトリの、以下のインストールされたロケーションのいずれか 1 つを定義します。

- WebLogic :

```
WebLogic_home¥user_projects¥domains¥Identity-Manager-Domain-Name¥applications¥iam_im.ear¥
```

- JBoss :

`JBoss_home¥jboss-version¥server¥default¥deploy¥iam_im.ear¥`

- WebSphere :

`was_im_tools_dir¥WebSphere-ear¥iam_im.ear¥`

`was_im_tools_dir`

WebSphere 用に CA Identity Manager ツールがインストールされる場所を定義します。

注: WebSphere-ear¥iam_im.ear ディレクトリに変更を加えた後、Enterprise Archive (EAR) ファイルヘディレクトリをパッケージし、EAR ファイルを WebSphere アプリケーションサーバにインストールする必要があります。詳細については、「インストールガイド」を参照してください。

CA Identity Manager スキン

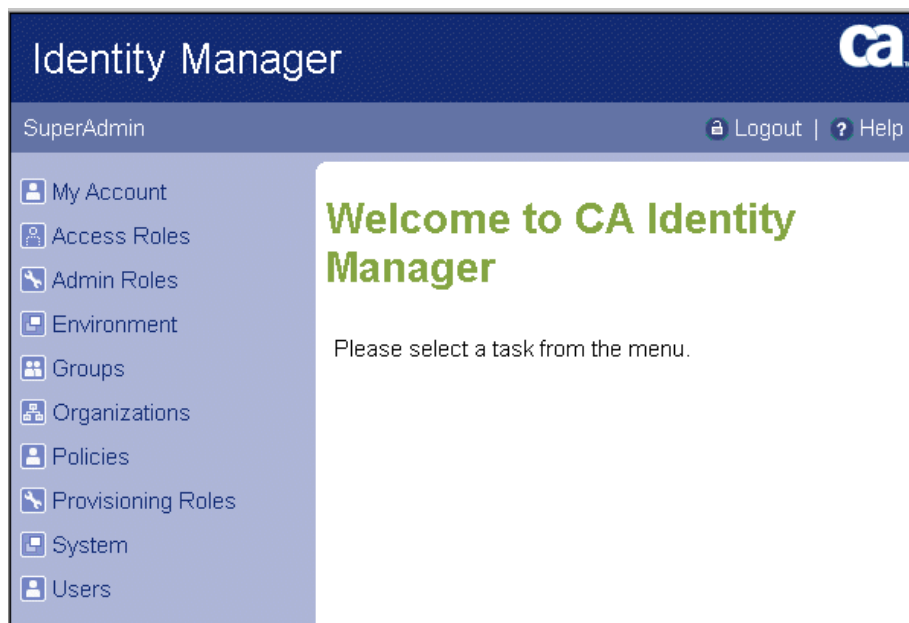
CA Identity Manager には以下のスキンがあります。

- `idm --` デフォルトの `idm` ユーザ コンソールのコンポーネントを定義します。カスタム スキンによって定義されないスキン コンポーネントは、デフォルトで `idm` コンポーネントになります。たとえば、スキンにカスタム CSS ファイルが含まれない場合、CA Identity Manager では `idm` スキンのデフォルト CSS ファイルが使用されます。

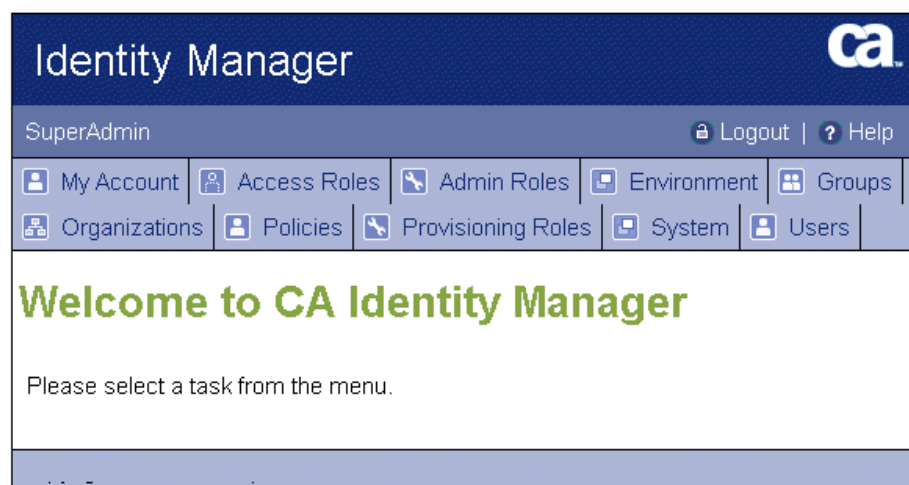
このスキンは以下のフォルダにインストールされています。

`iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/idm`

以下の図は、`idm` ユーザ コンソールを示します。



- **horizontal** -- 以下の図で示されるように、水平ユーザ コンソールのコンポーネントを定義します。

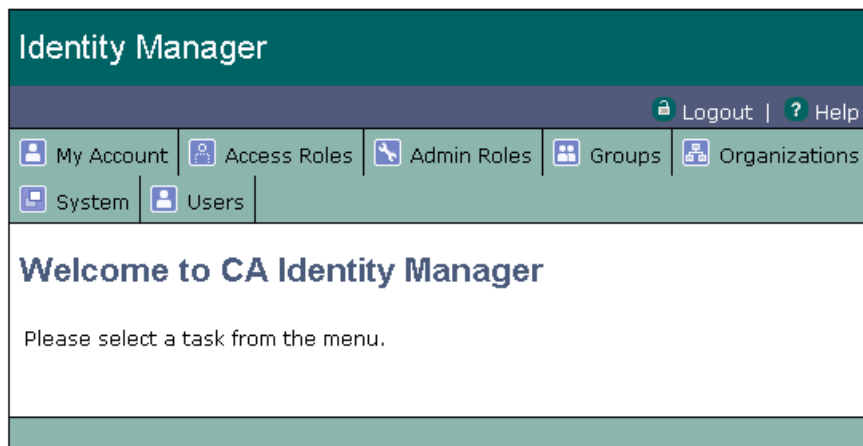


このインターフェースは *idm* スキンに類似していますが、メニュー オプションを水平形式で表示します。

このスキンは以下のフォルダにインストールされています。

`iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/horizontal`

- *horizontal2* -- 以下の図で示されるように、水平 2 ユーザ コンソールのコンポーネントを定義します。

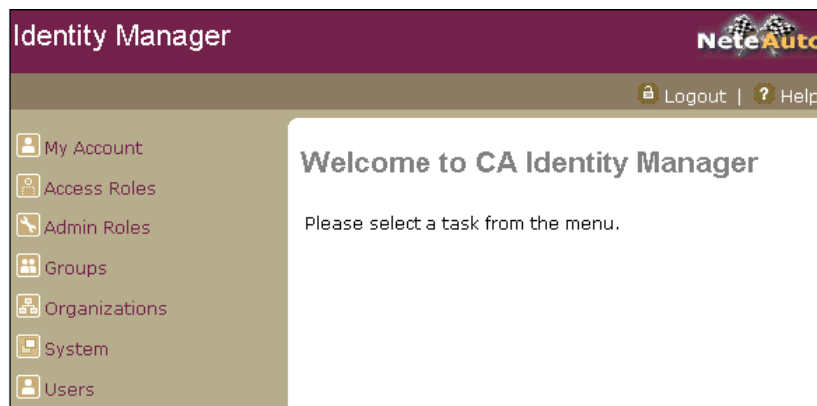


このインターフェースは *horizontal* スキンに類似していますが、同じ水平形式で、緑色および紫色で表示されます。

このスキンは以下のフォルダにインストールされています。

`iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/horizontal2`

- *neteauto* -- 以下の図で示されるように、*neteauto*（証明されていない）ユーザ コンソールのコンポーネントを定義します。



このインターフェースのレイアウトは *idm* スキンと同一ですが、赤色および薄茶色、および **NeteAuto** イメージを表示します。

このスキンは以下のフォルダにインストールされています。

```
iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/neteauto
```

この章では、デモンストレーションに *neteauto* スキンを使用します。

注: さまざまな図にあるスキンは *imcss* コンソールに適用されます。

スキンの関連付け

スキンは、親スキンのプロパティを継承できます。そのため、コンポーネントを 1 回定義し、複数のスキンでそれを再利用できます。たとえば、親スキンで定義された会社ロゴは、すべての会社スキンに継承できます。

CA Identity Manager によりユーザ コンソールが提供される時、ユーザに対して適切なスキンがチェックされます。親スキンが指定されると、そのコンポーネントが追加されます。

たとえば、企業スキンに会社ロゴのみが含まれるとします。販売スキンには、カスタム フッタ JSP および親スキンである企業スキンへのポイントが含まれます。販売員が CA Identity Manager にアクセスすると、彼らは販売スキンで定義されたフッタおよび企業スキンで定義されたロゴ、色、およびフォントを使用できます。

スキンの作成方法

スキンを作成するには、以下の手順に従います。

1. 既存のスキンのコピー
2. スキンの画像の更新
3. スキンの色およびフォントの更新
4. `.properties` ファイルの変更
5. `index.jsp` ファイルの変更

既存のスキンのコピー

既存のスキンをコピーするには、以下の手順に従います。

次の手順に従ってください：

1. CA Identity Manager スキンの図を見て、以下のスキンのどれが会社に対して作成するスキンに類似しているかを決定します。

- *idm* スキン
- *horizontal* スキン
- *horizontal2* スキン
- *neteauto* スキン

説明のため、このセクションではユーザが *neteauto* スキンの外観を選択し、それを *yourskin* と呼ぶものとします。名前 *yourskin* はユーザの会社スキンの名前です。

2. 以下のコードをコピーします。

```
iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/neteauto
```

```
iam_im.ear/
```

これに以下の名前を付けます。

```
iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/yourskin
```

3. *yourskin* ディレクトリで、以下のテーブルにあるファイルの名前を変更します。

現在の名前	新しい名前
neteauto.css	yourskin.css
neteauto_task.css	yourskin_task.css
neteauto.properties	yourskin.properties

管理を簡略化するには、*.properties* ファイルの名前および *.css* ファイルの名前は、スキン名に一致する必要があります。

注：スキン名は大文字と小文字を区別します。

スキン画像の更新

以下のディレクトリにある画像（.gif、.jpg または .png）を、ユーザの会社スキンの外観に合う画像に更新します。

- `iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/yourskin/image`
- `iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/yourskin/image/category`
- `iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/yourskin/image/tab`
- `iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/yourskin/image/tasks`

たとえば、*yourskin* スキンにユーザの会社のロゴを入れるには、画像ディレクトリの `logo.jpg` を会社のロゴに置換します。

これらの画像の多くは `yourskin.properties` ファイルの適切なパスにマッピングされているので、同一の画像ファイル名を使用することを推奨します。

スキンの色およびフォントの更新

yourskin スキンのカスケード スタイル シートを好みのフォントおよびメニュー、背景、余白および他の色に更新します。

スタイルシートへのパスを以下に示します。

- `iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/yourskin/yourskin.css`
- `iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/yourskin/yourskin_task.css`

.properties ファイルの変更

.properties ファイルを変更するには、以下の手順に従います。

次の手順に従ってください：

1. `yourskin.properties` ファイルで、すべての *neteauto* 参照を *yourskin* に置換します。
2. `yourskin.properties` ファイルで以下のとおり追加の変更を行います。
 - a. 事前に指定されていない場合は、親セクションで以下のように設定します。

```
parent=/app/imcss/idm/im.properties
```

親セクションは、親スキンのプロパティ ファイルの場所を指定します。
この例では、親スキンは *idm* です。

- b. 以下のようにカスケードスタイルシートを設定します。

```
stylesheet/skin.css=yourskin/yourskin.css  
stylesheet/skin_task.css=yourskin/yourskin_task.css
```

- c. 以下を実行します。

名前を変更せずにスキンの画像を置換した場合は、手順 d に進みます。画像の名前を変更した場合は、以下を実行します。

- ヘッダ画像セクションで、 [[スキン画像の更新](#) (P. 142)] からヘッダ画像へのパスを設定します。

以下のようなエントリを追加すると、.properties ファイルに複数の画像エントリを追加できます。

```
image/logo.gif=yourskin/image/logo.jpg
```

- 標準タブセクションで、 [[スキン画像の更新](#) (P. 142)] からタブ画像へのパスを設定します。
- タスク本文ボタンセクションで、 [[スキン画像の更新](#) (P. 142)] からタスク本文ボタン画像へのパスを設定します。

- d. ファイルを保存します。

index.jsp ファイルの変更

index.jsp ファイルを変更するには、以下の手順に従います。

次の手順に従ってください:

1. テキストエディタで index.jsp ファイルを開きます。このファイルは、以下のフォルダにあります。

```
<iam_im.ear>/user_console_war/app/imcss
```

2. <skin:update> セクションで、最初のエントリとして以下を追加します。

```
<skin:skin name="yourskin" filename="/app/imcss/yourskin/yourskin.properties"  
>
```

3. ファイルを保存します。

index.jsp ファイルの <skin:update> セクションでどのスキンタグがリストの最上位にあるかにより、CA Identity Manager ユーザ コンソールのデフォルトスキンが選択されます。

以下の `index.jsp` ファイルの `<skin:update>` セクションに示されるとおりに、`yourskin` スキンのユーザ コンソールが表示されます。

```
<skin:update>
  <skin:skin name="yourskin" filename="/app/imcss/yourskin/yourskin.properties"
  />
  <skin:skin name="idm" filename="/app/imcss/idm/im.properties" />
  <skin:skin name="neteauto" filename="/app/imcss/neteauto/neteauto.properties"
  />
  <skin:skin name="horizontal"
  filename="/app/imcss/horizontal/horizontal.properties" />
  <skin:skin name="horizontal2"
  filename="/app/imcss/horizontal2/horizontal2.properties" />
</skin:update>
```

別のスキンを使用するときは、スキン タグのリスト順を変更する必要があります。

jsp ファイルの再コンパイルおよびアプリケーション サーバの再起動

JBoss アプリケーション サーバ上で **CA Identity Manager** を実行している場合、スキンを作成した後、以下のように **JSP** ファイルを再コンパイルし、アプリケーション サーバを再起動する必要があります。

1. アプリケーション サーバを [console.jsp ファイルをすべて再コンパイルする](#) (P. 207) ように設定します。
2. `yourskin` スキンの変更を有効にするために、アプリケーション サーバを再起動します。

注: 別のアプリケーション サーバを使用している場合、この手順を完了する必要はありません。

複数のスキンの使用方法

別のユーザ グループが別のスキンの使用を望む場合があります。たとえば、従業員用スキンには会社ロゴと色が含まれる場合があります。サプライヤ用スキンには別のロゴおよび配色が含まれ、会社独自のフッタを表示する場合があります。

注: この機能は、オプション コンポーネントである **CA SiteMinder** との統合を必要とします。

CA Identity Manager が CA SiteMinder と統合される場合、CA SiteMinder レスポンスを使用してユーザグループと *yourskin* スキンの関連付けを行うことができます。レスポンスはポリシーでのルールとペアになり、ユーザグループと関連付けられます。ルールが発動すると、ユーザコンソールを構築するためにスキンに関する情報を CA Identity Manager へ渡すレスポンスのトリガになります。

以下の手順が含まれます。

1. ユーザは、CA Identity Manager 環境へのアクセスを試行します。（CA Identity Manager 環境は CA SiteMinder によって保護されます。）
2. CA SiteMinder はユーザを認証し、認可します。ポリシーでのルールは、スキンに関する情報を含むレスポンスのトリガになって発動します。
3. レスポンスは、Web エージェントを使用して HTTP ヘッダ変数として CA Identity Manager に渡されます。
4. CA Identity Manager は、スキンに基づいてユーザコンソールを構築します。

スキンの優先順位付け

複数のポリシー（すなわち複数のスキン）が単一ユーザに適用される場合があります。ユーザが確実に正しいスキンを使用できるよう、スキンに優先順位番号を割り当てます。

スキン レスポンスを作成するとき、ヘッダ変数名に優先順位番号を追加します。優先順位は 1 ~ 999 で、優先順位が最も高いのは 1 です。

たとえば、販売スキンのレスポンスのヘッダ変数名は、*skin3* です。管理スキンについては、ヘッダ変数名は *skin2* です。ユーザが販売責任者として CA Identity Manager にログインすると、優先順位の高い管理スキンが表示されます。

スキンレスポンスの作成

スキンレスポンスを作成するには、以下の手順に従います。

次の手順に従ってください:

1. ドメイン権限を持った管理者として、以下のいずれかのインターフェースにログインします。

- CA SiteMinder Web Access Manager r12 以上の場合、管理 UI にログインします。
- CA eTrust SiteMinder 6.0 SP5 の場合、ポリシー サーバユーザインターフェースにログインします。

注: これらのインターフェースの使用の詳細については、使用している CA SiteMinder のバージョン用のマニュアルを参照してください。

2. CA Identity Manager 環境を保護するポリシー ドメインを見つけます。ドメイン名の形式は以下のとおりです。

`environment_nameDomain`

`environment_name`

CA Identity Manager 環境の名前を定義します。

たとえば、CA Identity Manager 環境の名前が `employees` であるとき、ドメイン名は `employeesDomain` です。

注: ポリシー ドメインは、スキンを使用する CA Identity Manager ユーザが含まれるユーザディレクトリと関連付けられる必要があります。

3. ドメインのレルムを表示します。

以下のレルムが、環境に対して設定した機能に依存するのが分かります。

- `environment_name_ims_realm`— CA Identity Manager 環境を保護します。
- `environment_name_pub_realm`-- 自己登録タスクや忘れたパスワードタスクなどのパブリック タスクのサポートを有効にします。
ユーザがパブリック エイリアスを設定した場合にのみ、このレルムが表示されます。

4. 各レルムのルールを作成します。以下の項目を指定します。

- Resource: /*
- Actions: GET, POST

管理を簡略化するには、ルール名にスキンを含めます。たとえば、スキン名が `yourskin` であるとき、`yourskin` スキンという名前のルールを作成します。

5. 以下のレスポンス属性を持つドメインのレスポンスを作成します：
 - 属性： **WebAgent-HTTP-Header-Variable**
これにより、レスポンスに新しい HTTP ヘッダが追加されます。
 - 属性の種類： 静的
 - 変数名： 以下のいずれかの変数名を入力します。
 - **skin** -- CA Identity Manager の全ユーザが同一のスキンを使用する場合、この変数を使用します。
 - **skinx**-- 複数のスキンがある場合、この変数を使用します。 **x** は優先値を表します。 **1** が最高の優先順位、 **999** が最低の優先順位とします。
 - 変数値： スキンの名前を指定します。
6. 以下の値を持つポリシー ドメインで、ポリシーを作成します。
 - ユーザ： スキンを使用するユーザを指定します。たとえば、販売組織のメンバがスキンを使用する場合、必ずポリシーに **ou=販売**を含めます。
 - ルール： 手順 4 で作成したルールを追加します。手順 5 で作成したレスポンスと各ルールを関連付けます。

コンソール ページの編集方法

ユーザ コンソールのレイアウトの変更や、ページのヘッダまたはフッタへのリンクの追加を行うには、以下のコンソール ページを編集します。

- [index.jsp](#) (P. 149) -- メイン コンソールのヘッダおよびフッタを非表示または表示にします。また、利用可能な CA Identity Manager スキンを定義します。

`index.jsp` ファイルは以下の場所にあります。 `<iam_im.ear>`
`/user_console_war/app/imcss/`

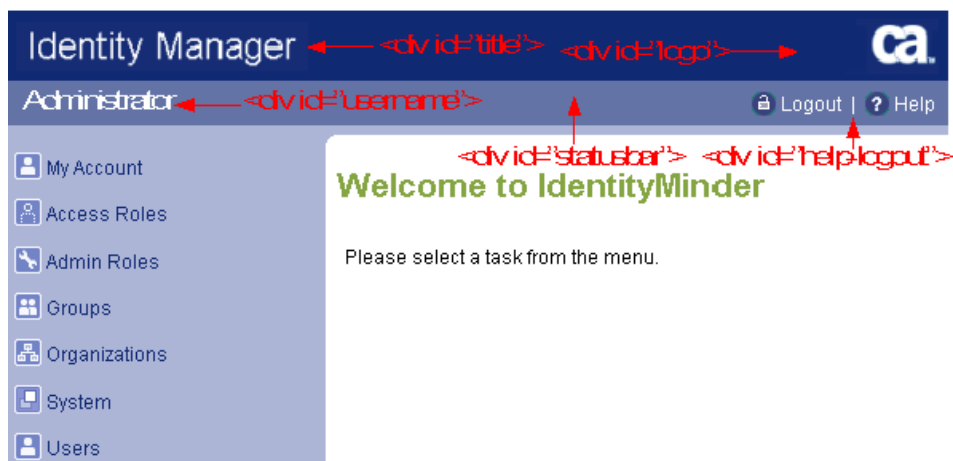
- [head.jsp](#) (P. 148) -- ユーザ コンソールのメインページのヘッダのコードが含まれています。
- `home.jsp` -- 特定のタスク用の確認メッセージが含まれています。

`head.jsp` および `home.jsp` ファイルは以下の場所にあります。 `<iam_im.ear>`
`/user_console_war/app/imcss/component`

注： CA Identity Manager が JBoss アプリケーション サーバ上で実行される場合、変更が有効になる前に変更対象の JSP を手動で[再コンパイルする](#) (P. 207)必要があります。

CA Identity Manager ユーザ コンソールのヘッダの変更方法

ユーザ コンソールのヘッダを変更するには、`head.jsp` ファイル（`<iam_im.ear>/user_console_war¥app¥imcss¥component` にある）を使用します。ヘッダには画像、リンク、タイトル、色およびフォントを含めることができます。以下の図は、`head.jsp` ファイルの `<div id>` マーカを示しています。このマーカは `idm` スキンのヘッダを生成します。



ヘッダを更新するには、`head.jsp` ファイルの以下のエントリのコードを変更します。

- `<div id="title">`
- `<div id="logo">`
- `<div id="statusbar">`
- `<div id="username">`
- `<div id="help-logout">`

たとえば、ユーザがユーザ コンソールのヘッダに表示されるロゴ画像をクリックするとダイレクトされるリンクを変更するには、以下のコードにある URL をユーザの会社のホームページの URL に置換します。

```
<div id="logo">
<a href="http://www.yourcompany.com/"><skin:img altKey="console.logo"
titleKey="console.logo" src="logo.gif" width="93" height="33" border="0" /></a>
</div>
```

注: `head.jsp` ファイルを変更した後、必ず [.jsp ファイルを再コンパイル](#) (P. 144) します。

フッタの変更および表示方法

フッタの変更および表示を行うには、以下の手順に従います。

- `index.jsp` ファイル (`iam_im.ear/user_console_war/app/imcss` にある) にフッタの HTML コードを挿入します。
- CA Identity Manager がフッタを表示するように、スキン (`idm`、`horizontal`、`horizontal2` および `neteauto`) のいずれかのカスケードスタイルシート ファイルを変更します。

index.jsp ファイルへのフッタの HTML の挿入

`index.jsp` ファイルにフッタの HTML を挿入するには、以下の手順に従います。

次の手順に従ってください:

1. テキスト エディタで `index.jsp` ファイルを開きます。
2. ファイル末尾の `<div id="foot">` セクションで、`<div>` と `</div>` マーカの間に `yourskin` スキンのフッタ用の HTML を追加します。
3. ファイルを保存します。

カスケード スタイル シートを変更し、フッタを表示する

CA Identity Manager がフッタを表示するかどうかを設定するには、各スキン (`idm`、`horizontal`、`horizontal2` および `neteauto`) のカスケードスタイルシート ファイルを使用します。これらのカスケードスタイルシート ファイルは、以下のフォルダに格納されます。

```
iam_im.ear/user_console_war/app/imcss/
```

デフォルトでは、フッタは `horizontal` および `horizontal2` スキンでは表示されますが、`idm` または `neteauto` スキンでは表示されません。

`yourskin` スキンは `neteauto` スキンのコピーであるため、現時点ではフッタが表示されません。`neteauto` スキンは、フッタを表示するために `idm.css` ファイルを使用します。`neteauto.css` および `yourskin.css` ファイルには色の上書きのみが含まれ、フッタの表示のような他の表示機能に対応するには `idm.css` ファイルをインポートします。以下のように示される `idm` スキンでは、`idm.css` ファイルの `#foot` セクションは、フッタが無効であることを示しています。

```
#foot {  
    display: none;
```

以下のように示される `horizontal` スキンでは、`horizontal.css` ファイルの `#foot` セクションは、フッタが有効であることを示しています。

```
#foot {  
    border: 1px solid black;  
    background-color: #AEB6D8;  
    padding: 4px;  
    display: block; /* to override parent */
```

表示：ブロック参照は、CA Identity Manager にフッタが表示されることを意味します。

`yourskin` スキンにフッタを表示させる方法：

- `yourskin.css` に、以下のコードを追加します。

```
/*CONSOLE FOOTER*/  
#foot {  
    display: block;  
}
```

このセクションで、フッタの境界、背景色およびパディングを変更できます。

第 8 章: カスタム ヘルプ

CA Identity Manager により、ユーザ コンソールでカスタマイズしたタスクおよびタブに、ユーザ独自のカスタム ヘルプを作成できます。カスタム ヘルプを実装するには、カスタム HTML ヘルプ ファイルまたは Wiki ページ付き状況依存ヘルプシステムを作成し、ユーザ コンソール内のヘルプのリンクをリダイレクトして、カスタム ヘルプにアクセスできます。

この機能を利用すると、（英語で作成された）デフォルトのヘルプはいずれも他の言語に翻訳できます。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[カスタム ヘルプの動作方法](#) (P. 151)

[ヘルプが使用するリンクの決定方法](#) (P. 153)

[ヘルプのカスタマイズ方法](#) (P. 154)

[カスタム ヘルプの使用法の例](#) (P. 154)

カスタム ヘルプの動作方法

CA Identity Manager はリソースバンドルを使用して、デフォルト ヘルプ ファイルを上書きし、カスタム状況依存ヘルプへのリンクを提供します。

定義された形式を使用すると、リソースバンドルを作成し、iam_im.ear に置くことができます。ユーザがヘルプリンクをクリックすると、CA Identity Manager は適用可能なリソースバンドルからカスタムヘルプへの一致を検索します。カスタムヘルプに一致がなければ、CA Identity Manager によりユーザにデフォルトヘルプが提供されます。

多言語ユーザがヘルプリンクをクリックし、言語固有のリソースバンドルが作成された場合、CA Identity Manager はユーザのブラウザロケール設定を確認し、言語固有のヘルプリンクを開きます。言語固有のリソースバンドルで一致がなければ、ユーザはデフォルトの英語ヘルプにダイレクトされます。

注: ユーザがデフォルトヘルプを検索する場合やヘルプインデックスを表示する場合は、カスタムページのコンテンツは表示されません。

カスタム ヘルプの形式

ヘルプ リンク リソース バンドルは、キー/値のペアを使用してユーザがダイレクトされるヘルプページを決定します。カスタム ヘルプについては、キー ID にタグが使用され、カスタム Web ページ URL は値となります。ヘルプ リンク リソース バンドルの構文は、以下のいずれかとなります。

`TaskTag.PageTag=Help URL`

`TaskTag.@PageDefinitionTag=Help URL`

タグはタスク、画面またはタブの一意の識別子です。キー/値のペアのパラメータは、以下のように定義されます。

タスク タグ

アクティブなタスク タグ。

ページ タグ

アクティブな検索またはタブ タグ。

ページ定義タグ

アクティブな検索定義またはタブ定義タグ。

ヘルプ URL

ヘルプ URL は、絶対的な URL (<http://www.neteauto.com>) または CA Identity Manager サーバ上のコンテンツを指す相対的な URL (</iam/im/help/customhelp.html>) のいずれかです。

例:

`ModifyUser.Profile=/iam/im/userprofile.html`

カスタム ヘルプ式

カスタム ヘルプ リソース バンドルで使用される場合、以下の式は特定の意味を持ちます。

式	意味
*	タスク タグ、ページ タグまたはページ定義タグの一致に使用されます。
<code>\${task}</code>	ヘルプ URL で使用されます。アクティブなページのタスク タグと置換されます。
<code>\${page}</code>	ヘルプ URL で使用されます。アクティブなページのページ タグと置換されます。

式	意味
<code>\${pagedef}</code>	ヘルプ URL で使用されます。アクティブなページのページ定義タグと置換されます。

例:

```
*.*=http://www.help.com/Wiki.jsp?page=${task}_${page}
```

`$task` 式および `$page` 式は、ユーザがヘルプリンクをクリックした現在の Web ページに対するタスクタグおよびページタグと置換されます。たとえば、ユーザが [グループの作成] タスクの [プロフィール] タブからヘルプリンクをクリックする場合、ヘルプ URL は以下のヘルプページを開きます：

```
http://www.help.com/Wiki.jsp?page=CreateGroup_Profile
```

ヘルプが使用するリンクの決定方法

ユーザがヘルプリンクをクリックすると、CA Identity Manager は確認を実行し、どのヘルプ URL を使用するかを決定します。これらの確認は最も特定のケースに対して行われ、次に、より一般的になります。ユーザのロケールに最も一致するバンドルが使用されます。

ヘルプリンクの確認の順序を以下に示します。

1. [TaskTag].[PageTag]
2. [TaskTag].@[PageDefinitionTag]
3. *.*[PageTag]
4. *.*@[PageDefinitionTag]
5. [TaskTag].*
6. *.*

例:

```
*.*=http://www.help.com/Wiki.jsp?page=${task}_${page}
```

より特定の一致を除くいずれにも一致し、生成されたヘルプリンクのアクティブタスクとページタグを含みます。

例:

`ModifyUser.Profile=/iam/im/userprofile.html`

[ユーザの変更] タスクの [プロフィール] タブに一致し、相対的な URL `/iam/im/userprofile.html` にユーザをダイレクトします

例:

`*.@Profile=/iam/im/profile.html`

より特定の一致を除き、[プロフィール] タブ定義から派生したすべてのタブに一致し、相対的な URL `/iam/im/profile.html` にユーザをダイレクトします。

ヘルプのカスタマイズ方法

カスタム ヘルプにより、高度にカスタマイズまたはローカライズされた CA Identity Manager 環境にアクセスするとき、ユーザに特定のヘルプ ページが提供されます。

次の手順に従ってください:

1. カスタム ヘルプ ページを作成し、Web サイト上でホストします。
2. カスタム ヘルプ ページにマッピングされたキー ID を持つリソース バンドルを作成します。以下のように、リソース バンドルに名前を付けます。

`help_EnvironmentName_languageidentifier.properties`

注: 言語識別子はオプションで、特定の言語用の 2 文字の略語です。

3. `iam_im.ear/config/com/netegrity/config` ディレクトリに `.properties` ファイルを格納します。

注: 複数の言語のヘルプをローカライズしている場合は、各言語のリソース バンドルを作成します。

4. CA Identity Manager サーバを再起動します。

ユーザが CA Identity Manager ユーザ コンソールのヘルプ リンクをクリックすると、カスタム ヘルプによりデフォルト ヘルプが上書きされるようになります。

多言語化されたヘルプの場合、別の言語に設定されたブラウザ ロケール基本設定を持つユーザは、適切なカスタム ヘルプにダイレクトされます。

カスタム ヘルプの使用法の例

このセクションでは、ユーザのビジネス ニーズとローカライゼーション要件へのカスタム ヘルプの対応例を提供します。

例: ヘルプのカスタマイズ

カスタマは極度にカスタマイズされた [ユーザ]、「グループ」および [組織] 画面で CA Identity Manager 環境を展開しました。不運にも、ヘルプ コンテンツは静的で、デフォルト環境にのみ関連します。ユーザの環境にカスタマイズを反映するため、独自のヘルプ コンテンツを書き込みます。

次の手順に従ってください:

1. 各カスタム タスクおよびカスタム タブに対して、カスタム ヘルプ ページを書き込みます。
2. Web サイト上でページをホストします。
3. リソース バンドルを作成し、iam_im.ear/config/com/netegrity/config ディレクトリに .properties ファイルを格納します。
4. CA Identity Manager サーバを再起動します。

たとえば、環境名が neteauto である場合は、help_neteauto.properties という名前の以下のリソース バンドルを作成します。

```
*.UserProfile=http://www.neteauto.com/imhelp/user.html
```

```
*.GroupProfile=http://www.neteauto.com/imhelp/group.html
```

```
*.OrgProfile=http://www.neteauto.com/imhelp/org.html
```

neteauto 環境のヘルプ リンクでは、[ユーザの変更]、[組織の変更] および [グループの変更] タスクの [プロファイル] タブを除いて、デフォルト ヘルプにアクセスします。

例: Wiki ヘルプの作成

カスタマは高度にカスタマイズされた CA Identity Manager 環境を持ち、豊富な状況依存ヘルプ システムへのアクセスをユーザに提供したいと考えています。ユーザがヘルプ リンクによって利用可能な、ユーザの環境向けの Wiki を作成します。

次の手順に従ってください:

1. カスタマイズされた環境向けの Wiki コンテンツを書き込みます。
2. リソース バンドルを作成し、iam_im.ear/config/com/netegrity/config ディレクトリに .properties ファイルを格納します。リソース バンドルには単一のエントリーが必要です。

```
*.*=http://www.neteauto.com/wiki.jsp?page=${task}-${page}
```

ヘルプ リンクは、タスクおよびタブに固有のページを持つ Wiki を起動します。

3. (オプション) ページがまだ作成されていない場合、ユーザはタスクとタブに関して詳細を入力できます。
4. CA Identity Manager サーバを再起動します。

例: ヘルプのローカライズ

日本のカスタマが、CA Identity Manager のローカライズされたバージョンを購入しました。しかし、ヘルプはすべて英語です。カスタマは、独自のヘルプを日本語で書き込み、ユーザ コンソールに実装したいと考えています。

次の手順に従ってください:

1. 各タスクおよびタブに対して、カスタム ヘルプ ページを書き込みます。
2. Web サイト上でカスタム ヘルプ ページをホストします。
3. リソース バンドルを作成し、iam_im.ear/config/com/netegrity/config ディレクトリに .properties ファイルを格納します。

たとえば、環境名が neteauto である場合は、help_neteauto.properties という名前の以下のリソース バンドルを作成します。

```
ModifyUser.*=http://www.neteauto.jp/modifyuser.html  
ModifyGroup.*=http://www.neteauto.jp/modifygroup.html
```

4. CA Identity Manager サーバを再起動します。

ユーザ コンソールのヘルプ リンクは、www.neteauto.jp Web サイトでホストされる言語固有のカスタム ヘルプ ページにリダイレクトします。

例: ヘルプの多言語化

国際的企業が CA Identity Manager を購入しており、英語、スペイン語およびフランス語でユーザをサポートする必要があります。CA Identity Manager 環境は多言語化できますが、ヘルプは英語で書かれています。各言語でヘルプのバージョンを書き込み、ユーザが必要とする言語に応じて、正しいヘルプを利用可能にします。

次の手順に従ってください:

1. 各言語の各タスクおよびタブに対して、カスタム ヘルプ ページを書き込みます。
2. Web サイト上でカスタム ヘルプ ページをホストします。

3. 2つのロケール固有のリソースバンドルを作成し、
iam_im.ear/config/com/netegrity/config ディレクトリに .properties ファイルを
格納します。

たとえば、環境名が neteauto の場合、help_neteauto_es.properties（スペイン語用）および help_neteauto_fr.properties（フランス語用）という2つのリソースバンドルを作成します。

4. CA Identity Manager サーバを再起動します。

スペイン語またはフランス語に設定されたブラウザロケール基本設定を持つユーザは、その言語の適切なカスタムヘルプにダイレクトされます。他のユーザはすべて、デフォルトの英語のユーザヘルプにダイレクトされます。

第 9 章: CA Identity Manager のローカライゼーション

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[概要 \(P. 159\)](#)

[リソースバンドル \(P. 159\)](#)

[ローカライズされた CA Identity Manager 環境のサンプル \(P. 162\)](#)

[国際文字セットの使用上の制限 \(P. 163\)](#)

[ローカライズのサポートの設定方法 \(P. 164\)](#)

[別の言語での CA Identity Manager 表示方法 \(P. 174\)](#)

[CA SiteMinder レスポンスでの imlanguage HTTP ヘッダの設定 \(P. 175\)](#)

概要

ユーザ コンソールでは、以下に示すエレメントを特定の原語にローカライズできません。

- ユーザ コンソールに表示されるプロンプト、ボタン、テキスト、タブおよびタイトル
- CA Identity Manager ユーザに表示される検証、ステータス、およびエラーメッセージおよび手順
- 電子メール通知
- グラフィックス
- CA Identity Manager API で作成されたカスタム機能

注: CA Identity Manager レポートはローカライズされません。

リソースバンドル

リソースバンドルは、ロケール固有のテキスト文字列とユーザ インターフェースエレメントを関連付ける CA Identity Manager ファイルです。このファイルで、ユーザ インターフェースエレメントにはキー ID が割り当てられます。キー ID はロケール固有のテキスト文字列とペアになります。

CA Identity Manager が管理タスク プロファイル画面などの画面上でキー ID を持つエレメントに遭遇すると、リソースバンドルのペアとなる値が表示されます。

たとえば、CA Identity Manager リソースバンドルの [送信] ボタンのエントリは、以下のとおりです。

```
global.button.submit=Submit
```

キー ID は `global.button.submit` であり、値は `Submit` です。CA Identity Manager がユーザインターフェース画面定義の `global.button.submit` キー ID に遭遇すると、単語 `Submit` が表示されます。

キー ID については、以下の点に注意が必要です。

- ユーザコンソールのエレメントは、1つのキー ID のみを持つことができます。また、キー ID は特定のリソースバンドルに対して一意である必要があります。

- キー ID は大文字と小文字を区別し、US-ASCII 文字のみを含めることができ、スペースを含めることはできません。ただし、キー ID にはピリオド (.) で区切られる複数文字列を含めることができます。たとえば、[部署] フィールド名のキー ID は、以下のようにできます。

`attribute.displayname.department`

- CA Identity Manager では、管理タスク画面でキー ID を指定する 2 つの形式がサポートされます。
 - リソースバンドル名が含まれる構文の使用

このメソッドでは、ユーザがカスタムリソースバンドルの名前を指定できます。デフォルトリソースバンドルからカスタムマッピングを分けるために、カスタムリソースバンドルを使用できます。

この構文の形式は以下のとおりです。

`${bundle=ResourceBundle:key=keyID}`

この構文例では、以下のとおりになっています。

bundle=ResourceBundle

カスタムリソースバンドルを使用している場合、キー ID のテキスト文字列マッピングが含まれるリソースバンドルを指定します。

注: iam_im.ear/custom/resourceBundles でカスタムリソースバンドルを作成し、resourceBundles.MyResourceBundle として参照します。

バンドル名は、標準 Java ローカライズ構文を使用します。バンドル名に .properties 拡張子を含める必要はありませんが、iam_im.ear/custom に対して、完全修飾が必要です。

この名前/値のペアはオプションです。キー ID がベースリソースバンドルである IMSResources.properties に定義されている場合、リソースバンドルを指定する必要はありません。この場合、管理タスク画面のキー ID は次のとおりです。

`${key=keyID}`

key=keyID

表示するテキスト文字列にマップするキー ID を指定します。マッピングはリソースバンドル内に存在する必要があります。

完了したキー ID エントリは以下のサンプルのようになります。

`${bundle=resourceBundles.MyResourceBundle:key=attribute.displayname.department}`

- 以下のように、プレフィックス imstask.label を使用します。

`imstask.label.elementname`

以下に例を示します。

`imtask.label.attribute.displayname.department`

ユーザがこのメソッドを使用するとき、`attribute.displayname.department` がリソースバンドルに表示される必要があります。

注: [カスタムローカライズファイルを作成 \(P. 172\)](#) している場合、翻訳ツールを使用して、別の言語のキー ID にマッピングされた値を変更します。たとえば、フランス語の [送信] ボタンを表示するには、翻訳ツールは以下のように、フランス語のリソースバンドルの `global.button.submit` キー ID とペアになった値を変更します。

`global.button.submit=Enter`

ローカライズされた CA Identity Manager 環境のサンプル

CA Identity Manager には、ユーザコンソールの翻訳バージョンを作成するファイルが含まれます。これらのサンプルを定義されたとおりに使用することも、翻訳されたカスタムユーザコンソールを作成するためのテンプレートとしてサンプルを使用することもできます。以下の言語がサポートされます。

- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- ポーランド語
- ポルトガル語
- スカンジナビア言語
- 中国語（簡体字）
- スペイン語

これらの言語バージョンをサポートするファイルは、以下の場所にインストールされます。

`admin_tools¥samples¥Localization¥language`

`admin_tools`

CA Identity Manager 管理ツールがインストールされている場所です。

管理ツールは、以下のデフォルトの場所に配置されています。

Windows : `C:¥Program Files¥CA¥Identity Manager¥IAM Suite¥Identity Manager¥tools`

UNIX : `/opt/CA/IdentityManager/IAM_Suite/Identity_Manager/tools`

`language`

使用する言語を指定します。

国際文字セットの使用上の制限

以下の入力には、ASCII 文字のみを含める必要があります。

- 環境名およびエイリアス
- ディレクトリ名
- タスク タグ
- 以下の API で使用されるクラス名 :
 - イベント リスナ API
 - 通知ルール API
 - 論理属性 API
 - ワークフロー組織リゾルバ API
- [論理属性] が使用する論理属性名および物理属性名
- ユーザが自己登録するときに表示されるエンドユーザ使用許諾契約用の URL

注: エンドユーザ使用許諾契約には国際文字セットを含むことができます。

ローカライズのサポートの設定方法

CA Identity Manager の翻訳バージョンを使用するようにシステムを設定するには、以下の手順を実行します。

1. CA Identity Manager をホストするシステムが、[ローカライズ前提条件](#) (P. 165) で定義された前提条件に適合することを確認します。
2. CA Identity Manager が CA SiteMinder と統合される場合は、CA SiteMinder Web エージェントをローカライズ用に設定します。
3. CA Identity Manager が JBoss アプリケーション サーバ上で実行される場合は、[Tomcat server.xml ファイルを変更します](#) (P. 168)。
4. PATH 変数の設定
5. 以下のいずれかの操作を実行します。
 - ローカライズ環境のサンプルの 1 つを使用している場合、「[ローカライズ環境のサンプルの使用方法](#) (P. 169)」を参照してください。

CA Identity Manager では、ユーザ コンソールおよびオンライン ヘルプの翻訳バージョンが、以下の言語でインストールされます。

- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 韓国語
- 日本語
- ポーランド語
- 中国語（簡体字）
- スペイン語

これらのファイルをインストールされたとおりに使用することも、これらの言語の 1 つでカスタム環境を作成するためのテンプレートとして、これらのファイルを使用することもできます。

- CA Identity Manager をサンプルが利用できない言語に翻訳する場合や、高度にカスタマイズされた環境を翻訳する場合は、「[ローカライズされたカスタム ファイルの作成方法 \(P. 172\)](#)」を参照してください。
6. 必要に応じ、以下の追加のコンポーネントを翻訳します。
- [電子メールテンプレート \(P. 172\)](#)
 - [スキンのブランディング \(P. 173\)](#)
 - [カスタム コード \(P. 172\)](#)

ローカライズ前提条件

ローカライズのために CA Identity Manager を設定する前に、以下に関する注意が必要です。

- CA Identity Manager がインストールされ、設定されていること。また、少なくとも 1 つの環境が存在すること。

注: ユーザが CA SiteMinder を使用しており、ユーザの環境ではマルチバイトのユーザ ID でユーザが管理される場合、ユーザはマルチバイト文字をサポートする CA SiteMinder 認証方式で認証する必要があります。たとえば HTML フォーム認証の場合。基本認証方式はマルチバイト認証をサポートしていません。CA Identity Manager の認証方式の設定の詳細については、「[設定ガイド](#)」の CA Identity Manager 向け CA SiteMinder 機能の設定に関する章を参照してください。

- CA SiteMinder を使用している場合、CA SiteMinder ポリシー サーバのサポートされたバージョンがインストールされ、設定されていることを確認します。
- ローカライズをサポートするようにユーザ ディレクトリが設定されていることを確認します。詳細については、使用しているユーザ ストアのマニュアルを参照してください。

- ユーザストアとして LDAP ディレクトリを使用している場合、LDAP ディレクトリがユーザ ID、パスワードおよび電子メール属性に 7 ビットチェックを適用していないことを確認します。詳細については、使用している LDAP ディレクトリのマニュアルを参照してください。
- Oracle データベース オブジェクトストアを使用している場合、NLS_LANG パラメータの文字セット コンポーネントおよびデータベース文字エンコーディングがマルチバイトの文字セットである AL32UTF8 に設定されていることを確認します。

CA Identity Manager ではマルチバイトの文字エンコーディング (UTF-8) が使用されます。ユーザがシングルバイトの文字セットを指定する場合、文字スペースが不十分であるために文字が破損したように見える場合があります。

注: NLS_LANG パラメータおよびデータベース文字エンコーディングの設定の指示については、Oracle のマニュアルを参照してください。

- CA Identity Manager には、新しい CA Identity Manager 環境のローカライズに使用するツールが含まれます。これらのツールを使用するには、以下のソフトウェアが必要です。

Java SDK native2ascii ツール

Unicode エスケープ シーケンス間で翻訳します。ローカライズには主にプロパティファイルの翻訳が含まれるので、ツールは Unicode エスケープ シーケンスを持つ ASCII ですべてのファイルを処理します。

ローカライズ ツールを設定するには、CA Identity Manager 管理ツールがインストールされているシステムに、JDK をインストールして native2ascii ツールをインストールします。

native2ascii ツールの詳細については、Java Web サイトで以下の場所を参照してください。

<http://java.sun.com/j2se/1.5.0/docs/guide/intl/index.html>

Ant 1.7 以上

CA SiteMinder Web エージェントの設定

HTTPHeaderEncodingSpec パラメータを以下のように設定し、CA SiteMinder Web エージェントが CA Identity Manager に渡す HTTP ヘッダ値のエンコードを設定します。

```
HTTPHeaderEncodingSpec=encoding_spec, wrapping_spec
```

encoding_spec は、UTF-8 または Shift-JIS のいずれかのエンコードタイプを表すテキスト文字列です。*wrapping_spec* はラッピング仕様で、RFC-2047 である必要があります。

以下に例を示します。

```
HTTPHeaderEncodingSpec="Shift-JIS,RFC-2047"
```

注: HTTPHeaderEncodingSpec パラメータに値が指定されない場合、エンコードはラッピングのない UTF-8 です。

HTTPHeaderEncodingSpec パラメータを [エージェント設定オブジェクト] で一元的に設定することも、WebAgent.conf ファイルの各 Web エージェントに対してローカルに設定することもできます。

注: 詳細については、「*CA SiteMinder Web* アクセス マネージャ Web エージェント設定ガイド」を参照してください。

JBoss server.xml の変更

CA Identity Manager が JBoss アプリケーション サーバ上でホストされる場合、マルチバイトの文字セットへの CA Identity Manager のローカライズは、設定変更を必要とします。JBoss server.xml ファイルの場合、URI 用に UTF-8 エンコーディングを指定する必要があります。

以下のいずれかのファイルで、HTTP/1.1 コネクタのコネクタ エレメントのエンコーディングを変更します。

- JBoss 5.0.x の場合

`jboss_home/server/default/deploy/jboss-web.deployer/server.xml`

- JBoss 5.1.x の場合

`jboss_home/server/default/deploy/jbossweb.sar/server.xml`

URI の UTF-8 エンコーディングを以下のように指定します。

```
<Server ...>
  <Service ...>
    <Connector port="8080" ... URIEncoding="UTF-8"/>
    ...
  </Connector>
</Service>
</Server>
```

PATH 変数の設定

CA Identity Manager には翻訳バージョンのデフォルトユーザ コンソールおよびローカライズ環境で使用できるオンライン ヘルプが含まれています。ただし、ユーザが翻訳するカスタム環境がある場合、CA Identity Manager により翻訳の実行に使用できるローカライズ ツールが提供されます。これらのツールを使用するには、Ant 1.7 以上および Java JDK 1.5 以上がインストールされている必要があります。Ant および Java JDK は、いずれもユーザのパス上にある必要があります。以下のコマンドで、これらを追加できます。

Windows の場合 :

```
PATH %ANT_HOME%\bin;%PATH%
PATH %JAVA_HOME%\bin;%PATH%
```

UNIX の場合 :

```
PATH=%ANT_HOME%\bin:$PATH
export PATH
```

ローカライズ環境サンプルの使用方法

CA Identity Manager では、インストール中にローカライズ環境サンプルをサポートするファイルが展開されます。

ユーザ コンソールのローカライズ画面およびタスクを表示するには、以下の手順に従います。

1. [RoleDefinitions.XML ファイルのインポート](#) (P. 169)
2. [オンラインヘルプのインストール](#) (P. 171)

RoleDefinitions.xml サンプル ファイルのインポート

RoleDefinitions.xml ファイルでは、ユーザ コンソールに最初に表示されるタスクが作成されます。

必要な RoleDefinitions.xml サンプル ファイルを必要な CA Identity Manager 環境にインポートする必要があります。

RoleDefinitions.xml ファイルのインポート方法

1. 管理コンソールで、CA Identity Manager 環境をクリックします。
CA Identity Manager 環境のリストが表示されます。
2. CA Identity Manager 環境の名前をクリックします。
この環境のプロパティ画面が表示されます。
3. [Role and Task Settings] をクリックします。
4. [Import] をクリックします。

管理コンソールは、環境に追加できる利用可能な RoleDefinition.xml ファイルをリスト表示します。

5. 必要とする言語の適切な RoleDefinitions.xml ファイルを検索し、選択します。
翻訳された RoleDefinitions.xml ファイルは、[管理ツール] にあります。

admin_tools¥samples¥Localization¥language

admin_tools

CA Identity Manager 管理ツールがインストールされている場所です。

管理ツールは、以下のデフォルトの場所に配置されています。

Windows : C:¥Program Files¥CA¥Identity Manager¥IAM Suite¥Identity Manager¥tools

UNIX : /opt/CA/IdentityManager/IAM_Suite/Identity_Manager/tools

language

使用する言語を指定します。

注: 利用可能な RoleDefinitions ファイルの説明については、*admin_tools¥samples¥Localization* にある *readme.txt* ファイルを参照してください。

6. [Finish] をクリックします。
[Role Configuration Output] ウィンドウにステータスが表示されます。
7. [Continue] をクリックして終了します。
8. 各環境の各 RoleDefinitions.xml ファイルに対して手順 1 ~ 6 を繰り返します。

オンライン ヘルプのインストール

CA Identity Manager には、ユーザ コンソールの各翻訳バージョンの翻訳済みオンライン ヘルプが含まれます。

次の手順に従ってください:

1. CA サポート サイトの翻訳済みオンライン ヘルプを、以下の手順でダウンロードします。

- a. ブラウザ ウィンドウの [CA サポート サイト](#) を開きます。
- b. [Documentation] をクリックします。
- c. [Find Other Product Documentation] セクションの [Select a Product] フィールドに CA Identity Manager を入力します。
- d. 適用可能なリリースおよび言語を選択し、[Go] をクリックします。

サポート サイトでは、選択したリリースの各サービス パックの翻訳ドキュメントおよびオンライン ヘルプが表示されます。

- e. ダウンロードするには、[online help ZIP file] をクリックします。
2. オンライン ヘルプ ZIP ファイルを以下のようにコピーします。

```
copy filename.zip iam_im.ear¥user_console.war¥
```

filename

手順 1 でダウンロードした ZIP ファイルの名前。

iam_im.ear

アプリケーション サーバ上の CA Identity Manager アプリケーションを展開した場所。

注: オンライン ヘルプは、デフォルトバージョンのバックアップ コピーを作成してから、翻訳バージョンに置き換えるようにしてください。デフォルトのオンライン ヘルプは、翻訳バージョンで上書きされてしまいます。

3. im_help.zip を user_console.war ディレクトリに展開します。

翻訳バージョンのオンライン ヘルプを使用できるようになりました。

カスタム ローカライズ ファイルの作成方法

リソースバンドルのローカライズには、以下の操作が必要です。

1. **RoleDefinitions.xml** ファイルにロールをエクスポートし、以下の手順を実行します。
 - 単一言語の **CA Identity Manager** をローカライズする場合は、次の手順に進みます。
 - 複数言語の **CA Identity Manager** をローカライズする場合は、**RoleDefinitions.xml** ファイルをトークン化します。
ユーザがトークン化された **RoleDefinitions.xml** ファイルを作成するコマンドを実行すると、**CA Identity Manager** により **RoleDefinitions_Tokenized.xml** および **RoleDefinitions_Tokenized.properties** が作成されます。
2. **RoleDefinitions.xml** ファイルの翻訳
3. リソースバンドルを翻訳します。
4. ローカライズされたファイルをインストールします。
5. 新規または既存の環境に、トークン化された **RoleDefinitions.xml** ファイルをインポートします。

注: 包括的な説明については、**admin_tools¥samples¥Localization** にある **readme** ファイルを参照してください。管理ツールは、以下のデフォルトの場所に配置されています。

- **Windows** : C:¥Program Files¥CA¥Identity Manager¥IAM Suite¥Identity Manager¥tools
- **UNIX** : /opt/CA/IdentityManager/IAM_Suite/Identity_Manager/tools

電子メール テンプレートの翻訳

管理者がリクエストを承認したり、タスクが完了するなどの何らかのイベントが発生する場合に、**CA Identity Manager** により関係するユーザに電子メール通知が送信されるようになります。

ユーザ コンソールで電子メール通知ポリシーを使用し、電子メール通知の作成および管理を行います。

注: 電子メールに国際文字が含まれる場合、メッセージを正しく表示するために、ユーザは電子メールクライアントのエンコードを **Unicode (UTF-8)** に設定する必要があります。電子メールエンコードの変更の詳細については、電子メールクライアントに付属するマニュアルを参照してください。

電子メール テンプレートの翻訳方法

1. 「管理ガイド」で説明されているとおり、電子メール通知のサポートを設定します。
2. 「管理ガイド」にある電子メール通知を使用するための手順を完了します。
電子メール通知をカスタマイズする場合、コンテンツを適切な言語に翻訳します。

スキンのブランディングのローカライズ方法

スキンのブランディングでは、CA Identity Manager 環境のグラフィックス、色およびフォントが決定されます。CA Identity Manager には、デフォルトスキンおよび特定の言語に対してカスタマイズできるいくつかのサンプル スキンが含まれます。

[マイ アカウントの変更]タスクの変更

ローカライズされた環境では、デフォルト コンサルテーション プロセスは設定の中に英語のロール名があり、[マイ アカウントの変更] タスクの失敗の原因となります。この失敗を回避するには、以下の手順に従います。

1. ユーザ コンソールで [マイ アカウントの変更] タスクを変更します。
2. [イベント] タブをクリックします。
3. ロール リストから言語固有の [ユーザ マネージャ] および [ユーザ承認者] ロールを選択します。
4. 変更内容を保存します。

カスタム コードのローカライズ

CA Identity Manager API を使用してカスタム コードを作成するとき、以下のタスクを実行できます。

- [論理属性ハンドラ]、[ビジネス ロジック タスク ハンドラ]および検証ルールで表示される例外メッセージをローカライズします。
- 論理属性の表示名をローカライズします。
- リモート タスク実行 (TEWS) 機能を使用するとき、CA Identity Manager がサードパーティ クライアントとの通信に使用する言語を指定します。

- ローカライザヘルパークラスを使用して、指定されたロケールのローカライズされた文字列のバージョンを取得します。たとえば、タスク画面またはタスク名のラベルのローカライズされたバージョンを取得できます。

カスタムコードのローカライズの詳細については、以下のドキュメントを参照してください。

- 「*Java プログラミングガイド*」のサポートオブジェクト情報のローカライズおよび `IMSEException` 領域。
- Javadoc のローカライズおよび `IMSEException` オブジェクトのクラス記述。

別の言語での CA Identity Manager 表示方法

ある環境で複数言語がサポートされている場合、ユーザは、ログイン画面およびユーザコンソールの [言語の選択] フィールドから、表示する言語を選択できます。ユーザが別の言語を選択すると、**CA Identity Manager** では新しい言語でログイン画面およびユーザコンソール画面が表示されます。ユーザが環境からログアウトしなくても、変更は有効になります。

[言語の選択] フィールドの言語のリストは、その環境でのローカライズされたファイルの可用性に依存します。ユーザのブラウザで定義された言語の優先順位によりデフォルト言語が決定されます。

注: [言語の選択] フィールドを表示するには、**CA Identity Manager** で以下の設定手順を実行します。

- 管理コンソールの [Enable Language Switching] フィールドの設定
- 翻訳されたロール定義ファイルのインポートおよびオンラインヘルプファイルのインストールにより、環境に言語のサポートを追加します。

注: ユーザがサンプルファイルを使用するのではなく、ローカライズされたカスタムファイルを作成している場合、追加の設定手順が必要です。

言語切り替えを有効にする

CA Identity Manager ログイン画面および管理コンソールのユーザ コンソールで、言語切り替えのサポートを有効にします。

言語切り替えを有効にする方法

1. 以下の URL を使用して管理コンソールを開きます。
`http://hostname:port/iam/immanage`
注: CA Identity Manager に高度な認証を提供するために Web エージェントを使用している場合は、以下に注意が必要です。
 - ポート番号を指定する必要はありません。
 - [Choose Language] フィールドはログイン画面に表示されません。
2. [Environments] - [YourEnvironment] - [Advanced Settings] - [User Console] に移動します。
3. [General Behavior] セクションで、[Enable Language Switching] を選択します。
4. [Save] をクリックします。
5. 環境を再起動して変更を有効にします。

CA SiteMinder レスポンスでの imlanguage HTTP ヘッダの設定

CA Identity Manager が CA SiteMinder と統合される場合、imlanguage HTTP ヘッダを使用してユーザのロケール優先順位を定義できます。CA SiteMinder で、CA SiteMinder レスポンスにこのヘッダを設定し、ヘッダの値としてユーザ属性を指定します。この imlanguage ヘッダはあるユーザに対する最高ロケール優先順位として作用します。

CA SiteMinder レスponseでの imlanguage HTTP ヘッダの設定方法

1. ドメイン権限を持った管理者として、以下のいずれかのインターフェースにログインします。
 - CA SiteMinder Web Access Manager r12 以上の場合、管理 UI にログインします。
 - CA eTrust SiteMinder 6.0 SP5 の場合、ポリシー サーバユーザインターフェースにログインします。

注: これらのインターフェースの使用の詳細については、使用している CA SiteMinder のバージョン用のマニュアルを参照してください。

2. 保護された CA Identity Manager 環境に対する CA SiteMinder レスponseを見つけます。

Identity Manager-environmentresponse_ims

3. 以下の値で CA SiteMinder レスponse属性エディタを作成します。
 - 属性: WebAgent-HTTP-Header-Variable
これにより、レスponseに新しい HTTP ヘッダが追加されます。
 - 属性種類: User Attribute
 - 変数名: imlanguage
 - 属性名: 優先ロケールが含まれるユーザディレクトリの物理属性名を入力します。たとえば、**employeetype** と入力します。

ユーザディレクトリのユーザ属性のコンテンツには言語優先順位を含める必要があります。言語優先順位は 2 文字の言語の略語で構成され、オプションでハイフンまたはアンダースコアによって区切られる 2 文字の国コードが末尾に付けられます。以下の例のように、ユーザ属性の言語優先順位設定は大文字と小文字を区別しません。

- ja
- en-US
- en_uk

4. レスponseを保存します。

imlanguage HTTP ヘッダが CA SiteMinder レスponseに設定されました。

第 10 章：検証ルール

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[検証ルール概要 \(P. 177\)](#)

[検証ルールについて \(P. 177\)](#)

[デフォルト検証ルールの使用 \(P. 181\)](#)

[カスタム検証ルールの実装方法 \(P. 184\)](#)

[検証ルールの設定方法 \(P. 192\)](#)

[検証の開始方法 \(P. 199\)](#)

[実装のサンプル \(P. 200\)](#)

検証ルール概要

タスク画面フィールドを介して、またはプログラムで値がデータストア属性に割り当てられます。属性検証ルールにより、以下の例のようにユーザがタスク画面フィールドに入力するか、プログラムで供給される値がある要件を満たすことを確認します。

- データ型の適用や、日付のようなエントリにある形式が適用されていることの確認などのユーザディレクトリ要件。
- データの整合性。エントリが、タスク画面に関する他の情報のコンテキストで、またはサイトに固有のビジネスルールに従って、意味をなすかどうかを確認します。

検証ルールは、タスク画面フィールドと直接関連付けることも、フィールドに対して設定される管理対象オブジェクト属性への関連付けにより間接的にフィールドと関連付けることもできます。

CA Identity Manager がタスクの処理を開始する前に、タスク画面のフィールドと直接または間接的に関連付けられた検証ルールがすべて満たされる必要があります。供給値が無効なとき、違反されたルールに関するメッセージが表示されます。また、ユーザはエントリを修正し、タスクを再サブミットできます。

検証ルールについて

検証ルールにより、以下の例のように要件が適用されます。

- [数量] フィールドに入力できるのは数字のみです。
- [電話番号] フィールドは nnn-xxx-xxxx 形式とする必要があります。

- [従業員 ID] フィールドに入力できるのは、9999 までの数字です。
- [郵便番号] フィールドに入力される値は、[市区町村] フィールドおよび [都道府県] フィールドに入力された値に対して適切である必要があります。
- [タイトル] フィールドに入力された値により、[セキュリティ レベル] で入力されたセキュリティ クリアランスの資格がユーザに与えられるかどうかを確認します。

ユーザ エントリの検証に加えて、エントリがルールの要件に適合するよう、検証ルールによりユーザが介在することなくエントリを変更できます。以下に例を示します。

- [電話番号] フィールドの検証ルールでは、電話番号が nnn-xxx-xxxx 形式であることが要求されます。ユーザが値 9785551234 を入力した場合、エントリは検証ルールにより自動的に正しい形式である 978-555-1234 に変更されます。
- [部署番号] フィールドの検証ルールでは、[地域] フィールドで入力された名前を表す 3 文字のコードを数字のプレフィックスとして付けることが要求されます。プレフィックスがないか正しくない場合、検証ルールにより正しいプレフィックスが提供されます。

検証ルールによるエントリの変更は、*変換*と呼ばれます。

検証ルールのタイプ

2 つのタイプの検証ルールを以下に示します。

- **タスク レベル検証** -- タスクの他の属性に対する属性値を検証します。たとえば、ユーザ指定の電話番号の市外局番が、ユーザの市区町村と都道府県に適切かどうかを検証します。

タスク画面設定中に、タスク レベル検証ルールはタスク画面フィールドと直接関連付けられます。

このタイプの検証を使用して、データの整合性を適用できます。

- **ディレクトリ レベル検証** -- タスクの他の属性のコンテキストとは関係なく、属性値自体を検証します。たとえば、ユーザが入力した電話番号がディレクトリで使用される nnn-xxx-xxxx 形式に一致することを検証します。

ディレクトリ レベル検証ルールは、`directory.xml` でルールセットによって管理対象オブジェクト属性にマッピングされます。ルールセット内のルールは、属性を使用して設定された任意のタスク画面フィールドに適用されます。

このタイプの検証を使用して、ユーザ ディレクトリ要件を適用できます。

CA Identity Manager では、ディレクトリ レベル検証ルールの前にタスク レベル検証ルールが実行されます。

例: ディレクトリレベル検証とタスクレベル検証の比較

この例では、電話属性は `directory.xml` でディレクトリレベル検証ルールにマッピングされます。この検証ルールでは、電話番号を `nnn-nnn-nnnn` 形式とすることが要求されます。フィールドが表示されるのが [ユーザの作成] タスク画面、[サプライヤの作成] タスク画面、または他のタスク画面のいずれであっても、電話属性を使用して設定されたフィールドはすべて、`nnn-nnn-nnnn` 形式に対して検証されます。

[電話番号] フィールドが [カスタマの作成] タスク画面に表示される場合、他のタスク画面の電話番号フィールドと同様に、このフィールドは、`nnn-nnn-nnnn` の電話番号形式を要求する電話属性を使用して設定されます。ただし、会社のカスタマの一部は他の都道府県に存在するため、[カスタマの作成] タスク画面の [電話番号] フィールドは、以下のタスクレベル検証ロジックとも関連付けられます。

- [都道府県] フィールドの値を確認します。
- カスタマが他の都道府県に存在する場合、カスタマの電話番号の市外局番がカスタマの都道府県に対して適切であることを確認します。

検証ルールセット

ディレクトリレベル検証では、1つ以上の検証ルールがルールセットに割り当てられます。また、ルールセットは管理対象オブジェクト属性と関連付けられます。

ルールセットにより、ユーザは以下の例のように緻密にルールを定義し、適用できます。

- ルールは別のルールセットで使用できます
- ルールは別の組み合わせで実行できます

ルールセットのルールが失敗すると（たとえば、Java または JavaScript のルールでは `False` を返します）、ルールと関連付けられた何らかの例外メッセージがユーザに示されます。属性と関連付けられた検証ルールがすべて満たされれば、属性が検証されたとみなされます。

実行順序

ルールは、ルールセットにリストされた順序で実行されます。CA Identity Manager は、ルールセットの各ルールを別々に実行し、ルールが失敗しない限り、ルールセットの次の各ルールを透過的に続行します。

検証ルールは予測可能な順序で実行されるため、以下の例のように、アクションが前のルールの結果に依存するルールを実装できます。

- 1つのルールの出力を次のルールの入力とすることができます。
- フィールド値が検証中に変更される場合、新しい値は次のルールで評価されます。

検証ルール定義の基本

カスタム検証ルールを定義するとき、以下の基本操作を実行します。

- **検証ルールを実装します。** 以下のいずれかの方法で検証ルールを実装します。
 - 正規表現
 - JavaScript
 - Java クラス
- **タスク画面または `directory.xml` を介して CA Identity Manager に検証ルールを統合します。** 以下の表で示されるとおり、インライン（タスク画面または `directory.xml` ファイルで直接）または参照（JavaScript ソース ファイルまたはコンパイルされた Java クラス ファイルを参照して）によって統合を行います。

	インライン	参照による
正規表現	<code>directory.xml</code> または タスク画面	—
JavaScript	<code>directory.xml</code> または タスク画面	<code>directory.xml</code> で参照されるソース ファイル
Java	—	<code>directory.xml</code> またはタスク画面で参照されるクラス ファイル

- 1つ以上の検証規則をタスク画面フィールドに関連付けます。以下のいずれかまたは両方の方法で行います。
 - タスク レベル検証で、特定のタスク画面のフィールドに検証規則を直接割り当てます。
タスク レベル検証にはタスクに固有の範囲があります。すなわち、割り当て対象の特定のタスク画面のコンテキストでのみ使用することができます。
 - ディレクトリ レベル検証では、`directory.xml` の管理対象オブジェクト属性にルールセットをマッピングします。属性を使用して設定されるいずれのタスク画面フィールドも、ルールセットのルールに対して検証されます。
ディレクトリ レベル検証にはグローバル範囲があります。これは、フィールドが含まれるタスク画面、およびタスク画面が含まれる **CA Identity Manager** 環境にかかわらず、管理対象オブジェクト属性を使用して設定されたいずれのフィールドでも、ディレクトリ レベル検証を使用できることを意味します。

デフォルト検証規則の使用

CA Identity Manager は、以下のタイプのデフォルト検証規則を伴ってリリースされます。

- タスク画面フィールドのデータ検証
- `directory.xml` ファイルで定義される事前定義済み検証規則

デフォルト データ検証

デフォルトでは、管理者が処理のためにタスクをサブミットすると、CA Identity Manager によりあるデータが確認されます。データが無効なとき、CA Identity Manager によりタスクの処理が停止され、エラーメッセージが表示されます。以下のテーブルで表示されるように、CA Identity Manager で実行されるデータ検証は、タスクのタイプに基づいています。

タスク	検証
すべてのタスク	必須フィールドには値の入力が必要です。

タスク	検証
ユーザの作成 グループの作成 組織の作成 アクセス ロールの作成 アクセス タスクの作成 管理ロールの作成 管理タスクの作成	管理者は、同じタイプの既存のオブジェクトと同じ名前のオブジェクトを作成できません。たとえば、管理者は、同じ名前の2つの管理ロールを作成できません。 注: CA Identity Manager では、ユーザおよびグループに対して現在の組織のみが確認されます。
ユーザの作成 グループの作成 組織の作成	管理者は、以下の文字のいずれかを含む名前を持つユーザ、グループまたは組織を作成できません。 <ul style="list-style-type: none"> ■ カンマ (,) ■ 引用符 (') ■ 二重引用符 (") ■ アスタリスク (*) ■ アンパサンド (&) ■ スラッシュ (/) ■ 円記号 (¥) ■ より小さい (<) ■ より大きい (>) ■ 等号 (=) ■ プラス (+) ■ セミコロンの (;) ■ シャープ記号 (#) ■ 先頭または末尾のスペース 注: 組織名にはカンマ (,) またはアンパサンド (&) を入れることができます。

タスク	検証
[すべての作成および変更] タスク	<p>読み取り/書き込み権限を持った属性（パスワードを除く）には、以下の文字を入れることができません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ カンマ (,) ■ パーセント記号 (%) ■ より小さい (<) ■ より大きい (>) ■ セミコロン (;) <p>これらの文字はクロス サイト スクリプティング攻撃に対して脆弱です。</p>
ユーザの作成 自己登録 マイ パスワードの変更 ユーザ パスワードのリセット ユーザ パスワードを収集し 格納するあらゆるカスタム タスク	<p>ユーザがパスワードルール（最小長など）を適用するために CA SiteMinder の [パスワード サービス] 機能を使用している場合、ユーザ パスワードはこれらのルールに対して検証されます。</p> <p>パスワードがパスワード ポリシーを満たさない場合、パスワードは受理されません。</p> <p>注: 詳細については、「CA SiteMinder Web アクセス マネージャ ポリシー サーバ設定ガイド」を参照してください。</p>
ユーザの変更	<p>管理者は自分自身にロールまたはロールの割り当て資格を与えることができません。</p>
忘れたパスワード	<p>ユーザ プロファイルにパスワード ヒントおよび答えがない場合、そのユーザは忘れたパスワード機能を使用できません。</p>
ユーザの削除 ユーザの有効化/無効化	<p>管理者は、自分のプロファイルの削除やアカウントのステータス変更を行うことができません。</p>
組織の削除	<p>管理者は、自分自身が [組織の削除] タスクを含むロールを割り当てられている組織を削除できません。</p> <p>[ディーラ] 組織で [組織のマネージャ] ロールを割り当てられている管理者を考えてみます。 [組織のマネージャ] ロールにより、このユーザは組織の削除が可能です。 この管理者は、 [ディーラ] のサブ組織を削除できますが、 [ディーラ] を削除できません。</p>
組織の変更	<p>管理者は、自分自身が [組織の変更] タスクを含むロールを割り当てられている組織を変更できません。</p>

事前定義済み検証ルール

CA Identity Manager には `directory.xml` ファイルで事前定義済みの以下の検証ルールが含まれます。以下の表で示されるように、事前定義済み検証ルールはディレクトリ レベル検証のみに使用されます。

事前定義済みルール名	説明
電話パターン	電話番号に以下の形式を適用します。 <code>+nn nnn-xxx-xxxx</code>
国際電話の設定	国際電話番号のプレフィックス <code>+1</code> を追加します。
有効なユーザ	指定されたユーザ オブジェクトがディレクトリに存在することを検証します。
有効なグループ	指定されたグループ オブジェクトがディレクトリに存在することを検証します。
有効な組織	指定された組織オブジェクトがディレクトリに存在することを検証します。

事前定義済み検証ルールおよびカスタム検証ルールは、同じルール セットに存在させることができます。

カスタム検証ルールの実装方法

以下のいずれかについて検証ルールを実装できます。

- 正規表現
- JavaScript
- Java クラス

正規表現の実装

検証ルールは、正規表現パターン マッチングに基づいている場合があります。たとえば、以下の操作を実行できます。

- ある属性に対して無効な文字または値のリストを指定します
- 不適切な形式の DN または電話番号など、ユーザによる無効な構成要素の入力を制限します

以下の JavaScript の例では、電話番号形式に +nn nnn-*nnn*-*nnnn* を適用しています。
phone=/\+?*d*{1,3} *d*{3}-*d*{3}-*d*{4}/;

以下の例のように、CDATA の XML に定義された正規表現をラッピングします。

```
<ValidationRule name="Phone pattern" description="+nn nnn-nnn-nnnn"
  messageid="4001">
  <RegularExpression>
    <![CDATA[ ((\+|\d)*+(\s*|\s*2D))?ddd-ddd-dddd]]>
  </RegularExpression>
</ValidationRule>
```

正規表現に基づいた検証ルールは、`java.util.regex` パッケージで定義された要件に適合する必要があります。

JavaScript の実装

JavaScript ベースの検証ルールでは、ルールがタスク レベル検証またはディレクトリ レベル検証のいずれに使用されるかに応じて、関連するインターフェースを実装する必要があります。

検証の際、CA Identity Manager は `validate()` を呼び出し、検証される値を渡します。

タスクレベル検証の JavaScript インターフェース

タスク レベル検証の JavaScript インターフェースの定義を以下に示します。

構文

```
public boolean validate(
    BLTHContext context,
    String attributeValue,
    StringRef changedValue,
    StringRef errorMessage
);
```

パラメータ

context

入力パラメータ

現在のタスク セッション情報の取得方法が含まれるオブジェクトを指定します。

attributeValue

入力パラメータ

検証される属性の値を指定します。

changedValue

出力パラメータ

検証されるユーザ入力値を置換するオプションの変換値を提供します。変換が必要でない場合は、`null` を返します。

errorMessage

出力パラメータ

検証が失敗すると、ユーザへのメッセージを表示します。

メッセージは `AttributeValidationException` で表示されます。メソッドが `false` を返すと、CA Identity Manager によりこの例外が生成されます。

コメント

出力パラメータ *changedValue* および *errorMessage* はデータ型 `StringRef` です。以下の例で示されるように、`StringRef` は、値を割り当てるフィールド参照が含まれる事前定義済みデータ型です。

- 正しい形式の電話番号にプレフィックス `1` を追加します。
`changedValue.reference="+1 " + phoneNumber;`
- 不適切な形式の番号に対しては、エラーメッセージを提供します。
`errorMessage.reference="Phone number " + phoneNumber +
" does not match the format nnn-xxx-xxxx.";`

戻り値

- `True attributeValue` の値は有効であるとみなされるか、または *changedValue* で変換された値が返されます。
- `False attributeValue` は無効であるとみなされます。CA Identity Manager により、*errorMessage* が含まれる `AttributeValidationException` が生成されます。

ディレクトリレベル検証の JavaScript インターフェース

ディレクトリ レベル検証の JavaScript インターフェースの定義を以下に示します。

構文

```
public boolean validate(  
    String attributeValue,  
    StringRef changedValue,  
    StringRef errorMessage  
);
```

パラメータ

attributeValue

入力パラメータ

検証される属性の値を指定します。

changedValue

出力パラメータ

検証されるユーザ入力値を置換するオプションの変換値を提供します。変換が必要でない場合は、`null` を返します。

errorMessage

出力パラメータ

検証が失敗すると、ユーザへのメッセージを表示します。

メッセージは `AttributeValidationException` で表示されます。メソッドが `false` を返すと、CA Identity Manager によりこの例外が生成されます。

コメント

出力パラメータ *changedValue* および *errorMessage* はデータ型 `StringRef` です。以下の例で示されるように、`StringRef` は、値を割り当てるフィールド参照が含まれる事前定義済みデータ型です。

- 正しい形式の電話番号にプレフィックス 1 を追加します。
`changedValue.reference="+1 " + phoneNumber;`
- 不適切な形式の番号に対しては、エラーメッセージを提供します。
`errorMessage.reference="Phone number " + phoneNumber +
" does not match the format nnn-xxx-xxxxn.";`

戻り値

- `True` -- *attributeValue* の値は有効であるとみなされるか、または *changedValue* で変換された値が返されます。
- `False` -- *attributeValue* は無効であるとみなされます。CA Identity Manager により、*errorMessage* が含まれる `AttributeValidationException` が生成されます。

Java の実装

Java ベースの検証ルールでは、ルールがタスク レベル検証またはディレクトリ レベル検証のいずれに使用されるかに応じて、関連するインターフェースを実装する必要があります。

検証の際、CA Identity Manager は `validate()` を呼び出し、検証される値を渡します。

タスクレベル検証用の Java インターフェース

タスク レベル検証の Java インターフェースの定義を以下に示します。

構文

```
public interface TaskValidator {
    public class StringRef {
        public String reference = new String();
        public String toString(){return reference;}
    }
    public boolean validate(
        BLTHContext ctx,
        String attrValue,
        StringRef updatedValue,
        StringRef errorMessage
    ) throws AttributeValidationException;
}
```

Parameters

ctx

入力パラメータ

現在のタスク セッション情報の取得方法が含まれるオブジェクトを指定します。

attrValue

入力パラメータ

検証される属性の値を指定します。

updatedValue

出力パラメータ

検証されるユーザ入力値を置換するオプションの変換値を提供します。変換が必要でない場合は、`null` を返します。

errorMessage

出力パラメータ

検証が失敗すると、ユーザへのメッセージを表示します。

コメント

Java 検証ルールの詳細と、管理対象オブジェクトについては、「CA Identity Manager Javadoc」を参照してください

戻り値

- *True* -- *attributeValue* の値は有効であるとみなされるか、または *changedValue* で変換された値が返されます。
- *False* -- *attributeValue* は無効であるとみなされます。

スロー

AttributeValidationException

ディレクトリレベル検証の Java インターフェース

ディレクトリ レベル検証の Java インターフェースの定義を以下に示します。

構文

```
public interface IAttributeValidator {
public class StringRef {
    public String reference = new String();
    public String toString(){return reference;}
public boolean validate(
    Object attributeValue,
    StringRef changedValue,
    StringRef errorMessage
    ) throws AttributeValidationException;
}
```

パラメータ

attributeValue

入力パラメータ

検証される属性の値を指定します。

changedValue

出力パラメータ

検証されるユーザ入力値を置換するオプションの変換値を提供します。変換が必要でない場合は、*null* を返します。

errorMessage

出力パラメータ

検証が失敗すると、ユーザへのメッセージを表示します。

コメント

検証操作でディレクトリにある管理対象オブジェクトが必要とされる場合、`AttributeValidator` を使用します。この抽象型クラスでは `IAttributeValidator` インターフェースを実装し、管理対象オブジェクトプロバイダの取得方法が含まれます。

戻り値

- `True` -- `attributeValue` の値は有効であるとみなされるか、または `changedValue` で変換された値が返されます。
- `False` -- `attributeValue` は無効であるとみなされます。

スロー

`AttributeValidationException`.

例外

タスク画面フィールドに入力されるか、またはプログラムが供給する属性値を検証ルールにより検証できないとき、`AttributeValidationException` がスローされます。例外には、ユーザに提示される 1 つ以上のメッセージが含まれます。これにより、ユーザはエントリを修正し、タスクを再サブミットすることができます。

この例外がスローされる方法および例外に対するエラーメッセージの表示方法は、ルールが `JavaScript`、`Java` クラスまたは正規表現で実装されているかどうかによって依存します。

タスクレベル検証の例外

タスク レベル検証エラーでは、以下の表で示されるように `AttributeValidationException` がスローされます。

ルール タイプ	スローされる方法	エラー メッセージ ソース
正規表現	正規表現検証が失敗すると、 <code>CA Identity Manager</code> によってスローされます。	<code>CA Identity Manager</code> は、汎用例外メッセージを使用します。
<code>JavaScript</code>	<code>validate()</code> メソッドが <code>False</code> を返す場合、 <code>CA Identity Manager</code> によってスローされます。	<code>validate()</code> メソッドの <code>errorMessage</code> パラメータ。

ルールタイプ	スローされる方法	エラーメッセージソース
Java	<p>カスタム検証ルールまたは CA Identity Manager によってスローされます。</p> <p>カスタムルールがスローせず、カスタムルールの <code>validate()</code> メソッドが <code>False</code> を返す場合、CA Identity Manager によって例外がスローされます。</p>	<p>以下のいずれかのソースです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ カスタム検証ルールが例外をスローする場合、例外のコンストラクタ。コンストラクタにより、リソースバンドルのメッセージの ID および追加メッセージのテキストを指定できます。 ■ CA Identity Manager が例外をスローする場合、<code>validate()</code> メソッドの <code>errorMessage</code> パラメータ。

検証ルール実装がエラーメッセージを提供しない場合、CA Identity Manager は汎用エラーメッセージを使用します。

ディレクトリレベル検証の例外

ディレクトリレベル検証エラー用の例外メッセージには 2 つのソースがあります。

- リソースバンドル。 `directory.xml` では、すべてのタイプの検証ルール (Java、JavaScript および正規表現) の定義には、属性 `messageid` が含まれます。この ID はリソースバンドル `IMSEExceptions.properties` のカスタム例外メッセージにマッピングされます。 `AttributeValidationException` がスローされる時、CA Identity Manager には検証ルールに対して定義される他のエラー情報とマッピングされたメッセージが含まれます。
- カスタム検証ルールコード。Java および JavaScript の実装では、ルールに対して追加の例外メッセージを定義できます。Java または JavaScript ルールで検証エラーが発生すると、リソースバンドルのルールにマッピングされるメッセージを伴うメッセージがユーザに提示されます。

これらの Java と JavaScript の例外メッセージのソースは、上記の表で定義されています。

この機能は、正規表現として実装されたディレクトリレベル検証ルールには適用されません。

注: リソースバンドルの例外メッセージの詳細については、CA Identity Manager Javadoc で `AttributeValidationException` を参照してください。

AttributeValidationException コンストラクタ

Java `validate()` メソッドの `AttributeValidationException` オブジェクトを作成する場合、以下のコンストラクタを使用します。

構文

```
public AttributeValidationException(String attrName,  
    String attrValue,  
    String messageid,  
    String message);
```

パラメータ

`attrName`

検証される管理対象オブジェクト属性の名前を指定します。

`attrValue`

検証する値を指定します。

`messageid`

値を検証できない場合、表示するメッセージと関連付けられた ID を提供します。ID はリソースバンドル `IMSEExceptions.properties` のメッセージに対応します。

`message`

ユーザ向けに表示する追加のメッセージを提供します。このパラメータにより、ユーザはリソースバンドルのメッセージより特定のメッセージ、またはカスタムリソースバンドルのメッセージを表示することができます。

注: `AttributeValidationException` の詳細については、CA Identity Manager Javadoc を参照してください。

検証ルールの設定方法

CA Identity Manager への統合および、タスク画面フィールドへの直接または間接的な関連付けにより、検証ルールを設定します。

ユーザの検証ルール設定方法は、以下のように、ユーザがルールを特定のタスク画面のフィールドに適用するか（タスク レベル検証）、または任意のタスク画面のフィールドに適用するか（ディレクトリ レベル検証）により決定します。

- タスク レベル検証では、特定のタスク画面でルールとフィールドを直接関連付けます。検証は、そのタスク画面のみのコンテキストのフィールドで実行されます。
- ディレクトリ レベル検証では、ルールとタスク画面フィールドの間の関連付けは、以下のように間接的です。
 - `directory.xml` で検証ルールを指定し、ルールセットにルールを追加し、管理対象オブジェクト属性とルールセットを関連付けます。
 - ユーザ コンソールで、管理対象オブジェクト属性を使用して設定されるフィールドが、属性にマッピングされたルールセットに対して検証されます。

フィールドが含まれるタスク画面、およびタスク画面が含まれる CA Identity Manager 環境にかかわらず、属性を使用して設定されたいずれかのフィールドで、検証が実行されます。

タスクレベル検証の設定方法

プロファイル タスク画面でフィールド プロパティを定義するとき、ユーザ コンソールでタスク レベル検証を設定します。標準的な手順を以下に示します。

1. 検証されるフィールドが含まれるプロファイル設定画面の [フィールド プロパティ] セクションに移動します。

注: フィールド プロパティの詳細については、「[管理ガイド](#)」およびユーザ コンソール オンライン ヘルプを参照してください。

2. 検証ルールの実装方法に応じて、以下のフィールドのいずれかに値を指定します。

- 検証式 検証を実行する正規表現を指定します。
- 検証 Java クラス 検証を実行する Java クラスの完全修飾名を指定します。以下に例を示します。

```
com.mycompany.MyJavaValidator
```

CA Identity Manager では、カスタム Java クラス ファイルに指定されたルート ディレクトリ に、クラス ファイルが格納されていると判断します。

- 検証 JavaScript 検証を実行する完全な JavaScript コードを指定します。

注: このフィールドに JavaScript コードを入力する必要があります。タスクレベルの検証では、JavaScript コードを含むファイルを参照することはできません。

注: プロファイル設定画面の他のフィールドプロパティの定義の詳細については、画面上の [ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

ディレクトリレベル検証の設定方法

directory.xml ファイルおよびタスク画面でディレクトリ レベル検証を設定します。標準的な手順を以下に示します。

- directory.xml ファイルで、以下を実行します。
 - ValidationRule エレメントで検証ルールを指定します。
 - ValidationRuleSet エレメントでルールセットを指定します。ルールセットには 1 つ以上の事前定義済みルール、カスタム検証ルールまたは両方のタイプのルールが含まれます。
 - ImsManagedObjectAttr エレメントで、管理対象オブジェクト属性とルールセットを関連付けます。
- タスク画面で、検証されるフィールドはルールセットにマッピングされた属性を使用して設定される必要があります。

ディレクトリレベル検証の CA Identity Manager との統合

directory.xml ファイルの ImsManagedObjectAttrValidation エレメントによって、CA Identity Manager への検証ルールおよびルールセットを定義します。

ImsManagedObjectAttrValidation エレメントのスキーマは以下のとおりです。

```
<xs:element name="ImsManagedObjectAttrValidation" minOccurs="0">
  <xs:complexType>
    <xs:sequence>
      <xs:element name="ValidationRule" minOccurs="0"
                  maxOccurs="unbounded">
        <xs:complexType>
          <xs:choice>
            <xs:element name="Java">
              <xs:complexType>
                <xs:attribute name="class" type="xs:string"
                              use="required"/>
              </xs:complexType>
            </xs:choice>
          </xs:complexType>
        </xs:element>
      </xs:sequence>
    </xs:complexType>
  </xs:element>
```

```
<xs:element name="JavaScript">
  <xs:complexType>
    <xs:simpleContent>
      <xs:extension base="xs:string"/>
    </xs:simpleContent>
  </xs:complexType>
</xs:element>
<xs:element name="JavaScriptFile">
  <xs:complexType>
    <xs:attribute name="file" type="xs:string"
                  use="required"/>
  </xs:complexType>
</xs:element>
<xs:element name="RegularExpression">
  <xs:complexType>
    <xs:simpleContent>
      <xs:extension base="xs:string"/>
    </xs:simpleContent>
  </xs:complexType>
</xs:element>
</xs:choice>
<xs:attribute name="name" type="xs:string"
              use="required"/>
<xs:attribute name="description" type="xs:string"
              use="optional"/>
<xs:attribute name="messageid" type="xs:string"
              use="required"/>
</xs:complexType>
</xs:element>
```

```
<xs:element name="ValidationRuleSet" minOccurs="0"
              maxOccurs="unbounded">
  <xs:complexType>
    <xs:sequence>
      <xs:element name="ValidationRule"
                  maxOccurs="unbounded">
        <xs:complexType>
          <xs:attribute name="name" type="xs:string"
                        use="required"/>
        </xs:complexType>
      </xs:element>
    </xs:sequence>
    <xs:attribute name="name" type="xs:string"
                  use="required"/>
    <xs:attribute name="description" type="xs:string"
                  use="optional"/>
  </xs:complexType>
</xs:element>
</xs:sequence>
</xs:complexType>
</xs:element>
```

以下のエレメントが定義されています。

ValidationRuleSet

1つ以上の事前定義済み検証ルールまたはカスタム検証ルールで構成されます。検証ルールは **ValidationRule** エレメントに指定されます。

事前定義済みルールおよびカスタムルールは、同じルールセットに存在させることができます。またルールセットには、**Java**、**JavaScript** および正規表現実装の組み合わせのいずれも含めることができます。

検証ルールは、**ValidationRuleSet** に表れる順序で実行されます。これにより、1つのルールからの出力を次のルールの入力として使用し、検証をカスケードできます。

ValidationRuleSet は、**directory.xml** ファイルの **ImsManagedObjectAttr** エレメントの管理対象オブジェクト属性と関連付けられます。

ValidationRule

ValidationRuleSet で使用される検証ルールを指定します。

ValidationRule に含まれるのは以下のいずれかのサブエレメントのみとする必要があります。

- Java. ルールを実装する Java クラス ファイルを参照します。
- JavaScript. ルールを実装するインライン JavaScript コードを含みます。
- JavaScriptFile. ルールを実装する JavaScript ソース ファイルを参照します。
- RegularExpression. ルールを実装するインライン正規表現を含みます。サポートされない「ページ」相互参照上で示されるように、正規表現は CDATA でラッピングされる必要があります。

キー属性

これまでに記載されたエレメントの属性の大半は説明不要です。ただし、以下の属性には説明が必要です。

- エレメントのクラス属性 <Java>

Java 検証ルールでは、Java クラスはユーザのアプリケーション サーバ内の以下のルート ロケーションに展開される必要があります。

```
iam_im.ear%custom
```

このルート ロケーションにあるクラス ファイルは完全修飾される必要がありますが、他のパス情報（たとえば com.mycompany.MyJavaImpl）は必要ありません。

- エレメントのファイル属性 <JavaScriptFile>

JavaScript ソース ファイルで実装される検証ルールでは、ファイルはユーザのアプリケーション サーバ内の以下のルート ロケーションに展開される必要があります。

```
iam_im.ear%custom%validationscripts
```

このルート ロケーションにある JavaScript ソース ファイルは、名前（たとえば MyJavaScriptImpl.js）のみによって参照されます。

- エレメントの messageid 属性 <ValidationRule>

この属性で指定されるメッセージ ID は、リソースバンドル IMSExceptions.properties のエラー メッセージにマッピングされます。

すべてのタイプの検証ルール（Java、JavaScript、JavaScriptFile および正規表現）の定義には、messageid 属性が含まれます。

例: インライン正規表現

以下の例では事前定義済み [電話] パターン検証ルールを示します。これはルールセット [電話] 形式に含まれています。ルールは 正規表現としてインラインで実装されます。

```
<ValidationRule name="Phone pattern" description="+nn nnn-xxx-xxxx"
                messageid="4001">
  <RegularExpression>
    <![CDATA[ ((\+|\d)*+(\s*|\s2D))?\d\d\d-\d\d\d-\d\d\d\d]]>
  </RegularExpression>
</ValidationRule>
<ValidationRuleSet name="Phone format" description=
                  "Verify format +nn nnn-xxx-xxxx">
  <ValidationRule name="Phone pattern" />
</ValidationRuleSet>
```

上記の例で、messageid="4001" は IMSEExceptions.properties の以下の行にマッピングされます。

```
4001=属性の検証: {0} 値が正規表現と一致する必要があります。
                                     nnn-xxx-xxxx.
```

例: JavaScript ファイルの参照

以下の例では、ルール EndWithZ_js が指定されます。このルールは JavaScript で実装されます。また、スクリプトはファイル EndWithZ.js にあります。ルールが含まれるルールセットは、例に示されていません。

```
<ValidationRule name="EndWithZ_js" messageid="custom-5001">
  <JavaScriptFile file="EndWithZ.js" />
</ValidationRule>
```

上記の例で、JavaScript ファイルは以下のデフォルトの場所にあると想定されます。

```
iam_im.ear\custom\validationscripts
```

検証ルール セットと管理対象オブジェクト属性との関連付け

directory.xml ファイルの ImsManagedObjectAttr エレメントで、管理対象オブジェクト属性と検証ルールセットを関連付けます。

以下の例で、検証ルールセット [電話] 形式は管理対象オブジェクト属性 telephonenumber と関連付けられます。

```
<ImsManagedObjectAttr physicalname="telephonenumber" displayname="Business Phone"
description="Business Phone" valuetype="String" required="false"
multivalued="false" maxlength="0" validationruleset="Phone format" />
```

注: 管理対象オブジェクト属性が検証ルールセットと関連付けられるとき、ルールセット名は管理コンソールの [属性プロパティ] 画面で表示されます。

検証ルール セットとタスク画面フィールドとの関連付け

ディレクトリ レベル検証では、以下のように間接的にルールセットとタスク画面フィールドの関連付けを行うことができます。

1. 前のセクションで説明されているとおり、管理対象オブジェクト属性とルールセットを関連付けます。
2. 検証されるタスク画面フィールドは、必ずルールセットに関連付けられた管理対象オブジェクト属性を使用して設定します。実行時に、エンドユーザが入力したフィールド値がルールセットのルールに対して検証されます。

通常、タスク画面フィールドは、すでに属性を使用して設定されています。ただし、タスク画面にフィールドを追加できます。または、フィールドに割り当てられた属性を変更できます。その場合、フィールドへの入力値をディレクトリ レベル検証の対象としたい場合は、directory.xml で適切なルールセットにマッピングされる属性を使用して、フィールドを設定します。

検証の開始方法

実行時には、以下のいずれの方法でも検証が開始されます。

ユーザはタスクをサブミットします。

検証ルールと関連付けられた、サブミットされたタスク画面のフィールドを検証します。

ユーザは別のタスク画面タブに移動します。

検証ルールと関連付けられた、空のタブのフィールドを検証します。

ユーザは、タブ上の[検証]ボタンをクリックします

検証ルールと関連付けられた、現在のタブのフィールドを検証します。

[検証] ボタンによって、検証メソッドを含むロジカルアトリビュートハンドラも実行されます。

ユーザは、[変更時に検証]プロパティが yes であるフィールドの値を変更します。

検証ルールと関連付けられた、現在のタブのフィールドを検証します。

たとえば、[変更時に検証] が [従業員タイプ] フィールドに有効で、フィールド値が [適用] から [適用外] に変更される場合、検証ルールと関連付けられたタブのフィールドはすべて検証されます。あるルールでは [給与] フィールドに値が入力されることが要求され、別のルールでは自動的に [時給] フィールドを 0 に変更する場合があります。

カスタム コードは AttributeCollection にある setAttribute... メソッドまたはタブハンドラを使用して、管理対象オブジェクト属性値を設定します。

管理対象オブジェクト属性を設定して、フィールドが設定されます。

実装のサンプル

JavaScript 検証ルール実装のサンプルは、ユーザがインストールした CA Identity Manager の以下のサンプルディレクトリにあります。

Identity Manager¥samples¥validationscripts

付録 A: デフォルト タブのリスト

CA Identity Manager には、管理タスク用の以下のデフォルト タブが含まれます。

アクセス ロール管理者

現在のアクセス ロールの管理者を追加、表示、または削除できます。

アクセス ロール メンバシップ

現在のアクセス ロールのメンバを追加、表示、または削除できます。

アクセス ロールのプロファイル

アクセス ロールのプロファイルを定義します。

アクセス ロールのタスク

ロールのアクセス タスクを表示したり、アクセス タスクを追加または削除することができます。各種アプリケーションからアクセス タスクを選択できます。

アクセス ロール

選択したユーザのロールの表示、追加、または削除を行うことができます。また、そのユーザの権限を表示できます。

アクセス タスクのプロファイル

アクセス タスクのプロファイルを定義します。

アカウント

プロビジョニング ロールを割り当てたユーザの管理エンドポイントのアカウントが表示されます。通常、このタブは、ユーザを表示または変更できるタスクに追加されます。

アカウント テンプレート

プロビジョニング ロールに関連付けられたアカウント テンプレートを追加、削除、または表示できます。

管理ロールの管理者

現在の管理ロールの管理者を追加、表示、または削除できます。

管理ロール メンバシップ

現在の管理ロールのメンバを追加、表示、または削除できます。

管理ロールのプロファイル

管理タスクのプロファイルを定義します。

管理ロールのタスク

ロールの管理タスクの表示、管理タスクの追加または削除、および異なるカテゴリからの管理タスクの選択を行うことができます。

管理ロール

選択したユーザの管理ロールを表示、追加、または削除できます。また、そのユーザのメンバ権限および管理者権限を表示できます。

管理タスクのプロファイル

管理タスクの [プロファイル] タブを定義します。

管理者

管理ポリシーを追加、編集、または削除できます。

承認者

作業アイテムを承認または拒否できるすべての参加者が表示されます。作業アイテムを割り当て変更することもできます。

タスクの承認

ワーク リスト内の各承認タスクに関する情報が表示されます。

イベントの承認

ワーク リスト内の各承認タスクに関する情報が表示されます。

ユーザの認証

ユーザのロールを認証または取り消すことができます。

現在一致しているポリシー/すでに適用されているポリシー

ユーザの同期化ステータスが表示されます。

イベント

タスクで開始される各イベントのワークフロー プロセスを選択して設定できます。

検索および関連付けを実行

検索および関連付けの定義を選択して実行できます。

[検索および関連付けを実行]プロファイル

検索および関連付けを実行できるエンドポイントに含まれるコンテンツを表示します。

外部タブ(ExternalTab)

タスクのタブ内にある URL のコンテンツが表示されます。

フィールド

タスクに含まれるフィールドが表示されます。フィールドは関連付けられたプロファイル画面で定義された属性です。

グループ管理者

現在のグループの管理者を追加または削除します。

グループメンバシップ

グループメンバのユーザの追加または削除、グループのネストグループの追加または削除を行います。

グループプロファイル

グループのプロファイルを定義または表示できます。

グループ

選択したユーザのグループを表示、追加、または削除できます。また、そのユーザの権限を表示できます。

アイデンティティポリシーセット所有者

所有者ルールを追加できます。所有者ルールは、アイデンティティポリシーセットを変更できるユーザに関するルールです。

アイデンティティポリシーセットプロファイル

アイデンティティポリシーセットのプロファイルを定義します。

JSP

カスタム情報を表示します。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

システムアカウントまたは孤立アカウントの管理

グローバルユーザをシステムアカウントまたは孤立アカウントに割り当てます。

メンバ

メンバポリシーを追加、編集、または削除できます。

組織プロフィール

組織のプロファイルを作成、変更、または表示できます。

所有者

所有者ポリシーを追加、編集、または削除できます。

ポリシー

アイデンティティ ポリシーを作成または変更します。

プロフィール(AdminTaskProfile)

管理タスクのプロファイルを定義できます。

プロフィール(汎用)(ObjectProfile)

任意の管理対象オブジェクトのプロファイルを定義できます。

プロビジョニング ロールの管理者

現在のプロビジョニング ロールの管理者を追加、表示、または削除できます。

プロビジョニング ロール メンバシップ

現在のプロビジョニング ロールのメンバを追加、表示、または削除できます。

プロビジョニング ロール プロファイル

プロビジョニング ロール プロファイルを定義します。

[反復]タブ

検索と関連付けのアクションが発生したときのスケジュールを制御します。

スコープ(TaskScope)

タスクのスコープを制限できます。タスクにプライマリ オブジェクトがない場合、またはアクションが自己修正、自己表示、または承認である場合は、[検索] タブは表示されません。

スケジュール

今後の日付を指定してタスクの実行を自動化できます。

同期サマリ

ユーザの同期化ステータスが表示されます。

タブ (TaskTab)

タスク内のタブの表示方法を決定するタブ コントローラを選択できます。また、タスクに含まれるタブを表示、追加、または削除できます。

ユーザ履歴

ユーザが開始、承認、および実行したすべてのタスクの履歴が表示されます。

ワークリスト

タスクを承認する権限を持つ参加者の CA Identity Manager ユーザ コンソールに表示される作業アイテム（または承認タスク）のリストが表示されます。

ユーザのプロファイル

ユーザのプロファイルを定義または表示します。

このタブには、ユーザ オブジェクトに固有のパスワード変更について別個のイベントを生成するなど、その他の機能も含まれます。

付録 B: CA Identity Manager JSP をコンパイルします。

JBoss アプリケーション サーバ上で ユーザ コンソールおよび管理コンソールの生成に使用した CA Identity Manager JSP に変更を加えた後、JSP を再コンパイルして変更を有効にします。

JSP は、`compile_jsp.bat` または `.sh` スクリプトを使用してコンパイルされる必要があります。

`compile_jsp` スクリプトは、JSP のバックアップ コピーを作成した上で、JSP を再コンパイルします。バックアップ コピーは以下のディレクトリにあります。

- ユーザ コンソールでは、`compile_jsp` スクリプトにより以下の場所に `iam/im_jsp_backup` ディレクトリが作成されます。
`iam_im.ear¥user_console.war`
- 管理コンソールでは、`compile_jsp` スクリプトにより以下の場所に `iam/im_jsp_backup` ディレクトリが作成されます。
`iam_im.ear¥management_console.war`

JBoss 環境での JSP リコンパイル方法

1. JBoss アプリケーション サーバが実行中の場合は、終了させます。
2. コマンドプロンプトから、`jboss_home¥bin` に移動します。`jboss_home` は JBoss アプリケーション サーバのインストール場所です。
3. 以下のいずれかのスクリプトを実行します。
 - **Windows:** `compile_jsp.bat`
 - **UNIX:** `compile_jsp.sh`
4. JBoss アプリケーション サーバを起動します。